

# 平成29年度

## 教育学部 講義計画と内容

[目次]

基礎教育学専修 基礎教育学コース

教育社会科学専修

教育社会科学専修 比較教育社会学コース

教育社会科学専修 教育実践・政策学コース

心身発達科学専修

心身発達科学専修 教育心理学コース

心身発達科学専修 身体教育学コース

教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目

教職課程科目 (I) 本郷キャンパス

教職課程科目 (II) 駒場キャンパス

※この資料は UT-mate の簡易版です。

※UT-mate と情報が食い違う場合は、UT-mate を是としてください。

科目番号	0991101	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	月(Mon)3 [13:00-14:45]
講義題目	教育哲学概説(教育思想論) Introduction to Philosophy of Education				

授業の目的・概要	人は自分自身と環境との相互作用のなかで自らを変え、また自らが変わっていくなかで環境にはたらきかけて文化を生み出し、そして自己と環境との関係性を変容させていく。「ビルドゥング」という概念は、人が<人間>になるそのような変容およびその過程において得られたものの総体を一語のうちに内包している。本授業では、ビルドゥング、そしてアーキテクチャをキーワードとして、文化を介した人間と環境とのそのような力動的な相互作用の特徴について、歴史的な文脈も押さえつつ解説する。同時に、今日の時代状況を踏まえたうえで、アーキテクチャという観点から現代における教育の問題を捉えることの可能性と課題について検討を行う。本授業を通じて、(1)教育哲学・思想論の基礎知識を身につけることができる。(2)そのような基礎知識を踏まえたうえで歴史のおよび今日的な教育問題を論じることができる。(3)以上のことに基づいて、さまざまな立場にある論者とのコミュニケーションにおいて教育に関する批判的省察を行うことができる。
授業計画	1 本授業のキーワードと概要 2 教育としてのアーキテクチャ(1)――都市空間と人間形成の思想 3 教育としてのアーキテクチャ(2)――<田園>の創造と人間形成 4 アーキテクチャとたわむれる子どもたち(1)――<タムロ>問題から考える 5 アーキテクチャとたわむれる子どもたち(2)――電子空間の拡張と人間形成 6 アーキテクチャと学校教育(1)――学校空間の基本構造とその歴史 7 アーキテクチャと学校教育(2)――開放型学校空間のバリエーション 8 アーキテクチャと学校教育(3)――今日の学校における空間・身体・教育 9 アーキテクチャとしての教育(1)――授業における構造的なるもの 10 アーキテクチャとしての教育(2)――構造をくずす(「命の教育」) 11 アーキテクチャとしての教育(3)――構造と暴力(教育的関係論) 12 アーキテクチャとしての教育(4)――構造と暴力(いじめ) 13 アーキテクチャと人間形成――想起文化論における空間問題と教育 14 アーキテクチャ消失と人間形成――「野生の少年」を再考する 15 本授業のまとめ
授業の方法	教科書の内容を基盤にしつつも、教育に関する多様な事例をとりあげて、人間と文化との力動的な関係性とそこに介入する試みとしての教育の問題について考える。各授業時間における導入部分では、授業担当者がその回のテーマおよび問題視角を提示する(30分)。具体的な事例が紹介された後(30分)、再び授業担当者が解説を試みる(30分)。授業の内容について受講生はリアクションペーパーを作成する(15分)。次回の授業冒頭で受講生の感想が紹介され、そして次のテーマへの導入へと続く。
成績評価方法	平常点(毎時のリアクションペーパー、授業時の参加姿勢)と期末レポートの総合的評価(前者 5割、後者 5割)とする。
教科書	山名淳『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房、2015年
参考書	授業中に適宜提示する。
履修上の注意・備考	特になし。受講生の積極的な参加を求める。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2参照

科目番号	0991102	担当教員	山内 紀幸		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	西洋教育史概説 Introduction to Western Educational History				

授業の目的・概要	<p>私たちにとって当然のようにある教育制度を相対化する意味でも、これからの教育の在り方を議論する上でも、教育がいかにあったのかを問うことは不可欠である。教育の歴史的な検証は、教育の現在と未来を問うことでもあるのだ。本講義では、教職教養として西洋教育史の知識習得にとどまらず、当時の人々の営みと現代の教育的思惟との関連／断絶を意識しながら、「教育とは何か」という問題を探究していきたい。そのため講義では、これまでの通史としての西洋教育史の在り方に拘らず、教育思想史、社会史、文化史、比較文化論、建築史などの研究蓄積を参照しながら、当時の教育と子どものリアリティーに迫っていききたいと考えている。</p>
授業計画	<p>1. 教育とはなにか 2. 人類史からみた教育 3. 古代ギリシャ・ローマの教育 4. 中世ヨーロッパの教育 5. 18 世紀・19 世紀の教育思想 6. 近代教育制度と教育方法 7. 20 世紀の新教育思想 8. 西洋絵画にみる子ども 9. 優生学と教育 10. ケア の 概念 史 11. 子育て の 社会 史 12. 教育 思想 の 現在 13. まとめ</p>
授業の方法	講義による。
成績評価方法	小レポート(20%)と課題レポート(80%)による。課題レポートは必須。
教科書	なし。適宜資料を配布する。
参考書	藤川信夫編著『教育学における優生思想の展開：歴史と展望』勉誠出版、2008 年 田中智志・橋本美保編著『大正新教育の思想：生命の躍動』東信堂、2015 年 山内紀幸編著『教育課程論』一藝社、2013 年
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)外国史 (地)外国史

科目番号	0991103	担当教員	田中 智志		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	火(Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	教育臨床学概説 Introduction to Clinical Approach to Education				

授業の目的・概要	この講義では、教育臨床学の基本的な考え方、基礎概念を説明する。教育臨床学(ないし臨床教育学)は、1980年代に誕生した新しい教育学の領域である。その基本的な考え方は、論者によって異なるが、大まかにいえば、教育という営みを、客体化された「子どもたち」にかんする事象、「教室」における事象と見なすのではなく、この社会に生きている私たちの生の現実を、とりわけ社会構造・社会思潮の反映、それらとの矛盾、葛藤と見なすことであり、そのなかでよりよく生きるための方途を探る営みと考えることである。教育臨床学はまた、教育という営みを、人が人として生きるうえで編み出した知恵をのちの世代に伝える営みであると見なし、その伝えるべき知恵とは何か、なぜその伝承がうまくいかないのか、問う。この問いに答えるために用いる言葉が、思想、主体、弱さの力、愛、希望、生、歓待、贈与、関係性、固有性(かけがえのなさ)といった教育臨床学の基礎概念である。
授業計画	第1講 教育に思想は要るか? 第2講 問題と問いの違い 第3講 責任と応答可能性の違い 第4講 感情と心情の違い 第5講 ものとことの違い 第6講 空想と想像の違い 第7講 何が「主体」と呼ばれるのか 第8講 何が「力」と呼ばれるのか 第9講 何が「愛」と呼ばれるのか 第10講 何が「希望」と呼ばれるのか 第12講 何が「生」と呼ばれるのか 第13講 共存と超越性の教育思想 第14講 教育臨床学 第15講 まとめと最終レポート
授業の方法	講義とともに、毎回、授業の後半に、受講者との質疑応答の時間を設ける。
成績評価方法	毎回の授業における質疑応答の内容と、最終週に提出を求めるレポートによって、行う。出席を重視する。
教科書	田中智志『教育臨床学』高陵社書店、2012年。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0991301	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	月(Mon)2 [10:25-12:10]
講義題目	戦後教育史演習 Seminar in Japanese Educational History after the World War II				

授業の目的・概要	<p>日本教育史研究に必要な研究能力、基礎的教養を獲得することを目指している。具体的な題材としては、日本の戦後教育の転換期である1970年代に焦点をあてて検討をおこなう。当該時期は、非行・校内暴力・いじめ・不登校など様々な教育問題が発生した時期であった。その背景には、産業構造の転換・家庭生活の変化をはじめとする社会の変動があった。さらにこの時期は、杉本判决をきっかけとして、「学習権」に関する思想が浸透しはじめた時期にもあたっている。昨年度のゼミの成果を引き継ぎ、グループワークにおいて個別テーマの追求を行うことを課題とする。またテーマは昨年度と同じだが、講読する文献やグループの追求主題は別のものとする。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション(総論1:ゼミでつきたい学力と教育史の研究法) 第2回:昨年度のゼミの成果の報告 第3回:グループ分け(関心により4つに分ける) &lt;共通文献講読1&gt; 第4回:先行研究の整理 1(片桐芳雄・木村元『教育から見る日本の社会と歴史』、八千代出版、2008年)・グループワーク 第5回:先行研究の整理 2(中西新太郎『思春期の危機を生きる子どもたち』はるか書房、2001年)・グループワーク 第6回:先行研究の整理 3(広田照幸『学校像の変容とく教育問題』、『岩波講座 現代の教育』第二巻、岩波書店、1998年)・グループワーク &lt;グループ発表&gt; 第7回:グループによる中間発表1・2 第8回:グループによる中間発表3・4 &lt;共通文献講読2&gt; 第9回:文献講読とグループワーク(文献についてはグループワークとの関係で設定する) 第10回:文献講読とグループワーク(同上) &lt;グループ成果発表&gt; 第11回:グループ発表1 第12回:グループ発表2 第13回:グループ発表3 第14回:グループ発表4 第15回:まとめ</p>
授業の方法	<p>集団での討議により教育を多面的に見て考える力、議論する力、論点を整理し仮説を構築する力の形成を目指したいと思います。なお、適宜、学校見学を行い、現在の学校教育が抱える問題についての共通した認識を形成する。</p>
成績評価方法	<p>基本的に発表の質によって評価する。1文献を十分に読み込み論点を整理できているか 2周辺の文献、先行研究を踏まえているか 3発表回までのゼミの流れを踏まえた発表になっているか 4新たな視点の提示をなし得ているかなお、3分の2以上の出席をもって単位認定の最低要件とする。</p>
教科書	<p>共通文献については、前週までに原則としてPDFファイルにて共有する。</p>
参考書	
履修上の注意・備考	<p>1回目に発表の順番を含め履修方法について説明するので極力欠席しないこと。演習での積極的な発言・参加を求めている。なお、皆さんの大学生活で考えると、ゼミでの協働的学習への参加は、非常に重要な機会となるはずで。その意味において、楽しく、知的に充実した半期のゼミをつくりたいと思います。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0991302	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	価値と教育Ⅱ Seminar in Values and Education Ⅱ				

授業の目的・概要	「現代社会におけるシティズンシップ教育」をテーマに、以下の英語文献(教科書)を講読することで、英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代社会におけるシティズンシップ教育に関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授業計画	1. オリエンテーション 2. Citizenship and active participation: Introduction 精読 3. Citizenship and active participation: Worthy acts、 coercion and active participation 精読 4. Citizenship and active participation: Task 12.1 (社会の変化) ディスカッション 5. Citizenship and active participation: Preparation and planning 精読 6. 研究報告会 7. Citizenship and active participation: Task 12.2(授業案と問い) ディスカッション 8. Citizenship and active participation: Active participation in school 精読 9. Citizenship and active participation: Task 12.3(学校での参加の機会) ディスカッション 10. Citizenship and active participation: Active participation in wider communities 精読 11. Citizenship and active participation: Task 12.4(社会での参加の機会) ディスカッション 12. Citizenship and active participation: Ensuring reflection and evaluation と Summary 精読 13. 研究報告会とまとめ
授業の方法	英語文献の講読を基本とする。具体的には、訳読による精読と内容についてのディスカッションを行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。
成績評価方法	毎回提出するコメントカードとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。
教科書	Ralph Leighton (2015) Citizenship and active participation、 in: Liam Gearon ed. (2015) Learning to Teach Citizenship in the Secondary School: A Companion to School Experience、 3rd edition (London: Routledge).
参考書	安達智史(2013)『リベラル・ナショナリズムと多文化主義—イギリスの社会統合とムスリム』勁草書房。 唐木清志(2010)『アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング』東信堂。 北山夕華(2014)『英国のシティズンシップ教育: 社会的包摂の試み』早稲田大学出版部。 戸田山和久(2012)『新版 論文の教室: レポートから卒論まで』NHK 出版。 長沼豊・大久保正弘編(2012)『社会を変える教育 Citizenship Education ~英国のシティズンシップ教育とクリック・レポートから~』キーステージ 21。 日英教育学会編(2017)『英国の教育』東信堂。 日本シティズンシップ教育フォーラム編(2015)『シティズンシップ教育で創る学校の未来』東洋館出版社。 武藤孝典・新井浅浩編(2007)『ヨーロッパの学校における市民的社会的教育の発展—イギリス・ドイツ・フランス—』東信堂。 DfE (2013) The Secondary National Curriculum in England: Key Stages 3 and 4 Framework Document (Romsey: Shurville Publishing). Ikeno、 N. ed.(2011) Citizenship Education in Japan (London: Continuum). Jerome、 L. (2012) England's Citizenship Education Experiment: State、 School and Student Perspectives (London: Bloomsbury). Mason、 C. (2012) The civic engagement of young people living in areas of socio-economic disadvantage、 in: J. Arthur & H. Cremin eds. (2012) Debates in Citizenship Education (London: Routledge). QCA (1998) Education for Citizenship and the Teaching of Democracy in Schools: Final Report of the Advisory Group on Citizenship (The Crick Report) (London: QCA). QCA (1999) The National Curriculum: Handbook for Secondary Teachers in England. Key Stages 3 & 4 (London: DfEE & QCA). QCA (2007) The National Curriculum: Statutory Requirements for Key Stages 3 and 4 (London: DfCSF & QCA). その他、講義において指示する。
履修上の注意・備考	正当な理由があつて欠席する人は配慮するので、A5(A4の半分)の紙に所属、学籍番号氏名、(欠席する)日付と授業の回数(第何回目の授業か)、欠席理由を書いて提出すること(様式自由、事後でもよい)。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0991303	担当教員	田中 智志		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	火(Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	教育文化論演習 Seminar in Education and Culture				

授業の目的・概要	この演習では、「教育臨床学概説」を踏まえつつ、自律性、関係性、固有性(かけがえのなさ)、無条件の愛、弱さの力、交感、共鳴共振などの教育臨床学の基礎概念について、現代の社会状況を踏まえつつ、具体的な教育問題・生育問題を取りあげながら、その理解を深めることをめざす。
授業計画	第1回 教育臨床学の目的 第2回 教育臨床学の方法 第3回 教育臨床学の概念 第4回 臨床哲学の主題1——自律性と関係性 第5回 臨床哲学の主題2——関係性と固有性 第6回 臨床哲学の主題3——機能性と有用性 第7回 臨床哲学の主題4——力の概念 第8回 臨床哲学の主題5——弱さの力 第9回 臨床哲学の主題6——呼び声 第10回 臨床哲学の主題7——愛の概念 第11回 臨床哲学の主題8——思議を超える出来 第12回 教育の関係性1——無条件の愛 第13回 教育の関係性2——交感の概念 第14回 教育の関係性3——共感を可能にする交感 第15回 演習のまとめと最終レポート
授業の方法	授業は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。たとえば、少年犯罪の生育歴にかんする事例分析も、授業における子どもの発話分析も可能である。デューイについての考察も、デリダについての考察も可能である。内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。
成績評価方法	毎回の各人の発表の内容、議論における各人の発言内容から、総合的に評価する。出席を重視する。
教科書	テキストはとくに定めませんが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0991304	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2	学 期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時 限	金(Fri)3 [13:00-14:45]
講義題目	教育政治学演習 Seminar in Politics of Education				

授業の目的・概要	<p>教育思想・教育人間学の基本的な研究方法を学び、討論を取り入れた演習(ゼミ)形式で、教育についての問題意識を養う。特に、文献の読解と、学術的なプレゼンテーション(レポートや論文の作成)について訓練を積めるようにしたい。また、英語文献の読解にも習熟できるようにしたい。ここ数年は、「あまちゃん」(宮藤官九郎作)、映画「ハンナ・アレント」(マルガレーテ・フォン・トロッタ監督)、「桐島、部活やめるってよ」等を素材としてきたが、本年度はこれらに加えて、「何者」(朝井リョウ)や「君の名は。」(新海誠)なども検討素材に加えて、18歳選挙権の成立を視野に入れた政治と教育の関係の再考、可能世界としての学校の条件の検討を行っていく。そして、現代社会における専門家と市民の関係と、その条件となるシティズンシップ教育の在り方について考えていきたい。以上を通して、現代の教育問題に理論的・思想的にアプローチする方法について議論をし、参加者各人の研究関心につなげていきたい。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンスと自己紹介 2 論文、研究レポートの書き方の説明 3～5 映画や映像素材を用いながら、18歳選挙権の成立、専門家と市民、アマチュアリズムの問題を考える。 6～10 小玉重夫『難民と市民の間でーハンナ・アレント『人間の条件』を読み直す』(現代書館)を購読しながら、18歳選挙権の時代における政治と教育の関係を深く考える。 11～14 上記文献購読をふまえて、各人の関心に応じて文献を選択し、発表しつつ議論する。 15 全体のまとめ</p>
授業の方法	<p>演習(文献購読と討論)を中心とする。参加者は、授業に出席して討論に参加し、また、自分の担当箇所について報告を行うことが求められる。</p>
成績評価方法	<p>レポートと平常点。</p>
教科書	<p>上記シラバスに記載されている文献。参加者にはこちらで準備をして、配布するようにする。</p>
参考書	<p>授業中に随時紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>初回の授業でガイダンスと担当決めを行うので、履修希望者は必ず出席すること。 このゼミでは特に、以下の点を重視したい。(1)教育問題を理論的、思想的に考える能力を身につける。(2)教育思想を広く現代思想との関係をふまえて考えるための基礎知識を得、問題関心を養う。(3)外国語の文献を用いて研究論文を書けるための基礎を身につける。</p>
教育職員免許法上の認定科目	



科目番号	0991401	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	道徳と教育 Morality and Education				

授業の目的・概要	道徳教育に関する近年の動向及び理論・歴史・実践についての知識・理解や、人間の道徳性についての近年の研究への知識・理解を得るとともに、道徳教育の授業を実践し、批評する能力を身につけ、現代の道徳と教育に関わる問題について(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目的とする。
授業計画	1. オリエンテーション、道徳の学習指導案の実例と作成のポイント 2. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」 3. 道徳教育の基本とよくある問題点 4. 日常生活における道徳 5. 学習指導要領における道徳教育の目標としての道徳性 6. 道徳性は生得的なものか？ 7. 道徳(性)はいかにして変化するのか 8. 道徳教育に関する歴史と今日の状況 9. モラルジレンマを用いた道徳教育 10. 問題解決型の道徳教育 11. モラルスキルを育成する道徳教育 12. いじめと参加体験型の人権教育 13. エンカウンターと価値の明確化による道徳教育
授業の方法	講義による。ただし、できる限りワークショップ形式を取り入れ、(アイスブレイクやエンカウンターなどを活用した)参加体験型学習を体験してもらう予定である。また、模擬授業を実施し、相互批評を行うことも予定している。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシート、期末レポート及び授業中の発表を合わせて総合的に評価する。期末レポートは二つをまとめた形での提出を求める予定である。一つは授業で扱った事柄をテーマに 4,000 字程度で論じたものとする。もう一つは、道徳の学習指導案を提出してもらう予定である。
教科書	文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。文部科学省(2015)『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(2016)『「特別の教科道徳」の指導方法・評価等について』(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。道徳教育の充実に関する懇談会(2013)『今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～』(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。中央教育審議会(2014)『道徳に係る教育課程の改善等について(答申)』(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。中央教育審議会(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。
参考書	荒木紀幸監修(2015)『モラルジレンマ教材とする白熱討論の道徳授業—中学校・高等学校編』明治図書。尾高正浩(2006)『「価値の明確化」の授業実践』明治図書。中戸義雄・岡部美香編著(2005)『道徳教育の可能性—その理論と実践』ナカニシヤ出版。林泰成編(2011)『中学校 道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラルスキルトレーニングプログラム』明治図書。ポール・ブルーム(2015)『ジャスト・ベイビー—赤ちゃんが教えてくれる善悪の起源』NTT 出版。柳沼良太他(2016)『中学校 問題解決的な学習で創る道徳授業パーフェクトガイド』明治図書。ヨーロッパ評議会(2006)『人権教育のためのコンパス[羅針盤]—学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル』明石書店。ヨーロッパ評議会(2009)『コンパスシート[羅針盤]—子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』人権教育啓発推進センター。渡邊満他編(2016)『シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 1 「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育』北大路書房。その他、講義において指示する。
履修上の注意・備考	正当な理由があつて欠席する人は配慮するので、A5(A4の半分)の紙に所属、学籍番号氏名、(欠席する)日付と授業の回数(第何回目の授業か)、欠席理由を書いて提出すること(様式自由、事後でもよい)。また、教科書の文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 道徳編』については、できる限り事前に冊子体を購入の上、授業時に持参すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照  教科又は教職に関する科目

科目番号	0991402	担当教員	上野 正道		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	水(Wed)2 [10:25-12:10]
講義題目	比較教育思想 Comparison of Educational Thought				

授業の目的・概要	グローバル化や高度情報化、多文化社会化が進む現在、公教育は大きな転換点を迎えている。学校では、探究的思考、協働的思考、批判的思考、社会参加、社会実践力、問題解決、コミュニケーションなど、高度な知識や実践力を備えた市民形成が求められる一方で、子どもを取りまく環境は、格差や貧困の拡大、家庭の危機など様々な課題と困難にも直面している。この授業では、欧米と東アジアの民主主義と公教育の主題を比較思想的な観点から検討する。具体的には、アメリカのプラグマティズムの教育思想と、ヨーロッパと東アジアにおけるその受容を明らかにする。そのことを通して、公教育とは何か、これからの学校をどう構想するのかについて考えていくことにしたい。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 民主主義と教育(1) 第3回 民主主義と教育(2) 第4回 民主主義と教育(3) 第5回 プラグマティズムの思想(1) 第6回 プラグマティズムの思想(2) 第7回 アメリカの公教育思想(1) 第8回 アメリカの公教育思想(2) 第9回 ヨーロッパの民主主義と教育(1) 第10回 ヨーロッパの民主主義と教育(2) 第11回 東アジアの民主主義と教育(1) 第12回 東アジアの民主主義と教育(2) 第13回 まとめ
授業の方法	講義と発表とディスカッション
成績評価方法	平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)
教科書	特になし
参考書	上野正道『民主主義への教育——学びのシニシズムを超えて』東京大学出版会、2013年 ガート・ビースタ『民主主義を学習する——教育・生涯学習・シティズンシップ』勁草書房、2014年
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0991403	担当教員	能智 正博、下山 晴彦、野崎 大地、星加 良司、東郷 史治、		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	金(Fri)5 [16:50-18:35]
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：「バリア」の認識論(星加) 第3回：社会現象としての障害(星加) 第4回：障害によって明らかにされた脳の働き(野崎) 第5回：障害を科学の力で克服する試み(野崎) 第6回：障害者の語り(能智) 第7回：当事者研究の可能性(熊谷) 第8回：3・11の問題系と障害(仁平) 第9回：(調整中)(小国) 第10回：うつ病からの回復とバリアフリー(下山) 第11回：教育のバリアフリーとICT利用(近藤) 第12回：日常生活の安全安心と心身の健康(東郷) 第13回：総括
授業の方法	オムニバス形式の講義を行う。
成績評価方法	受講生の積極的な授業参加による貢献を重視する。すなわち討論における課題提起や、随時課されるエッセイ等の提出に基づいて、総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0991501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	月(Mon)1 [08:30-10:15]
講義題目	基礎教育学研究指導 Tutorial in Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	基礎教育学コースの卒業論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。金森が教育哲学・科学思想史、小玉と片山が教育人間学・教育思想、小国が日本教育史、田中が教育臨床学・教育実践論を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授業計画	この授業は集中形態の授業である。履修者は複数回にわたり、自分の卒業論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に自分の研究テーマに関連する教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての体系的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員全員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 基礎教育学研究指導 オリエンテーション 第2回 卒業論文作成における留意点 第3回 卒業論文作成のためのガイドライン 第4回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 卒業論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告1 第13回 中間報告2 第14回 中間報告3 第15回 中間報告4 第16回 秋季報告1 第17回 秋季報告2 第18回 秋季報告3 第19回 秋季報告4 第20回 最終報告1 第21回 最終報告2 第22回 最終報告3 第23回 最終報告4 第24回 直前指導1 第25回 直前指導2 第26回 直前指導3 第27回 直前指導4 第28回 概要作成1 第29回 概要作成2 第30回 研究指導のまとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
参考書	必要な文献について、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992301	担当教員	山本 清		
単位数	2	学 期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時 限	木(Thu)3 [13:00-14:45]
講義題目	教育社会科学演習 I Seminar in the Education and Social Science I				

授業の目的・概要	教育に関連する政策に関して具体事例・問題に即して分析し議論することにより、学問と実務及び社会との対話を目指す。
授業計画	1.科学技術教育 2.技術と社会の対話 3.イノベーション 4.人工知能 5.公的年金 6.女性労働 7.高齢者と労働 8.人口減少社会 9.東京の都市問題 10.ユニバーサルサービス 11.格差 12.医療 13.財政
授業の方法	報告と討議及び解説により行う。
成績評価方法	講義・演習への参加と報告にもとづき総合評価。
教科書	NIRA 編『日本の課題を読み解く わたしの構想 I 』(時事通信社、2016)
参考書	その都度指示します。
履修上の注意・備考	発表者を決めて報告・討議をします。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992302	担当教員	両角 亜希子		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	火(Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	教育社会科学演習 II Seminar in the Education and Social Science II				

授業の目的・概要	学生の皆さんにとって最も身近な組織である大学について基本的な知識を学び、その理解を深めることがこの授業の目的である。また、今後の大学での学びや学生生活を見つけなおす機会にしてみたらと期待している。事前の知識は必要としないので、大学や学生生活に関心を持つ学生の受講を歓迎する。
授業計画	現時点では、下記の内容を考えているが、受講生の関心に応じて、修正する可能性がある。日本の大学をメインに扱うが、諸外国の事情も各テーマで触れる予定である。 1. ガイダンス 2. 大学の誕生と発展 3. 大学の授業料と奨学金 4. 大学の財務構造と補助金の役割 5. 大学入試・高大接続 6. 大学教育の課題 7. 学生の多様化と学習実態 8. 大学と職業の関係 9. 大学のグローバル化 10. 国立大学の経営 11. 私立大学の経営 12. これからの大学と政策 13. 試験
授業の方法	講義を中心とするが、簡単な論文、新聞記事などを読んできてもらい、クラス内で毎回、何らかの形でディスカッションを行う予定である。
成績評価方法	毎回の授業で書いてもらうリアクションペーパー、討論への参加度、試験を 総合的に勘案して評価する。なお、リアクションペーパーは、出席を把握するためのものではない。授業の感想や要望などの意見を率直に書いてもらうことで、できるだけ受講生の関心にあつたよい授業にするためのものである。そのため、成績評価では、加点評価のみに用いる(減点材料にはしない)。
教科書	とくに用いない。
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。なお、大学問題に関心があれば、下記の定期刊行物(雑誌)は参考になる。『IDE 現代の高等教育』『リクルート カレッジマネジメント』
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992303	担当教員	小林 雅之		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	月 (Mon)4 [14:55-16:40]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]
講義題目	教育経済学 Seminar in Economics of Education				

授業の目的・概要	教育の経済的側面に着目して、分析・研究の基礎的な概念を解説するとともに、教育経済学の考え方を踏まえて、必要な分析手法を習得させることが、この演習の目的である。参加者は、授業に参加するとともに、パソコンを用いて、データをもとに基礎的な指標の算出、分析を行う。また、重回帰分析・分散分析・パス解析の統計的技法を実際のデータにより修得する。
授業計画	1 教育の経済分析と政策 2 教育の経済的分析と国際比較(回帰分析) 3 高等教育政策と進学動向 4 教育と経済のクロス分析(クロス表とエラボレーション) 5 重回帰分析と分散分析の技法 6 高等教育進学率の時系列分析(重回帰分析) 7 演習課題の発表ー重回帰分析と分散分析 8 進路選択の分析ーパス解析 9 進学格差と教育費負担問題(ロジスティック回帰分析) 10 高等教育機会の均等のための政策 11 教育の費用便益分析 12 教育投資収益率と進路選択ー収益率の計測 13 不確実性の諸理論(多変量解析) 14 演習課題の発表ー収益率の政策的含意 15 最終試験
授業の方法	講義および演習(課題の発表と討論)
成績評価方法	試験 60 点、課題 40 点、その他発表に追加点
教科書	
参考書	金子元久・小林雅之『教育の政治経済学』放送大学教育振興会 小林雅之『進学格差』ちくま新書 小林雅之『大学進学の世界』東京大学出版会 小林雅之編『教育機会均等への挑戦』東信堂 その他、教育経済学と統計のテキストについては別にリストを配布
履修上の注意・備考	統計ソフトまたはエクセルによる計算を習得していること 統計学や経済学を履修していることが望ましいが、必須要件ではない。統計の基礎と経済学の基本的な考え方を身につけることにより、様々な分野で応用することができる。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992304	担当教員	丸山 英樹		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	持続可能な開発に向けた教育の取り組み Education Policy and Practice for Sustainable Development				

授業の目的・概要	<p>授業の目標： 「持続可能な開発(SD)」の概念、背景、その教育との関係について知ること 教育開発の実態と国際協力の状況について知ること 国際的な学力調査の役割について知ること 自らの関心をもとに、教育政策に関する簡単な提言ができること 授業の概要： 教育に関する国際イニシアチブの目標年であった 2015 年を経て、教育だけでなく、2030 年を達成目標年として包括的な国際目標が、今日、共有されている。国連をはじめとする国際社会は、それまで主に発展途上国の教育状況の改善や社会開発に資する協力体制を取ってきたが、環境破壊・気候変動、グローバル経済、越境を繰り返す人の移動などに代表される課題について、先進国と途上国という二項対立で捉えるのではなく、教育の質保証や各社会における様々な格差に世界共通の課題として着目し、様々な取り組みの必要性を認識するようになった。本講義では、まず、こうした国際的動向を確認し、「持続可能な開発(SD)」概念および背景を確認する。その後、教育が学校教育や社会教育または制度化されていない教育・学習が、SD といかに関係しているかを整理する。学校制度が強固な日本の観点からは、「教育」と呼べないものであっても、その地域や住民にとっては意味の深い学習行為についても触れる。これらを踏まえた上で、教育開発の捉え方と実態および国際協力について議論を展開する。受講生は、自らの経験や関心をもとに、教育の役割・機能を捉え直し、SD に向けた教育について、それぞれの意見をまとめることが期待される。</p>
授業計画	<p>1 導入・評価方法の確認 2 グローバルに共有される課題 3 教育開発と国際協力 4 持続可能な開発(SD)に関する動向と特徴 5 教育政策 6 国際調査 7 多様な教育：途上国 8 多様な教育：先進国 9 日本の教育とESD 10 ユネスコスクール・ネットワーク 11 持続可能な開発目標と教育 12 発表準備 13 受講生による発表と議論 14 受講生による発表と議論 15 総括</p>
授業の方法	集中講義前半は特に講義形式であるが、随時、質疑応答および議論の場を設ける。後半の日程では、議論および各自の発表の機会を用意する。
成績評価方法	講義への出席 30% 講義中の議論への参加 10% 講義中の個人発表 20% レポート 40%
教科書	次の 2 つのサイトを一通り目を通しておくこと。 <a href="http://en.unesco.org/sdgs">http://en.unesco.org/sdgs</a> <a href="http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/">http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/</a> <a href="http://data.unhcr.org/syrianrefugees/regional.php">http://data.unhcr.org/syrianrefugees/regional.php</a> <a href="http://www.oecd.org/pisa/">http://www.oecd.org/pisa/</a> <a href="http://www.oecd.org/edu/education-at-a-glance-19991487.htm">http://www.oecd.org/edu/education-at-a-glance-19991487.htm</a> <a href="https://ec.europa.eu/epale/en">https://ec.europa.eu/epale/en</a>
参考書	(1) 丸山英樹・太田美幸編著(2013)『ノンフォーマル教育の可能性：リアルな生活に根ざす教育へ』新評論、(2) 黒田一雄・横関 祐見子(編) (2005)『国際教育開発論—理論と実践』有斐閣、(3) フレイレ、P.(1979)『被抑圧者の教育学』小沢有作ほか訳、亜紀書房、(4) 田中治彦・杉村美紀共編著(2014)『多文化共生社会における ESD・市民教育』上智大学出版、(5) OECD. (2007). Understanding the Social Outcomes of Learning. (NPO 法人教育テスト研究センター監訳(2008)『学習の社会的成果：健康、市民・社会的関与と社会関係資本』明石書店)、(6) 五島敦子・関口知子編『未来をつくる教育 ESD』明石書店、(7) Rychen D.S. & Salganik, L.H. (2003). Key competencies for a Successful Life and a Well-Functioning Society、Hogrefe & Huber Publishers.ほか随時、紹介する。(8) 丸山英樹(2016)『トランスナショナル移民のノンフォーマル教育』明石書店
履修上の注意・備考	【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認め ていません。8-9 月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。 ※8-9 月集中講義授業日程 <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm</a>
教育職員免許法上の認定科目	



科目番号	0992305	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	月 (Mon)4 [14:55-16:40]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]
講義題目	教育社会学理論演習 Seminar on Theories of the Sociology of Education				

授業の目的・概要	この授業では、古典から最新のものまで(教育)社会学に関わる主な社会学理論についての基本文献を講読することを通じて、(教育)社会的な「ものの考え方」とは何か、それは時代や社会によってどのような拘束性を帯びているか、理論と現実を照らし合わせることによってどのように双方に対して示唆が得られるかを学ぶことを目的とする。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:社会学とは何か 第3回・第4回:デュルケム 第5回・第6回:ジンメル 第7回・第8回:ウェーバー 第9回・第10回:パーソンズ 第11回・第12回:マートン 第13回・第14回:ルーマン 第15回:全体の振り返りとまとめ
授業の方法	各回の指定文献について出席者はあらかじめ講読票を書いて提出する。それに加えて各回の担当者が詳細なレジメを作って発表し、その内容について全員で議論を行う。学期末には特定の理論や概念を取り上げて検討するレポートを執筆する。
成績評価方法	各回の講読票およびレジメと期末レポートを 7:3 の比で評価する。
教科書	佐藤俊樹『社会学の方法—その歴史と構造』ミネルヴァ書房 奥村隆『社会学の歴史 I』有斐閣アルマ
参考書	各回に関する参考文献を前回までに提示する。
履修上の注意・備考	事前に「教育社会学概論」を履修していることが望ましい。社会学史の幹となる「巨人」たちの思考方法をたどることにより、社会学という学問の固有の特性を理解することができる内容であるため、社会学系の大学院への進学を考えている者はもちろん、幅広い社会科学系の学問分野および仕事分野の基礎教養として役立つ。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

科目番号	0992306	担当教員	村上 祐介		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	月 (Mon)3 [13:00-14:45]、木 (Thu)3 [13:00-14:45]
講義題目	<b>教育行政・学校経営演習 I</b> Seminar in Educational Administration and School Management I				

<b>授業の目的・概要</b>	この授業では、2 年次に開講される概論「教育行財政学」のうちの教育行財政分野の範囲を対象に、概論では十分に取上げられなかった発展的な内容やトピックに関して、文献講読を通じてさらなる理解を深めることを目的としている。現代の教育行政をめぐるどのようなことが課題となっており、いかなる点が学術的に論じられているのかを文献講読と討論を通じて検討する。
<b>授業計画</b>	1. 授業に関するガイダンス 2. 国の教育行政・政策過程 3. 教育委員会制度改革 4. 教育行政の政府間関係 5. 教育費負担をめぐる諸問題 6. 教職員の労働と多忙化 7. 教員給与・人事をめぐる改革動向 8. 中間まとめ 9. 教育課程・教育内容行政 10. 幼児教育・子育て支援 11. 教育行政と福祉行政 12. 教育における NPM 改革 13. 授業のまとめ
<b>授業の方法</b>	参加者は事前に課題文献(日本語の著書・論文等、1 回につき 50～100 頁程度)を読み、授業の前日までに担当者に A4 で半分～1 枚程度のコメントを提出する。また、授業では報告者を設定し、その報告(4000 字程度以上)と参加者からのコメントを基に、討論を進めていく。
<b>成績評価方法</b>	毎回提出するコメントと授業への参加度(75%)、報告(25%)の内容により評価を行う。期末試験およびレポートは課さない。コメントは開講回数の 3 分の 2 以上提出、報告は 1 回以上行うことを単位取得の条件とする。欠席した分については、文献の要約とコメント(合計で 4000 字以上)を 1 週間以内に提出することで、3 回までは出席とみなす。
<b>教科書</b>	教科書は特に指定しない。毎回、事前に読むべき課題文献を指定する。
<b>参考書</b>	小川正人・岩永雅也(2015)『日本の教育改革』放送大学教育振興会 小川正人・勝野正章(2016)『教育行政と学校経営(改訂版)』放送大学教育振興会 河野和清編著(2017)『現代教育の制度と行政(改訂版)』福村出版 村上祐介編著(2014)『教育委員会改革5つのポイント』学事出版
<b>履修上の注意・備考</b>	事前に文献を読むことが求められるので、その時間を確保できるようにすることが求められる。 授業に関する情報は担当者の Web サイトにも掲示する。授業計画に取り上げたトピックは変更する可能性がある。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

科目番号	0992307	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	金(Fri)3 [13:00-14:45]、金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	教育行政・学校経営演習 II Seminar in Educational Administration and School Management II				

授業の目的・概要	現代日本(及び諸外国)の教育改革や教育政策、及びその教育に及ぼす影響について、考察を深めることを目的とし、そのために必要な理論や概念の獲得を目指す。今学期は、特に「エビデンスに基づく教育・教育政策」と言われるものについて、その意義・必要性を唱える立場と批判的な立場の両方を検討することを通じて、本授業の目的達成に近づくことを試みる。
授業計画	最初に中室牧子『「学力」の経済学』(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年)をとりあげて、「エビデンスに基づく教育政策・実践」の概略をつかんだ後、その文献のなかで紹介、引用されている研究をはじめ、関連文献(e.g.、赤林英夫ほか編著『学力・心理・家庭環境の経済分析』(有斐閣、2016年))の検討を続けて行う。同時に、ガート・ビースタ=藤井・玉木訳『よい教育とは何か 倫理・政治・民主主義』(白澤社=現代書館、2016年)など、批判的な立場からの論考を検討する。
授業の方法	講義とその内容に関するディスカッションにより進める。
成績評価方法	評価は授業中の発表と最終レポートにより行う。
教科書	中室牧子『「学力」の経済学』(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年) 赤林英夫ほか編著『学力・心理・家庭環境の経済分析』(有斐閣、2016年) ガート・ビースタ=藤井・玉木訳『よい教育とは何か 倫理・政治・民主主義』(白澤社=現代書館、2016年)
参考書	ヘンリー・レヴィン、パトリック・マキューアン=赤林訳『教育の費用効果分析 学校・生徒の教育データを使った政策の評価と立案』(日本評論社、2009年)
履修上の注意・備考	なし なし
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992308	担当教員	李 正連		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	火 (Tue)3 [13:00-14:45]、火 (Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	社会教育学演習 II Seminar in Adult and Lifelong Education II				

授業の目的・概要	日本をはじめ、諸外国の生涯学習の政策や制度、実践についてその現状と課題を検討し、これからの生涯学習のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	第1回 オリエンテーション&生涯学習の国際的動向 第2回 ヨーロッパの生涯学習 第3回 北欧の生涯学習 第4回 北米・南米の生涯学習 第5回 アジアの生涯学習 第6回 日本の生涯学習 第7回 全体のまとめ
授業の方法	指定文献の輪読(発表と討論)を基本とするが、演習内でゲストスピーカーにも適宜参加していただく。なお、履修者は発表以外にも、各回の指定文献についてあらかじめ講読票を書いて提出する。
成績評価方法	演習への参加度、課題(発表と講読表、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する。
教科書	新海英行・松田武雄編著『世界の生涯学習—現状と課題—』大学教育出版、2016年 その他、授業で随時提示する。
参考書	授業で随時紹介する。
履修上の注意・備考	初回の授業では発表の順番や履修方法について説明するので、履修希望者は必ず出席すること。授業での積極的な発言・参加を求める。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992309	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	1	学期	通年 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	金(Fri)6 [18:45-20:30]
講義題目	博物館学特別研究 Special Studies in Museum Activities				

授業の目的・概要	博物館実習について、事前および事後の指導を行う。
授業計画	実習は、事前のオリエンテーション、博物館現場での実習および実習記録の作成と実習報告の執筆、発表によって行われる。
授業の方法	実習先については、こちらで紹介できる博物館・美術館もあるが、自分で希望する館がある場合には自分でコンタクトをとる必要がある。実習期間だけでなく、事前事後の指導を合わせて出席することが求められている。
成績評価方法	総合的な評価
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	<p>・履修するには、原則として前年に、博物館概論(教育学部)、文化施設経営論(文学部)、博物館資料論(文学部)、博物館資料保存論(理学部)、博物館教育論(教育学部)、博物館展示論(文学部)、博物館情報・メディア論(教育学部)のうち最低二つを受講していることが必要であるが、詳細は相談に応じる。</p> <p>オリエンテーションを行うため、授業初回(出席不可能な場合は第二回)に必ず出席すること。不明点等はメールにて問い合わせること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992310	担当教員	小田 光宏		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	木(Thu)2 [10:25-12:10]
講義題目	情報サービス演習 Seminar in Information Service				

授業の目的・概要	<p>■授業の目標:レファレンスサービスの実践に求められる下記のコンピテンス(専門的スキル)を演習を通して修得し、活用できるようにすることが、この授業の到達目標となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンス情報源を評価し、使い分けられるようにすること</li> <li>・レファレンス情報源を作成できるようにすること</li> <li>・情報ニーズに基づいて、レファレンス情報源を的確に使い分け、資料と情報の検索ができるようにすること</li> <li>・情報ニーズを把握するためのレファレンスインタビューを実施できるようにすること</li> </ul> <p>■授業の概要:図書館が提供する「情報サービス」は、レファレンスサービス(reference service)という名前で実践されています。このサービスを提供するためのコンピテンス(専門的スキル:知識、技術、態度)は、図書館員にとって高度かつ専門的なものと位置づけられています。この授業では、レファレンスサービスを効果的に提供するための実践的なコンピテンスを「情報源評価演習」「情報源作成演習」「レファレンスインタビュー演習」「質問回答演習」を通して身に付けることを目指します。</p>
授業計画	<p>おおむね次の内容を、扱う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンスサービスに求められるコンピテンス(知識、技術、態度)の概要</li> <li>・レファレンス情報源の評価に関する演習</li> <li>・レファレンス情報源の作成に関する演習</li> <li>・レファレンスインタビューの実践に関する演習</li> <li>・質問に基づいて情報を検索して回答を提供することに関する演習</li> </ul>
授業の方法	演習形式で進めます。授業は、受講生からの報告が中心となります。
成績評価方法	授業中の報告(100%)によって、成績評価を行います。演習形式で行う関係上、出席回数が6割以上の方のみ、成績評価の対象となります。
教科書	使用しません。
参考書	小田光宏編著『情報サービス論』日本図書館協会、2012年。その他は、適宜、授業中に紹介します。
履修上の注意・備考	演習形式で進めますので、きちんと出席できる方が履修してください。また、授業外に、図書館その他の場で、演習課題に取り組む時間を確保することが必要となります。履修に当たって、ご注意ください。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992311	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	火 (Tue)3 [13:00-14:45]、火 (Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	社会教育学演習 III Seminar in Adult and Lifelong EducationIII				

授業の目的・概要	都市における市民の学習・文化活動の実態はどのようなものか。それが都市の形成とどのように作用しあいながら営まれてきたか。行政はそうした活動をどう支えているか。基本文献の講読、東京都下および近郊の自治体(現在東京都昭島市を予定)のケーススタディ(教育行政職員へのインタビュー、社会教育施設への訪問調査等)をつうじて探る。
授業計画	(1)オリエンテーション、(2)基本文献購読、(3)近郊都市への訪問調査、(4)調査のまとめ作業 からなる。
授業の方法	文献講読とフィールドワークによる。
成績評価方法	出席および授業への参加状況により判断する。
教科書	初回に提示する。
参考書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992401	担当教員	朴澤 泰男		
単位数	2	学期	S2 (2017/06/05-2017/09/20)	時限	火(Tue)2 [10:25-12:10]、金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	教育調査分析法 Quantitative Educational Research Methodology				

授業の目的・概要	教育の社会科学的研究に用いられる社会調査データを分析する際に、必要となる統計学に関して入門的な講義を行う。具体的には、分布と統計量、相関係数、確率論の基礎、サンプリング、推定と検定、クロス集計、回帰分析について概説する。それによって、既存の分析結果の意味を正確に理解し、自分で新たに意味のある計量分析を行うための初歩的な知識を獲得することを目標とする。「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。
授業計画	・イントロダクション ・度数分布表 ・基本統計量 ・相関係数 ・回帰分析 ・確率モデルと統計的推定 ・統計的検定 ・平均値の差の検定 ・クロス集計と独立性の検定 ・多重クロス集計とエラボレーション ・偏相関と重回帰分析 ・回帰モデルの説明力と検定 ・回帰分析の応用 (以上はあくまで予定のため、変更になる場合がある。)
授業の方法	教科書を用いて講義を行う。
成績評価方法	中間試験 40%、期末試験 60% (教育実習と重なり中間試験を受けられない恐れがある場合は、初回の授業で指定する期日までに申し出ること。)
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎——統合的理解のために』(有斐閣、2002年)
参考書	ジョージ・ポーンシュテット&デヴィッド・ノーキ(海野道郎・中村隆監訳)『社会統計学——社会調査のためのデータ分析入門』学生版(ハーベスト社、1990年)、永田靖『統計的方法のしくみ——正しく理解するための30の急所』(日科技連出版社、1996年)、轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第2版]——2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社、2013年)
履修上の注意・備考	「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。「教育社会学調査実習」を履修しない学生が多数、この講義を履修すると見込まれる場合は、受講者数の調整を行う場合がある(詳細は初回の授業で説明する)。 この授業科目は、社会調査士資格取得のための「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」、教職課程の「教科に関する科目(社会学)」にそれぞれ該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学



科目番号	0992402	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	火 (Tue)3 [13:00-14:45]、火 (Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	フィールドワークの理論と実践 Theory and Practice of Fieldwork(Undergraduate)				

授業の目的・概要	エスノグラフィーとは、ある出来事が起こっている現場に入り込み、そこに参加している人々と関わりあいながら、かれらの日常世界の成り立ちを、かれらの視点に立って内側から理解する調査方法のことを指す。参与観察(フィールドワーク)やインタビューが中心となり、質的調査法ともいわれる。この授業ではエスノグラフィーの理論とプロセスについて学び、実際にインタビューや現場のフィールドワーク演習を行いながら、エスノグラフィーの方法論を習得することをめざす。
授業計画	第1回 イントロダクション:エスノグラフィーとは 第2回 エスノグラフィーのプロセスと実例 第3回 エスノグラフィーの文献購読 第4回 調査倫理、調査者のフィールドでの役割と関係性 第5回 インタビュー・ライフストーリーの基礎知識と実践 第6回 インタビューデータの分析 第7回 事例ビデオによる観察の実践 第8回 フィールドノーツの分析 第9回 研究計画の立て方:各自がエスノグラフィー調査の企画を構想する 第10回 学校におけるフィールドワーク実践 第11回 データ分析:コーディングとリサーチクエスションの生成 第12回 学校におけるフィールドワーク実践 第13回 データ分析:カテゴリー化と分析メモの作成 第14回 学校におけるフィールドワーク実践 第15回 エスノグラフィーの書き方
授業の方法	講義、討論、演習を組み合わせで行う。映像を使って観察とフィールドノーツのとりかたの練習をしたり、受講者同士でインタビュー実習を行う。また、学校を訪問して授業を観察することを予定している。収集したデータを使いながら分析の進め方についてレクチャーし、学生が実際にデータ収集—分析—レポート執筆のプロセスを経験する。
成績評価方法	授業期間中の課題提出(3回)50%、最終レポート50%
教科書	小田博志 2010『エスノグラフィー入門—現場を質的研究する』春秋社。 藤田結子・北村文 2013『現代エスノグラフィー:新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社。
参考書	授業中に適宜紹介する
履修上の注意・備考	討論や演習を多く取り入れるため、積極的な参加を求める。また授業内の課題提出は必須とする。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992403	担当教員	岡本 智周		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	歴史教科書問題と戦後日本 History Textbook Issues in Postwar Japan				

授業の目的・概要	教育社会学は、教育に関わる社会事象を対象とし、社会学の視点と方法で研究する学問である。その対象は幅広く設定できるが、本講では歴史教科書問題に着目し、現代社会の構成と変容を理解する。社会が教育を規定すると同時に、教育が社会を作り出しているという、両者の循環的關係を伝達することが、本講のテーマである。ナショナリズム論・共生社会論の学習を通して、教育事象をみる社会学的観点を身につけることを目標とする。
授業計画	[8月29日](参考書)『国民史の変貌』日本評論社 1. なぜ歴史教科書が問題になるのか ①授業の概要、②ネイションを可能にする文化的装置としての歴史教科書、③ネイションの原初主義的把握・近代主義的把握 2. 第1次教科書論争 ①敗戦後の教育改革、②「うれうべき教科書の問題」、③家永教科書訴訟 3. 第2次教科書論争 ①新しい社会科学のターム、②「侵略／進出」問題の顛末、③学校カリキュラムの本質 ・課題図書を紹介 [9月1日](参考書)『歴史教科書にみるアメリカ』学文社 4. 「侵略／進出」問題以後 ①グローバル化と歴史認識、②事例としての日朝関係史、③国民史の枠組みと普遍的価値 5. アメリカ社会の多文化化と教育の変化 ①日米の教科書制度、②1960年代の社会変革、③1980年代からの文化戦争 6. 歴史教科書のなかの「日系アメリカ人」 ①日系移民の歴史、②1988年の市民自由法、③日系人に関する教科書記述の変化 ・課題図書の発表希望のとりまとめ [9月4日](参考書)『共生社会とナショナルヒストリー』勁草書房 7. 「国民社会」の相対化以降の教えと学び ①ポストナショナルヒストリー、②メタナショナルヒストリー、③歴史認識の社会的構築への言及 8. 課題図書『学校教育と国民の形成』(学文社)の検討:発表と討議 9. 教育資源としての共生概念 ①共生を要請する社会的文脈、②1990年代における共生概念の変容、③社会的カテゴリーの更新としての「共生」 [9月7日](参考書)『「ゆとり」批判はどうつくられたのか』太郎次郎社エディタス 10. 「ゆとり教育」言説の再検証 ①学力低下論争と「ゆとり世代」論、②新聞記事にみる「ゆとり」言説の変遷、③カリキュラム政策と経験主義・系統主義 11. 課題図書『共生と希望の教育学』(筑波大学出版会)の検討:発表と討議 12. 課題図書『共生の社会学』(太郎次郎社エディタス)の検討:発表と討議 13. 総括と補遺
授業の方法	講義に加えて、受講者の発表と討論による演習の時間を設ける。
成績評価方法	出席状況、毎回の授業で提出するコメント用紙の内容、課題図書についての発表および討論への参加姿勢を評価対象とし、総合的に判断する。
教科書	岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011年。 宮寺晃夫・平田諭治・岡本智周『学校教育と国民の形成』学文社、2012年。 岡本智周・丹治恭子編『共生の社会学——ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』太郎次郎社エディタス、2016年。
参考書	岡本智周『国民史の変貌——日米歴史教科書とグローバル時代のナショナリズム』日本評論社、2001年。 岡本智周『歴史教科書にみるアメリカ——共生社会への道程』学文社、2008年。 岡本智周『共生社会とナショナルヒストリー——歴史教科書の視点から』勁草書房、2013年。 佐藤博志・岡本智周『「ゆとり」批判はどうつくられたのか——世代論を解きほぐす』太郎次郎社エディタス、2014年。 その他、必要な文献は教場で指示する。関連資料は随時配布する。
履修上の注意・備考	講義のなかで論じられた現象や概念については、自ら調べることが必要となる。講義内容は継続的に進行するので、安易な欠席は認められない。 授業計画は、受講者の数と受講者各人の関心によって変更を行うことがある。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992404	担当教員	小川 義和		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	月 (Mon)1 [08:30-10:15]、月 (Mon)2 [10:25-12:10]
講義題目	博物館教育論 Museum Education				

授業の目的・概要	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。博物館教育について、博物館を利用する人々、博物館、それを取り巻く社会との関係性から考察する。博物館教育の発達とその社会的背景を紹介し、博物館教育の現代的意義を論じていく。特に従来の教育普及にとどまらない博物館教育の範囲、その独自性と学習理論、生涯学習の観点から人材養成の必要性等を概説する。これらの基礎的な知識と理論を踏まえ、変化する社会における博物館教育のあり方について実際に即して考察を深める。さらに具体的な目標論を持って博物館教育活動を企画し、評価するスキルについて演習を通じて身につけさせる。
授業計画	第1回 博物館教育の意義と理念(1)学びの意義 第2回 博物館教育の意義と理念(2)博物館教育の範囲 第3回 博物館教育の意義と理念(3)博物館教育の特徴 第4回 博物館教育の意義と理念(4)博物館教育の歴史 第5回 博物館教育の意義と理念(5)生涯学習の場としての博物館 第6回 博物館教育の意義と理念(6)人材養成の場としての博物館 第7回 博物館教育の意義と理念(7)博物館における学びの特性と学習理論 第8回 博物館教育の意義と理念(8)ミュージアムリテラシーの理念と構成 第9回 変化する社会における博物館教育(1)コミュニケーションとしての博物館教育 第10回 変化する社会における博物館教育(2)博物館の利用実態と利用者の博物館体験 第11回 変化する社会における博物館教育(3)博物館教育の方針と評価 第12回 博物館教育の実際(1)博物館教育活動の手法(館内、館外) 第13回 博物館教育の実際(2)博物館教育活動の企画と実際 第14回 博物館教育の実際(3)博物館教育と学校教育
授業の方法	各回、前半は適宜資料を提示しつつ、テーマに基づく概説を行う。後半は受講生からのテーマに関する質問と議論を行い、教員がまとめる。受講生は問題を整理してテーマに関する報告を提出する。受講生は最終回に課題を提出する。
成績評価方法	講義の出席、各回の提出報告書及び最終課題で判断する。
教科書	
参考書	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編「新時代の博物館学」(芙蓉書房出版, 2012) ジョージ・ハイン著、鷹野光行監訳「博物館で学ぶ」(同成社, 2010)
履修上の注意・備考	受講生が主体的に、自主的に博物館を見学し、多様な博物館の様子を把握することをすすめる。また見学した博物館の現状や課題について講義中に共有するように心がける。なお博物館の見学料金や交通費な自己負担とする。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992405	担当教員	渡邊 あや		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	金(Fri)1 [08:30-10:15]、金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	比較教育行政論—現代北欧の教育改革— Comparative Study of Educational Administration: Focusing on Current Education				

授業の目的・概要	<p>【授業の到達目標】 1) 北欧諸国の教育制度について、類似点と相違点を説明することができる。 2) フィンランドの教育行政制度の特徴について説明することができる。 3) フィンランドとの比較から、日本の教育の特徴を描き出すことができる。 【授業の概要】 本授業は、北欧諸国、主にフィンランドの教育行政制度の概要及び近年の教育改革について学習することを通じて、その特徴を描き出すことを目的とします。フィンランドは、2000年以降、国際学力調査における好成績などにより、国際的な注目を集めています。その結果、フィンランドの教育に関する情報がメディア等を通じて伝えられる機会も増えました。そこで、本授業では、フィンランドの教育をめぐる言説を検証し、これらに対する自分なりの考えを整理することにより、フィンランドの教育行政制度に関する理解を深め、その特徴に迫ります。</p>
授業計画	<p>1. オリエンテーション 2. イントロダクション: 北欧諸国の社会と教育 3. 教育制度(1): フィンランドの教育制度は「非競争的」か? 4. 教育制度(2): ディスカッション 5. 平等と卓越性(1): フィンランドは「学力世界一」の国なのか? 6. 平等と卓越性(2): ディスカッション 7. 教職員の養成・研修・職務(1): フィンランドの教師の質は高いのか? 8. 教職員の養成・研修・職務(2): ディスカッション 9. 教育課程行政(1): 教育課程基準は大綱的であるのか? 10. 教育課程行政(2): ディスカッション 11. 教育行政機関(1): 現場に近いところに教育提供に関わる権限が委譲されているのか? 12. 教育行政機関(2): ディスカッション 13. 教育財政(1): 義務教育費の一般財源化は教育格差を拡大するのか? 14. 教育財政(2): ディスカッション 15. 総括</p>
授業の方法	講義を基本としますが、適宜、ペアワーク、グループ・ディスカッション、ディベートも実施します。
成績評価方法	平常点(70%)＋レポート(30%)を基本とし、総合的に評価します。 ※平常点は、授業への貢献度及び各種成果物における取組状況を含むものです。
教科書	特に指定しません
参考書	授業で適宜紹介します
履修上の注意・備考	<p>日本の教育行政制度の基本的事項を理解した上で授業に参加されることを期待します(授業と並行して学習していたく形でも結構です)。 授業で扱うテーマに関する日本またはフィンランド以外の国の状況を、予習として把握しておくようにしてください。</p> <p>担当教員は非常勤ですので、質問等は可能な限り授業時間内、あるいはその前後に行ってください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992406	担当教員	藤原 章夫		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	月(Mon)1 [08:30-10:15]
講義題目	<b>教育法</b> Educational Law				

<b>授業の目的・概要</b>	我が国の教育関係法令の体系及びその改革の動向を学び、教育法の構造を理解するとともに、新しい教育制度の在り方を考察していく上での基礎を養うことを目標とする。このため、教育関係法令の全体像を俯瞰しながら、最新の教育政策や立法の動向を示し、我が国の教育が直面している課題を踏まえた今後の教育制度の方向性について討議を行う。
<b>授業計画</b>	第1回 ガイダンス 第2回 教育関係法令の体系 第3回 教育基本法 第4回 学校教育法及び学習指導要領(含:学カテスト) 第5回 地方教育行政制度(教育委員会制度の改革等) 第6回 義務教育費国庫負担制度及び県費負担教職員制度 第7回 教職員定数の改善及び教員の給与制度 第8回 教育公務員制度 第9回 教員養成の在り方(教員免許制度、教職大学院制度等) 第10回 教科書検定制度 第11回 生徒指導(いじめ防止対策推進法、不登校支援等) 第12回 学校・家庭・地域の連携及び経済的支援制度 第13回 大学制度(含:国立大学法人制度) 第14回 大学院制度(含:専門職大学院) 第15回 社会教育法その他の生涯学習関連制度
<b>授業の方法</b>	講義形式
<b>成績評価方法</b>	筆記試験(75%)、出席点及び授業中の議論への貢献度並びにレポート(25%)に基づいて評価。
<b>教科書</b>	「教育法講義」(悠光堂。尾崎春樹著) そのほか講師において最新資料を準備
<b>参考書</b>	講師において参考資料を準備
<b>履修上の注意・備考</b>	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)法律学 (公)法律学(国際法を含む)

科目番号	0992407	担当教員	村上 祐介		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	月 (Mon)4 [14:55-16:40]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]
講義題目	教育政策研究方法論 Research Design and Methods of Education Policy Studies				

授業の目的・概要	この授業では、(1)教育政策研究における実証的な研究方法の基礎を習得したうえで、それを用いて、(2)計量分析や事例分析を用いた学術論文を理解できるようにすること、加えて、(3)実際に計量分析や事例分析の研究デザインを設計できるようになることをその目的とする。教育政策研究には様々なアプローチがありうるが、実証的な研究手法を用いて因果関係やそれが生じるプロセスを明らかにすることは有力な方法の一つである。その際、方法論的に適切な研究デザインに基づいた分析を行うことが重要である。この授業では計量分析・事例分析の両方について、実証的な研究を行うための基本的な考え方を、実際の論文を取り上げながら学ぶ。その後、グループ・ワークにより、研究の問いと仮説、その検証方法といった調査研究のデザインを設計し、発表する。
授業計画	※内容は初学者向けであるが、受講生の予備知識の水準に応じて、予定を変更する可能性もある。 1. この授業で何をどこまで学ぶのか(ガイダンス) 2. リサーチ・デザインの方法 3. 2つの変数間の関係(2変量解析) 4. 重回帰分析(多変量解析) 5. ロジスティック回帰分析 6. 事例分析による因果推論(少数事例・単一事例) 7. グループ・ワーク(1) 8. グループ・ワーク(2) 9. 中間発表 10. グループ・ワーク(3) 11. グループ・ワーク(4) 12. 最終プレゼンテーション(1) 13. 最終プレゼンテーション(2)
授業の方法	前半は、指定された文献をあらかじめ読んでいることを前提として、講義と討論を組み合わせながら授業を進める。後半は、グループごとに実際に調査研究デザインを設計し発表する。
成績評価方法	授業への参加度(グループ・ワークおよび中間発表、最終プレゼンテーションを含む)と、受講者個人で作成する期末レポートにより評価を行う。期末レポートは、参加者個人で調査研究デザインを設計し、問いと仮説、検証方法を含む研究計画書を作成する。
教科書	特に用いない。
参考書	伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門』東京大学出版会 加藤淳子・境家史郎・山本健太郎(2014)『政治学の方法』有斐閣 久米郁男(2013)『原因を推論する』有斐閣 永吉希久子(2016)『行動科学の統計学』共立出版 菅民郎(2016)『Excel で学ぶ統計解析入門 Excel2016/2013 対応版』オーム社 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会 石黒格(2008)『Stata による社会調査データの分析』北大路書房 浅野正彦・矢内勇生(2013)『Stata による計量政治学』オーム社 高根正昭(1979)『創造の方法学』講談社 その他の参考書は初回の授業時に指示する。
履修上の注意・備考	授業に関する情報は担当者の Web サイトにも掲示する。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992408	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	火 (Tue)3 [13:00-14:45]、火 (Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	日本の教育実践史 History of Education in Modern Japan				

授業の目的・概要	明治以降の学校の歴史を、授業・教育実践とその変革に着目して考察することを目指す。
授業計画	1 オリエンテーション 2 学校と一斉授業の成立 3 学級の成立 4 教科書とその国定化 5 植民地教育と国語 6 新教育の教育改革 7 個性化と授業の改革 8 総力戦体制下の教育 9 教育の民主化 10 戦後新教育とその批判 11 生活綴方と教育科学 12 教育の現代化 13 学校改革の系譜
授業の方法	講義とディスカッションによる
成績評価方法	出席とレポート
教科書	特になし。
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)日本史 (地)日本史

科目番号	0992409	担当教員	山内 祐平		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	火(Tue)3 [13:00-14:45]
講義題目	学習環境のデザイン Design of Learning Environment				

授業の目的・概要	空間・活動・共同体・人工物の4つの視点から学習環境のデザインについて考察する。本年度はデジタル教材、オンライン学習、ワークショップ、サイエンスカフェ、アクティブラーニングスタジオなどのデザインについて、事例研究を通じて検討する。
授業計画	1) オリエンテーション 2) 学習環境デザイン論: 研究の概説 3) 初等中等教育での展開: Khan Academy 4) 高等教育での展開: MIT TEAL 5) 幼児教育での展開: Kits 6) オープンエデュケーション: Coursera 7) ソーシャルラーニング: Socla 8) シリアスゲーム: Minecraft 9) 構築主義的学習環境: Scratch 10) ワークショップと創造性: CAMP 11) カフェでの対話と学び: UTalk 12) 総合演習 13) 総合演習 14) 総合演習 15) ゲストトーク
授業の方法	1) 担当グループが事例研究を行い発表する 2) 事例についてグループで議論し、デザインの特徴と課題について検討する 3) 議論から出た疑問を報告グループに投げかけ、問いを深める 4) 教育・学習研究の概念との接続について教員が解説する
成績評価方法	出席(50%) グループの事例研究報告の評価(25%) グループ議論における貢献と発見(25%)
教科書	山内祐平編「デジタル教材の教育学」東京大学出版会、2010
参考書	山内祐平編「学びの空間が大学を変える」ポイックス出版、2010
履修上の注意・備考	グループワークのため履修人数制限あり(30名): オリエンテーション時に抽選で決定 授業の一部はデジタル教材の開発に関わるゲスト講師によって行われる。本授業は、メディアコンテンツに関する学部横断型教育プログラムの一環として開講される。
教育職員免許法上の認定科目	



科目番号	0992410	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	金(Fri)3 [13:00-14:45]、金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	博物館概論 Introduction to Museum Studies				

授業の目的・概要	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。また、博物館以外の文化・教育施設(公共ホール、公民館、図書館等)、文化的な活動が生起する空間も視野に入れる。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 博物館学の目的・方法・構成 3. 博物館学史 4. 博物館の定義(類縁機関との違いを含む) 5. 博物館の種類(館種、設置者別、法的区分等) 6. 博物館の目的 7. 博物館の機能 8. 日本および諸外国の博物館の歴史 ① 9. 日本および諸外国の博物館の歴史 ② 10. 日本および諸外国の博物館の現状 ① 11. 日本および諸外国の博物館の現状 ② 12. 学芸員の役割(定義、役割、実態)① 13. 学芸員の役割(定義、役割、実態)② 14. 博物館関係法令 15. まとめ
授業の方法	講義による。
成績評価方法	試験(50%)および授業中に出す課題(50%)による。
教科書	中小路久美代・新藤浩伸・岡田猛・山本泰裕『触発するミュージアム』あいり出版、2016
参考書	福原義春編『ミュージアムが社会を変える: 文化による新しいコミュニティ創り』現代企画室、2015 佐藤一子編『地域学習の創造 地域再生への学びを拓く』東京大学出版会、2015 ミハエル・パーモンティエ著、眞壁宏幹訳『ミュージアム・エデュケーション 感性と知性を拓く想起空間』慶應義塾大学出版会、2012年 新藤浩伸『公会堂と民衆の近代 歴史が演出された舞台空間』東京大学出版会、2014 畑潤・草野滋之『表現・文化活動の社会教育学』学文社、2007 その他授業中に指示する。
履修上の注意・備考	一口に博物館といっても館種も領域も多岐にわたるため、自分自身の専門領域を超えて幅広く関心を持ち、実際に様々な博物館に足を運ぶことが望まれる。  ICOM: The International Council of Museums <a href="http://icom.museum/">http://icom.museum/</a>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992411	担当教員	水谷 長志		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	火 (Tue)5 [16:50-18:35]、火 (Tue)6 [18:45-20:30]
講義題目	図書館・博物館情報メディア論 Infomation Media in Library and Museum				

授業の目的・概要	図書館・博物館情報メディア論をアート・ドキュメンテーションの視点から再構築することを試みる。アート・ドキュメンテーションが MLA に関わる学際的、職能横断的な活動と理論であることを、そもそもの出発点としての美術図書館(アートライブラリ)の文脈から掘り起こして、情報資料の側面からライブラリ&ミュージアム・リテラシーへの理解と獲得を目的とする。あわせて蓄積・検索型の情報資源提供サービスを行う MLA*の差異と同質、さらに今日的課題である「MLA 連携」について、その意味と可能性を検討する。あわせて、「世界書誌(Bibliotheca Universalis)」の観点からメディア史を俯瞰的に見直すことを試みる。*MLA=M(useum)、L(ibrary)、A(rchives)
授業計画	第 01 回 開講にあたって／図書館・博物館情報メディア論をアート・ドキュメンテーションから再構築するとはどういうことか 第 02 回 「文化の継承」を考える:「あなたのタグがあったから」 第 03 回 「第二の知識」を考える:情報の次性について 第 04 回 アート・ドキュメンテーションの発端としてのアートライブラリ 第 05 回 アート・ドキュメンテーションの展開としてのアートアーカイブ 第 06 回 ミュージアムの活動を情報資源の視点から見直す I/コレクション 第 07 回 ものの記述とメタデータ 第 08 回 ミュージアムの活動を情報資源の視点から見直す II/展覧会 第 09 回 ミュージアムの活動を情報資源の視点から見直す III/出版物 第 10 回 MLA 連携とは何か/MLA の差異と同質 第 11 回 MLA 連携とは何か/意義と実装の現状 第 12 回 MLA 連携とは何か/今日的文化情報資源の構築と公開 第 13 回 メディア史を考える:世界書誌(Bibliotheca Universalis)の夢 第 14 回 選抜受講生による「MLA 連携の事例を探る」報告プレゼンテーション会 第 15 回 まとめ
授業の方法	担当講師および招待講師による講義と聴講学生によるプレゼンテーション
成績評価方法	レポート(2~3 点)およびプレゼンテーションによる評価 平常点(出席状況および授業態度による評価)
教科書	特に指定しません。必要に応じ講義資料プリントなどを配布します。
参考書	・水谷長志『図書館文化史』〈図書館情報学の基礎・11〉勉誠出版、2003。・谷口祥一、緑川信之『知識資源のメタデータ』勁草書房、2007。・水谷長志編『MLA 連携の現状・課題・将来』勉誠出版、2010。・日本図書館情報学会研究委員会編『図書館・博物館・文書館の連携』(シリーズ・図書館情報学のフロンティア No. 10) 勉誠出版、2010。・吉見俊哉ほか編『つながる図書館・博物館・文書館 デジタル化時代の知の基盤づくりへ』東京大学出版会、2011。・NPO 知的資源イニシアティブ編著『デジタル文化資源の活用 地域の記憶とアーカイブ』勉誠出版、2011。・図書館の入門書としては、特に、藤野幸雄『図書館 この素晴らしき世界』勉誠出版、2008。・書物とメディアの歴史については、特に、R.シャルチエ『書物の秩序』ちくま学芸文庫、1996。・日本の博物館の歴史については、特に、椎名仙卓『日本博物館成立史 - 博覧会から博物館へ』雄山閣、2005。を推奨しておきます。その他、授業内容に関連するものを講義の中で適宜指示します。
履修上の注意・備考	情報資源、とりわけ図書館・博物館情報メディアは、Web 界にのみあるのではないことをあらためて認識するように、多様な MLA の実体へ目を開き、自ら多くの館(やかた)の扉を叩いてもらいたい。ミュージアムの展示空間、ライブラリの棚、アーカイブの堆積にこそ、見出されることをなお待つ文化資源、豊穡があることを体験として発見していただきたい。なお、招待講師の講義を複数回予定しますので、積極的な質疑・発言を期待します。 授業中、授業後およびメールにて質問・意見など受け付けます。メールアドレスは授業初回に提示します。なお、私語は、講師の集中を著しく低下させますのでご遠慮下さい。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992412	担当教員	有松 育子		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	生涯学習政策論 Study on Lifelong Learning Policy				

授業の目的・概要	生涯学習・社会教育に関する政策について、これまでの大きな流れや課題、今後の展望も含め理解し、考える機会としたい。講義は、まず文部科学省の紹介とその政策形成過程の話をし、生涯学習・社会教育に関する基本的な事項を説明した上で、生涯学習・社会教育に関する政策を中心に教育政策全体について論じたい。さらに、いくつかの個別のテーマについて、生涯学習政策局の各担当責任者等の協力も得て行う。その際、各講師は現在の担当分野のみならずこれまで担当した分野についても話したり、受講生と対話する時間も設けたりしたいと考えている。また、各講義の中で又は別途、地方自治体(教育委員会)や施設等の職員、その他の関係者等もゲストに招き現場の話聞く機会、または大学の近隣にある関係施設等を訪問する機会のいずれかを設ける予定である。さらに、講義内での担当者との対話とは別に、生涯学習政策局の若手職員等との対話・議論の場も設け、それらの職員が普段何を考え、また感じながら教育行政に携わっているかということについても知り、一緒に政策について考える機会としたい。
授業計画	(多少の変更の可能性あり) 1. 生涯学習・社会教育政策をはじめとする教育政策の全体像、生涯学習・社会教育の課題と展望 2. 社会教育行政(社会教育による学びを通じた課題解決と地域づくり支援を中心に) 3. 生涯学習の振興 4. 学校と地域との連携促進 5. 家庭教育支援 6. 生涯学習政策局職員との懇談・ワークショップ 7. 実地調査(国立科学博物館)
授業の方法	講義、討議、実地調査等
成績評価方法	出席状況や討議への貢献、レポート等を通じた総合評価とする。
教科書	特になし。
参考書	講師が講義の中で必要な資料を配付する予定。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992413	担当教員	岡 幸江		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	集中(Int)
講義題目	地域文化をめぐる対話的学習 Conversational Learning on Community Culture				

授業の目的・概要	本講義では、「地域文化をめぐる対話的学習」をテーマに、暮らし・地域の文化にむきあうなかで生まれる対話的学習のもつ今日的可能性について考察していく。「文化」ということばには、できあがった成果物ではなく、違いを交し合いながら創造される新たな価値、そのプロセスへの視点が託されている。暮らしや価値観の多様性をこえ、育ちあいを支える「共同性」はいまどのように見いだされつつあるのか、暮らしを見つめ直す学びとはいかなるものか。そのことを、ボランティア・福祉と教育・地域の文化伝承に焦点をあてながら、受講生とともに考えていきたい。
授業計画	①オリエンテーション i - 変化の時代の社会教育における「Informal Education」への問い ②オリエンテーション ii ③変化の象徴としての「地域変動」 ④同上 ii ⑤ボランティアにおける当事者性と対話的環境 i ⑥同上 ii ⑦福祉と教育のはざまに生まれる「共同性」 ⑧困難をかかえる人を取りまく「場づくり」 ⑨暮らしの文化の継承としての地域の文化伝承 i ⑩同上 ii ⑪暮らしに学ぶ学習へのアプローチ i ⑫同上 ii - 地元学という視座から ⑬同上 iii - ハッピーアワー・ワークショップを通して ⑭同上 iv - " ⑮ふりかえり
授業の方法	前半は講義、中盤はディスカッションも交えた演習スタイル、後半はワークショップもまじえつつ参加度のより高い演習スタイルで行う。
成績評価方法	レポートによる
教科書	とくになし(必要な資料は当日配布)
参考書	佐藤一子編『地域学習の創造』(東京大学出版会)
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992414	担当教員	海野 敏		
単位数	2	学期	S2 (2017/06/05-2017/09/20)	時限	月 (Mon)1 [08:30-10:15]、月 (Mon)2 [10:25-12:10]
講義題目	情報組織論 Theories of Information Organization				

授業の目的・概要	<p>伝統的な図書館の世界では、目録と分類が資料組織化の 2 つの中心であった。21 世紀は、文字、画像、動画、音声、ソフトウェアなどあらゆる形式の情報・知識がデジタル化され、コンピュータ・ネットワーク上に膨大かつ半永久的に蓄積される時代であるが、今も目録と分類が情報組織化の重要な手法であることに変わりはない。本授業の目的は、目録を中心とする情報組織化についての基礎的理論と実践的技法を学び、さらに学習・研究を続ける契機となる問題意識を獲得することにある。授業は、(1)情報組織化および目録の社会的な意義・機能と、その歴史的な変化について学ぶパート、(2)印刷資料をモデルとして確立した目録法(おもに記述目録法)の理論と技法を学ぶパート、(3)あらゆる情報メディアを対象として構築されつつある書誌コントロールの理論と技法を学ぶパートの順に進める。(2)では、目録の対象となる情報資源集合の構造について、とりわけ情報資源の同一性の問題も取り上げる。また(2)と(3)では、授業中および授業時間外の実習を行う予定。</p>
授業計画	<p>1. 導入:図書館と情報組織化 2. 情報組織化と目録法(1):情報へのアクセス障害 3. 情報組織化と目録法(2):情報組織化の種類 4. 目録の歴史(1):古代から 19 世紀まで 5. 目録の歴史(2):20 世紀以降 6. 記述目録法(1):『日本目録規則』 7. 記述目録法(2):書誌記入の構成要素と記述の原則 8. 記述目録法(3):図書・逐次刊行物の記述 9. 小テスト(1)と解説 10. メタデータ(1):ダブリンコアと RDF 11. メタデータ(2):FRBRと RDA 12. 書誌コントロール(1):国立国会図書館 13. 書誌コントロール(2):書誌ユーティリティと IFLA 14. 小テスト(2)と解説</p>
授業の方法	<p>基本的に講義形式と実習を交互に行う。また講義の際には、個別に指名して質問に回答してもらう。毎回資料を配布する予定。</p>
成績評価方法	<p>授業中に行う数回の発表、小課題、小テストおよび授業への参加度により総合的に評価する。</p>
教科書	<p>使用しない。</p>
参考書	<p>以下の 2 点のほかは授業中に随時紹介する。・根本彰著『文献世界の構造』勁草書房、1998。・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東大出版会、2013。</p>
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992415	担当教員	松本 直樹		
単位数	2	学 期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時 限	金(Fri)5 [16:50-18:35]
講義題目	図書館サービス論 Library Services				

授業の目的・概要	図書館は利用者にさまざまなサービスを提供している。伝統的に提供されるサービスとともに、近年ではネットワーク上の情報資源を用いたサービスも提供されている。授業ではこれらの多様なサービスを概観し、図書館におけるサービスのあり方について理解するとともに今後のあり方を探る。あわせて図書館サービスに密接に関わる著作権についても学習する。
授業計画	1 オリエンテーション, 図書館サービスとはなにか 2 資料提供サービス 3 レファレンスサービス 4 情報サービス 5 地域資料サービス 6 児童サービス 7 障害者サービス 8 課題解決支援サービス 9 大学図書館のサービス 10 国立国会図書館のサービス 11 図書館協力 12 デジタル技術を用いたサービス 13 電子図書館 14 図書館サービスと著作権
授業の方法	レジュメを配布する。教科書は使わない。
成績評価方法	授業への積極的参加, レポートおよびテストによって評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書	宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012、214p.
履修上の注意・備考	ITC-LMS ( <a href="https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/portal/login">https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/portal/login</a> )でレジュメをダウンロードできるようにする予定です。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992416	担当教員	今井 福司		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	金(Fri)1 [08:30-10:15]、金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	学校経営と学校図書館 School Management and School Libraries				

授業の目的・概要	<p>学校図書館は、学校図書館法において学校教育に資する施設であることが明記されており、学校教育を支える基盤とされている。しかし実態は一致しておらず、資料、予算、人、周囲の理解を含めて課題が多く残されている。このような状況の中では、司書教諭は単に求めに応じてサービスを提供するだけでなく、自ら積極的に周囲の教員や学校関係者に働きかけを行い、実践を展開せざるを得ない。この授業においてはそうした実践を展開するときに、必要となる知識や基本的なスキルを身につけることを目的とする。特に、学校経営の文脈だけに限らず、学校図書館に関わるあらゆる分野の基本的な内容を幅広く扱い、他の司書教諭講習相当科目に対する入門編とすることを意図している。その上で、本授業では司書教諭として、学校内において積極的に学校図書館実践を展開していくために必要とされる基本的な知識を身につけた上で、学校教育の目的と対応させた学校図書館実践について、受講者がアイデアを提示できるようにすることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要の説明、授業用CMSサイトへの登録 第2回 アメリカ・日本における学校図書館史とその理念・意義 第3回 学校図書館関係法規と国、自治体の振興政策 第4回 学習指導要領における学校図書館の扱い 第5回 学校図書館の整備Ⅰメディアの選択と組織化 第6回 学校図書館の活動Ⅰ読書センターとしての活動(1) 第7回 学校図書館の活動Ⅰ読書センターとしての活動(2) 第8回 学校図書館の活動Ⅱ学習・情報センターとしての活動 第9回 学校図書館職員の位置づけ 第10回 学校図書館の経営(学校教育計画の中での位置づけ) 第11回 学校図書館の評価と改善 第12回 学校図書館の整備Ⅱ環境整備(施設・設備) 第13回 グループ作業(作業内容については、授業中発表する) 第14回 グループ作業発表会 第15回 試験とまとめ</p>
授業の方法	<p>講義を中心とし、受講生の人数に応じて、ディスカッションや演習を取り入れた授業を行う予定である。</p>
成績評価方法	<p>授業の参加(発言を頻繁に求める)、グループ発表、授業時間外に取り組む課題(レポート)、小テストを20%、最終試験を80%として、総合評価60%以上を単位認定の最低条件とする。</p>
教科書	<p>中村百合子(編).『学校経営と学校図書館、司書教諭テキストシリーズ』第1巻、樹村房、2015. この他、頻繁にレジュメや参考資料を配布する。</p>
参考書	<p>根本彰編(著).『探究学習と図書館－調べる学習コンクールがもたらす効果』学文社、2012. 日本図書館協会図書館利用教育委員会(編著).『問いをつくるスパイラルー考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会、2011.</p>
履修上の注意・備考	<p>履修者は以下の事項をあらかじめ了解した上で授業に臨むこと。・本科目は司書教諭資格取得の5科目のうちの概論的なものであるため、最初に履修することが望ましい。・最終試験の受験資格は全14コマの授業のうち、原則として9コマ以上の出席がある受講者のみとする。・授業進行の都合上、初回に受講者の座席指定を行う予定である。よって、初回は特段の理由がない限り欠席しないこと。・授業の連絡は電子メールで行う。授業用メールアドレスからの連絡が受け取れるように、各自でメッセージフィルタの設定を行っておくこと。受講人数によ</p>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992417	担当教員	小山 憲司		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	大学図書館サービス論 University Library Services				

授業の目的・概要	大学図書館は、大学の組織の一部である。したがって大学図書館は、大学が果たすべき使命、すなわち研究、学習・教育、そして社会貢献を十全に達成できるよう、そのサービスを構築し、運用することが求められる。本授業では、これら大学の 3 つの使命を切り口として、大学図書館サービスの現状および課題を明らかにし、今後のサービスのありかたについて検討する。
授業計画	1. ガイダンス 2. 高等教育政策と大学図書館 3. 大学の国際化と大学図書館 4. 身近な大学図書館を知る(1): 課題提示 5. 身近な大学図書館を知る(2): 発表 6. 身近な大学図書館を知る(3): まとめ、ふりかえり 7. デジタルが大学図書館を変える 8. ラーニング・コモンズからみる学習支援 9. 多様な学習支援を考える(1): 課題提示 10. 多様な学習支援を考える(2): 発表 11. 多様な学習支援を考える(3): まとめ、ふりかえり 12. 科学技術政策と大学図書館 13. 研究支援の最近の動向(1): オープンアクセスと機関リポジトリ 14. 研究支援の最近の動向(2): 研究データ 15. まとめ
授業の方法	講義、グループワーク
成績評価方法	期末レポート 50%、授業への参画度 50%
教科書	初回で指示する。
参考書	授業中に適宜指示する。
履修上の注意・備考	授業では、3 回程度のグループワークを取り入れる予定である。受講者の積極的な参画を希望する。 授業を円滑に進めるために、ITC-LMS ( <a href="https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/">https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/</a> ) を利用する予定である。
教育職員免許法上の認定科目	



科目番号	0992418	担当教員	桑田 てるみ		
単位数	2	学期	S2 (2017/06/05-2017/09/20)	時限	金(Fri)1 [08:30-10:15]、金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	探求学習の方法 Methodology of Inquiry Learning				

授業の目的・概要	<p>現行学習指導要領で示された「総合的な学習の時間」では「探究的な学習」を通すことが求められている。探究を基にした学習(探究学習)は教育課程の中でどういった意義があるのか、探究学習はどのような方法で実践されるべきなのか考察していく。また、探究学習に欠かすことができない学校図書館活用に着目することで、教育課程の中で果たす学校図書館の役割について理解を深めることを目的とする。講義の最終段階では、受講者自らが探究学習を目指した授業をデザインし、それをもとに検討を加えることを計画している。</p>
授業計画	<p>1. 探究学習とは 2. 教育課程と探究学習 3. 探究のためのプロセスモデル 4. 探究のための学習スキル 5. 学校図書館教育と探究学習 6. 探究学習の指導法 7. 探究学習の評価法 8. 探究学習指導案の検討 計画は受講者の人数等によって変更することがある。</p>
授業の方法	<p>講義を中心とするが、受講者同士のディスカッションなども行う。</p>
成績評価方法	<p>授業参加度、課題、試験等を総合的に評価する。</p>
教科書	<p>『思考を深める探究学習～アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』全国学校図書館協議会、2016</p>
参考書	<p>授業中に指定する。</p>
履修上の注意・備考	<p>学校図書館司書教諭資格取得のための科目「学習指導と学校図書館」の位置付けであるが、探究学習に興味がある者の履修を広く呼びかけたい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992419	担当教員	能智 正博、下山 晴彦、野崎 大地、星加 良司、東郷 史治、		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	金(Fri)5 [16:50-18:35]
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：「バリア」の認識論(星加) 第3回：社会現象としての障害(星加) 第4回：障害によって明らかにされた脳の働き(野崎) 第5回：障害を科学の力で克服する試み(野崎) 第6回：障害者の語り(能智) 第7回：当事者研究の可能性(熊谷) 第8回：3・11の問題系と障害(仁平) 第9回：(調整中)(小国) 第10回：うつ病からの回復とバリアフリー(下山) 第11回：教育のバリアフリーとICT利用(近藤) 第12回：日常生活の安全安心と心身の健康(東郷) 第13回：総括
授業の方法	オムニバス形式の講義を行う。
成績評価方法	受講生の積極的な授業参加による貢献を重視する。すなわち討論における課題提起や、随時課されるエッセイ等の提出に基づいて、総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0992420	担当教員	齋藤 兆史		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	木(Thu)3 [13:00-14:45]
講義題目	英語教授法・学習法概論 An introduction to methodologies for teaching and learning English				

授業の目的・概要	英語の教授法と学習法を学ぶことにより、日本における英語教育・学習に対する認識を深め、英語教師として、あるいは英語学習者として効果的な活動ができるようにする。発展的に、ほかの言語や科目の教育・学習法も自ら研究させることにより、学習者の視点に立った指導法を身につけられるよう方向付ける。
授業計画	まず、英語がどのように世界に広まり、いかにして教授・学習されるに至ったかを概観したのち、日本における英語教育・学習の歴史を時代別に見ていく。つぎに、いままで実践されてきた主な英語教授法を紹介・検討したのち、発音、文法、読解、聴解、作文、会話などの学習項目別に英語教授・学習法を分析していく。最後に、日本における英語教育・学習のあり方について議論する。毎回のテーマは以下のとおり。1 導入 2 英語小史 3 英語の拡散と多様性 4 日本の英語教育・学習史1(幕末) 5 日本の英語教育・学習史2(明治) 6 日本の英語教育・学習史3(大正・昭和前期) 7 日本の英語教育・学習史4(昭和後期～現在) 8 英語教授法 9 英語学習法1(発音) 10 英語学習法2(文法・読解) 11 英語学習法3(聴解) 12 英語学習法5(会話／作文／その他の独習法) 13 第二言語習得論再考
授業の方法	まず講義形式で英語教育・学習の歴史、理論、事例を紹介したのち、それぞれの回のテーマについて議論をし、それについての理解を深める。
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み、最終試験もしくはレポート(履修者の人数によってどちらかを定める)を総合的に見て評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	配布されたプリントに基づいて予習をし、問題意識を持って授業に臨むこと。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0993101	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	火(Tue)3 [13:00-14:45]、金(Fri)3 [13:00-14:45]
講義題目	教育社会学概論 Introduction to the Sociology of Education				

授業の目的・概要	教育現象を社会的に捉えるとは、どういうことか。なぜそれが必要なのか。現在の教育はいかなる状況にあるのか。この概論では、教育を対象とする社会学の基本的な理論や概念、実証的知見を学ぶことを通じて、教育をめぐる我々が直面している課題を理解することを目的とする。
授業計画	【パート1:教育社会学という学問】 ◆第1回 シラバスの説明、社会的な見方の特徴 [Keywords-社会化、コミュニケーション、規範、集団、実証性] ◆第2回 近代社会と教育社会学 [Keywords-近代化、メリトクラシー、機能主義、葛藤理論、新しい教育社会学] ◆第3回 日本の教育社会学の流れ [Keywords-学歴社会] 【パート2:学校の存立構造】 ◆第4回 学校の構造特性 [Keywords-全制的施設、トラッキング、かくれたカリキュラム、正当化] ◆第5回 教師という職業 [Keywords-専門職性、同僚性、バーンアウト] ◆第6回 生徒間の関係性 [Keywords-スクールカースト、キャラ、いじめ、社会関係資本、ハイパー・メリトクラシー] ◆第7回 試験・競争・選抜 [Keywords-受験競争、学歴社会、加熱・冷却] 【パート3:学校とその外部】 ◆第8回 家族における教育 [Keywords-文化資本、ペアレントクラシー、相互作用 Keyperson-ブルデュー、バーンスタイン] ◆第9回 学校と仕事の接続 [Keywords-学校経由の就職、新卒一括採用、フリーター] ◆第10回 政治と教育改革 [Keywords-権力、官僚制、市場、ネオリベリズム、教育改革] ◆第11回 サブカルチャー・ストリート・逸脱 [Keywords-トライブ Keyperson-宮台真司] 【パート4:教育社会学のフロンティア】 ◆第12回 格差・貧困と教育 [Keywords-不平等、インセンティブ・ディバイド、教育費] ◆第13回 教育のレリバンス [Keywords-シティズンシップ教育、職業教育、労働法教育] ◆第14回 ダイバーシティと教育 [Keywords-ジェンダー、グローバル化、移民、多文化共生社会] ◆第15回 ポスト近代社会と教育 [Keywords-個人化、再帰性 Keyperson-ギデンズ、ベック、パウマン]
授業の方法	各回の授業までに、指定された文献を読み、講読票に概要とコメントを記入してきてもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手なし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成績評価方法	毎回の授業の最後に出欠確認を兼ねて学生は講読票を提出する(翌週返却する)。また、学期の中ほどで中間レポートを、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は講読票:中間レポート:期末レポート=20:30:50 の比で評価する。
教科書	各回の授業における2本ずつの講読文献を初回の授業で指示する。
参考書	各回の授業に関連する参考文献を毎回の授業で提示する。
履修上の注意・備考	前期課程で開講されている「教育・文化・社会」を事前に履修していることが望ましい。教育社会学の基本的な考え方、主な理論、分析方法、分析対象について広く理解することができる内容であるため、教職のみならず教育行政や教育関連産業で将来仕事をしようと考えている者にとっては必須の内容である。また、学術論文に対して主体的な批評眼を持ちながら読むこと、その上で自らの考えをまとめることについての基礎的な訓練となるため、幅広い研究や仕事の分野に応用可能な思考力を形成できる。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照

科目番号	0993102	担当教員	橋本 鉦市、中村 高康、福留 東土		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	金(Fri)3 [13:00-14:45]、金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>高等教育概論</b> Introduction to Higher Education Studies				

授業の目的・概要	今日の高度知識基盤社会にあつて、高等教育が果たす役割と意味はきわめて大きなものになってきている。高等教育はどこから来て、どのような状況にあり、将来どこに向かおうとしているのか。この授業では、近代大学の誕生から産業化に伴う発展と分化、現状とその課題、さらに今後の変容と展望までを視野に入れつつ、高等教育が担う機能、構造、政策、歴史などを扱う。具体的には国内外の高等教育がもつ諸側面を政策科学的なアプローチから考察して、高等教育全般にわたる広い視座と方法論を涵養する。
授業計画	1～4回：高等教育の機能と構造の概要、わが国の大学制度の変容と政策、政策形成・決定・実施のプロセス 5～8回：米国を中心とした各国の大学制度の国際比較(ランキング・モデル論・類型論)、大学制度の多様性 9～12回：高等教育の選抜機能(入試、高大接続)、配分機能(学歴主義、労働市場) 13回：最終試験
授業の方法	講義形式を基本とするが(毎回、ハンドアウトならびにパワーポイントなどでの解説)、随時、リアクションペーパー、グループ・ディスカッション、レポートなどの形態も織り込みつつ進める。
成績評価方法	授業への参加度(30%)、レポート(20%)、最終試験(50%) なお、「優上・優」は受講生の3割までとする厳格な評価方法を採用する。
教科書	リーディングスはコピーなどを用意する。随時指定。
参考書	リーディングスはコピーなどを用意する。随時指定。
履修上の注意・備考	「優上・優」は受講生の3割までとする厳格な評価方法を採用する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

科目番号	0993103	担当教員	北村 友人、恒吉 僚子、額賀 美紗子		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	水 (Wed)1 [08:30-10:15]、水 (Wed)2 [10:25-12:10]
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は二つある。一つは、比較教育学概論の主要関心や分析枠組みを理解することである。二つ目は、オンラインで海外の研究者の講義を聞く、フィールド訪問等を取り入れながら、比較教育学を生きたものとして習得することである。こうした概念や理論と海外研究者の講義やフィールドワーク、発表を統合し、比較教育学的考察ができるようになることが本講義の目的である。本講義の特徴は、それぞれに比較教育学と社会学の共通軸を持ちながらも、異なる研究領域(例 教育開発、異文化間教育)や研究地域(例 アメリカ、アジア諸国等)、教育段階(初等教育、高等教育)、焦点(例 政策、実践等)を対象にする三人の担当者が総合的に比較教育学的分野を提示しようとしたものである。具体的には社会や教育制度の国際比較、政策や教育モデルの借用、教育改革等のマクロな比較教育学的問題と、海外帰国生や日本において増えている新しい外国人(ニューカマー)の研究、21世紀に向けた教育実践、教育開発、国際化に向けての大学改革等を取り上げる。なおこの授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。</p>
授業計画	<p>第1回・2回 比較教育学とは何か ①概要と概念 比較教育学の対象や方法、概要についての説明。制度、国の比較、教育のグローバル化・多文化化・国際化、グローバル化・多文化化・国際化のための教育等に言及する。教育とは何か、学校とは何か、国を越えて教育を考察することの意味に関して等、いくつかの主要テーマについて、具体例を用いながら例示する。評価の仕方等、講義の全体について話す。 第3回・4回 比較教育学とは何か ②開発領域 比較教育学の一領域としての開発領域について学ぶ。アジア地域と教育開発、グローバリゼーション、大学改革等を取り上げる。 第5回・6回 比較教育学とは何か ③異文化間教育領域との接点 海外帰国生やニューカマーを具体的な事例としながら、グローバルな越境経験におけるアイデンティティ形成や言語獲得、学力等の問題に接近する。マイノリティを包摂する社会の文化や制度について検討し、比較教育学が従来扱ってきた領域との関係を考察する。 第7回・8回 国境を越えたテーマに挑む① この回では、マクロな視点から、国境を越えたテーマにどう取り組むかを、教育トランスファー、政策トランスファー、教育借用の切り口から迫る。ビデオ等を用いながら、ある国で生まれたモデルが国際モデルとして通用していく時代背景、その課題や、教育が国境を越えて今までになく盛んに借用されていく現代社会についても考察する。 第9回・10回 国境を越えたテーマに挑む② 「韓国の英語を用いた大学改革」(仮)の海外講師の講義と議論の後、アジアにおける大学改革、日本の大学の国際化について考える。 第11回、12回 国境を越えたテーマに挑む③ 外国人学校等の見学。 第13回、14回 グループによる発表</p>
授業の方法	講義、演習
成績評価方法	課題1:25%、課題2:25%、課題3:25%、グループ発表:25%。課題は三人の講師がそれぞれ担当した講義から出題し、最終回までに提出してもらう。
教科書	特になし。
参考書	随時指定する。
履修上の注意・備考	二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む) (公)社会学

科目番号	0993201	担当教員	中村 高康、仁平 典宏、三輪 哲		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	木(Thu)1 [08:30-10:15]
講義題目	教育社会学調査実習 I Training in Research Methods for the Sociology of Education I				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 II~IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 I」では、「教育社会学調査実習 III、IV」で行う調査実習で必要とされる知識として、社会調査に関する基本的な考え方、量的調査や質的調査などの社会調査の方法、資料やデータの蒐集から分析までの諸過程、質問文の作り方などについて、テキストを用いて学習する。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	1 ガイダンス。研究の進め方、文献の探し方、調査倫理について。2 文献講読。社会調査の歴史。社会調査の目的、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法。3 文献講読。調査の目的に応じた調査方法の選び方。標本調査の特徴。4 文献講読。先行研究・先行調査などの探し方。5 文献講読。社会学の理論と検証。理論仮説—作業仮説—検証。6 文献講読。社会調査の目的。仮説—質問項目。7 調査対象訪問。8 対象訪問で考えたことの報告(調査倫理含む) 9 文献講読。変数のしくみ。データのしくみ。変数の合成のしかた。10 文献講読。質問紙のしくみ。11 文献講読。ワーディングの注意点。12 調査対象に関する既存資料・官庁統計などについての報告。13 研究トピック別に3班に分かれて討議(「社会調査とプライバシー」等) 14 同上 15 文献講読。今後の調査の流れについて留意点、課題、作業について説明。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	
参考書	『社会調査法入門』(盛山和夫著 有斐閣 2004年)、『入門・社会調査法』(轟亮・杉野勇編 法律文化社 2010年)を参考図書とする。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

科目番号	0993202	担当教員	中村 高康、仁平 典宏、三輪 哲		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	木(Thu)2 [10:25-12:10]
講義題目	教育社会学調査実習 III Training in Research Methods for the Sociology of Education III				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 I、II、IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 III」では、「教育社会学調査実習 IV」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	4～5 月: 文献講読(実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ)、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。6 月前半: 調査対象訪問とフィールドワークの報告。6 月後半～7 月: 仮説構成、質問項目づくり、ワーディング。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域: 中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要: 東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/
成績評価方法	平常点
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学



科目番号	0993203	担当教員	中村 高康、仁平 典宏、三輪 哲		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	木(Thu)1 [08:30-10:15]
講義題目	教育社会学調査実習 II Training in Research Methods for the Sociology of Education II				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 I、III、IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 II」では、「教育社会学調査実習 IV」で行う質問紙調査の分析に必要とされる知識として、サンプリングの方法、調査の実施方法、調査データの整理、統計の基礎知識や諸分析方法、統計ソフトの使用法などについて、テキスト等を用いて学習する。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	1 文献講読。全数調査と標本調査、サンプリングの諸方法。本調査サンプルの特徴と留意点。 2 調査の実施方法に関する説明。調査対象への質問紙の発送・回収作業、質問紙に添付する、説明や依頼や調査実施方法に関する書類の書き方。 3 分析で主として用いる統計に関する確認の講義。(基礎統計量、クロス分析。エラボレーションなどの研究モデル。) 4 分析で用いる統計ソフト SPSS に関する講義。(データファイルのしくみ。基礎的な記述統計分析。変数の加工方法。) 5 調査データの整理方法に関する講義。(エディティング、コーディング、変数リストのしくみ、コーディングマニュアルの作り方。) 6 エディティング、コーディング作業。同上 7 エディティング、コーディング作業。 8 調査データの整理方法に関する講義(1)。(回答状況に基づく新変数の作成。自由記述の処理。) 9 調査データの整理方法に関する講義(2)。(データクリーニングについて。) 10 調査データの整理方法に関する講義(3)。(基礎集計表の作成方法) 11 受講者全員で、基礎集計表に基づく、データの特徴に関する検討。 12 調査実施過程全般で気づいた問題点の報告と検討。 13 同上。 14 報告書を作成する際の留意点について。 15 担当教員、TA からデータ分析に関する個別指導。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	
参考書	『社会調査法入門』(盛山和夫 有斐閣 2004年)『入門・社会調査法』(轟亮・杉野勇編 法律文化社 2010年)
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

科目番号	0993204	担当教員	中村 高康、仁平 典宏、三輪 哲		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	木(Thu)2 [10:25-12:10]
講義題目	<b>教育社会学調査実習IV</b> Training in Research Methods for the Sociology of Education IV				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 I～III」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 IV」では、「教育社会学調査実習 III」を受けて、質問文・質問紙の画定、サンプリング、質問紙調査の実施、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を行う。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。
授業計画	10 月: 質問紙原案の確定作業、調査対象の責任者のチェックとそれをふまえての修正、質問紙最終稿の確定とレイアウトを含めた質問紙作成作業、質問紙発送作業。 11～12 月: 統計ソフト操作実習。変数リスト、コーディングマニュアル作成作業、エディティング、コーディング作業。 1～2 月: データクリーニング作業、集計表作成作業、データ分析作業と中間報告と検討、レポート作成。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域: 中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要: 東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/
成績評価方法	平常点 最終レポート
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

科目番号	0993205	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	水(Wed)6 [18:45-20:30]
講義題目	比較教育社会学論文指導 Dissertation Research in the Sociology of Education、 Comparative Education、 and Higher Education				

授業の目的・概要	このゼミは、本コース所属の教員がそれぞれ担当する、論文執筆のための研究指導を目的とした演習である。学部の授業として開講しているが、学部学生と修士課程の大学院生を中心に、学生・院生間の議論と相互交流の場となることをめざす。そのため、コース所属の学部学生のみならず、修士課程の学生の履修も期待している。ゼミの進め方については各教員の判断に任されるが、基本的には、担当する各教員の指導のもと、参加者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、卒業論文や修士論文の準備に向け、各自の研究を促すことを目的とする。必修としての指定は行わないが、学士課程・修士課程を貫く本コースの中核的な演習として、学部3、4年次、および修士課程1、2年次の履修を期待する。なお、以上に述べた授業の性格により、他コースの学生・院生の履修は、原則として認めない。
授業計画	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業の方法	各教員による。
成績評価方法	研究計画、発表等による。
教科書	各教員による。
参考書	随時指定。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0993501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	月(Mon)1 [08:30-10:15]
講義題目	比較教育社会学研究指導 Tutorial in Sociology of Education、 Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	比較教育社会学コースの4年次に在籍し、卒業論文を執筆しようとする学生の必修科目である。卒業論文の執筆・完成に向けて、論文のテーマ、構成、内容を各自が発表し、それについて全員が参加して議論する。また、必要に応じて、所定の時間以外に集中して行う場合もあるので、受講者は掲示ないし教員の指示に留意すること。
授業計画	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する。
授業の方法	各教員による。
成績評価方法	研究計画、発表等による。
教科書	各教員による。
参考書	随時指定。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0994101	担当教員	牧野 篤		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	月 (Mon)5 [16:50-18:35]、月 (Mon)6 [18:45-20:30]
講義題目	社会教育論 II Theories of Adult Education II				

授業の目的・概要	<p>少子高齢化・人口減少、グローバル化などによる社会構造の大きな変容にともなって、人々の学びのあり方も変わることが迫られている。学校教育だけではなく、人々が学び続ける社会を構想し、実現していくことが求められている。本講義では、学校制度の基本的な原理と社会教育の特質を歴史的に概観した上で、今日の社会変動の背景をとらえ、それらと生涯学習が課題化されることとの関係を把握する。さらに教育学的な課題の一つである〈私さがし〉や生きる価値と意味を、〈つながり〉をキーワードに検討することで、「学び」の社会的意味と学ぶ主体である〈わたし〉を軸にした教育制度・経営のあり方を考える。本講義は、概ね以下の内容から構成される。Ⅰ. 近代産業社会と学校・社会教育・生涯学習、Ⅱ. 社会の構造的変動と教育システムの改編、Ⅲ. 揺らぐ自己と自我の形、Ⅳ. 〈学び〉とは何か、Ⅴ. 生成し続ける語る〈わたし〉。生涯学習時代における「学び」のあり方を考えるための基礎的な視点を養うとともに、受講者各個人が、自らの人生を主体的に考え、選択するとともに、この社会で学び続けることの意味を考え、自らの社会的な役割をとらえ課すことができるようになることを目的とする。基本的に講義形式とするが、グループワークなども取り入れる。</p>
授業計画	<p>概ね、以下のような内容から構成される。1. 日本社会の変容と生涯学習 2. 人が「学ぶ」ということ。「学び」とはなにか 3. 市場社会と他者の存在 4. 学校がつくりだす承認関係 5. 自立した個人という幻想 6. この社会で生きるということ 7. 「社会」の構造 8. 「社会」と「国家」 9. 「ことば」とはなにか。「ことば」で語るということ 10. 「意味」を問わざるを得ない私たち 11. 「対話」と相互承認関係 12. 自分語りと「対話」。「意味」ではなく、承認を 13. 所与ではなく、生成としての自己へ 14. 「学び」とわたし・わたしたち 15. 存在としての「学び」</p>
授業の方法	講義形式とするが、グループワークなども取り入れる。
成績評価方法	適宜レポートを課す。
教科書	
参考書	<p>以下のものを使用する。牧野篤『認められたい欲望と過剰な自分語り—そして居合わせた他者・過去とともにある私へ』(東京大学出版会、2011年) 牧野篤『生きることとしての学び—自生する地域コミュニティと共変化する人々』(東京大学出版会、2014年) なお、参考書は本来であれば購入し、熟読して欲しいが、どちらも高価なので図書館などで読んでおくとよい。</p>
履修上の注意・備考	<p>人が社会でともに生きることや学びに強い関心をもって授業に臨んで欲しい。大学は自律的に学ぶ場であることを十分に自覚し、積極的に授業に参加して欲しい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0994102	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2	学期	S2 (2017/06/05-2017/09/20)	時限	火 (Tue)3 [13:00-14:45]、火 (Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>教職論</b> Introduction to Research on Teacher Development				

授業の目的・概要	教師の仕事に多様な側面からアプローチし、その複雑な構造を理解する。とりわけ教師の仕事の中心である授業の経験に焦点をあてる。教員免許の取得を目指す履修者には、進路選択を考えるための知識と情報を提供する。
授業計画	授業の流れは以下のように予定している。各回のトピックは授業の進行の状況に従って変更することもある。1回 オリエンテーション 2回 教師の仕事 3回 教師のキャリア 4回 近代学校と教職の成立 5回 歴史の中の教師 6回 歴史の中の女性教師 7回 授業をつくる 8回 授業における知識と思考 9回 授業研究と研修 10回 反省的実践家としての教師 11回 教師文化の構造 12回 教師の仕事とジェンダー 13回 教師の同僚性 14回 専門職としての教師 15回 まとめ
授業の方法	講義を中心に、具体的な課題に即したグループディスカッションを行う。
成績評価方法	出席と課題レポートで評価する。
教科書	特になし。
参考書	秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門(改訂版)』有斐閣、2015年。 そのほか、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	特になし。 特になし。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照

科目番号	0994103	担当教員	辻 慶太		
単位数	2	学期	S2 (2017/06/05-2017/09/20)	時限	火 (Tue)5 [16:50-18:35]、火 (Tue)6 [18:45-20:30]
講義題目	図書館情報学概論 Introduction of Library and Information Studies				

授業の目的・概要	図書館の理念や現状、各種問題点を紹介することで、図書館情報学が取り組む課題が掴めるように講義する。まず知識や情報といった図書館が収集・組織・提供・保存する対象について述べ、それらを具体的に表現したメディアである図書・雑誌・ネットワーク情報資源などの歴史や現状、新しい流れを紹介する。図書館には様々な物理的・経済的・社会的制約があることから、上記プロセスには様々な問題が生じる。例えばどのような内容の資料を収集・提供するか、同じ内容でも適切な媒体や価格・入手先の決定、個々の利用者のニーズ把握、著作権やプライバシー問題の解決、劣化や散逸に抗した長期保存の実現などである。それらの事情は図書館の種類によっても異なることから、図書館を国立・公共・大学・学校・専門図書館などに分けて説明し、各館種の使命や目的についても述べる。
授業計画	1. 知識・情報・メディア・コレクション 2. 印刷体の図書 3. 印刷体の雑誌・新聞 4. 電子ジャーナル・電子書籍・ネットワーク情報資源 5. 国立図書館 6. 公共図書館 7. 大学図書館 8. 学校・専門図書館 9. 選書・資料の収集 10. 資料の組織化・提供 11. 資料の保存 12. レファレンスサービスなどの直接サービス 13. 図書館の自由、検閲 14. 図書館を取り巻く法制度 15. 図書館に関する各種評価
授業の方法	講義による。
成績評価方法	試験(80%)および課題レポート(20%)による。
教科書	特になし。
参考書	『図書館情報学概論』リチャード・ルービン著/根本彰訳. 東京大学出版会、2014. 『図書館情報学基礎』根本彰編. 東京大学出版会、2013. 『情報資源の社会制度と経営』根本彰編. 東京大学出版会、2013. 『図書館制度・経営論』糸賀雅児・薬袋秀樹編. 樹村房、2013. 『図書・図書館史』佃一可編. 樹村房、2012. 『電子書籍と電子ジャーナル』日本図書館情報学会研究委員会編. 勉誠出版、2014.
履修上の注意・備考	特になし。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0994201	担当教員	勝野 正章、村上 祐介		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	金(Fri)3 [13:00-14:45]
講義題目	<b>教育行政調査演習 I</b> Seminar in Field Research on Educational Administration I				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定する。調査結果を報告書にまとめる。本演習は原則として教育行政調査演習 II とあわせて履修する。
授業計画	テーマの設定、先行研究の検討、実地調査、小グループ並びに全体での討議、報告書の作成。
授業の方法	大学での討議と実地調査を組み合わせで行う。時間割上に設定された時間以外に調査に出かける場合も生じることに留意してほしい。
成績評価方法	出席と報告書の執筆による。
教科書	特に指定しない。
参考書	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	



科目番号	0994202	担当教員	勝野 正章、村上 祐介		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>教育行政調査演習 II</b> Seminar in Field Research on Educational Administration II				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定する。調査結果を報告書にまとめる。本演習は原則として教育行政調査演習 I とあわせて履修する。
授業計画	テーマの設定、先行研究の検討、実地調査、小グループ並びに全体での討議、報告書の作成。
授業の方法	大学での討議と実地調査を組み合わせで行う。時間割上に設定された時間以外に調査に出かける場合も生じることに留意してほしい。
成績評価方法	出席と報告書の執筆による。
教科書	特に指定しない。
参考書	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0994203	担当教員	牧野 篤		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	火 (Tue)3 [13:00-14:45]、火 (Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	社会教育学演習 I Seminar in Adult and Lifelong Education I				

授業の目的・概要	社会教育・生涯学習を専門的に学ぼうとする受講者に、教育や学びが広く人が社会の中で生きようとすることに深く関わるものであることを理解してもらうために、社会的な課題に関わるトピックスや議論を取り上げて、文献を検討するとともに、地域の住民アクターとのかかわりを通して、地域社会で人が生きることとその課題を体験的に考察することを目的とする。
授業計画	本演習は文献講読を通して、住民の学びと社会活動との関係の基礎を学ぶとともに、住民アクターとのかかわりを通して、人々の活動に関与しつつ、住民が地域社会で活動することの意味を考察する。本演習では、地域社会への関与に先立って、今日の日本の地域社会が抱える諸課題をとらえるために、関連文献の講読を進める。取り扱う文献は、グローバル化の進展にともなう雇用構造の変化、少子高齢化がもたらす社会構造の変化、過疎化・高齢化に悩む地域社会のありよう、「無縁社会」と呼ばれる社会の出現、さらにこれらの社会にあって進められる「定常型社会」など新たな社会のあり方の模索など関するものであり、それらを教育と学習という実践の場においてどう受け止めるのかを考える。授業期間中にエクスカージョンなどの実習を予定している。
授業の方法	演習形式とし、とくにワークショップなどの手法を取り入れる。受講者の積極的な発言を期待する。エクスカージョンなど実習の後には、報告書の作成を進めるため、自覚的な探求的態度で臨むことが求められる。
成績評価方法	授業への参加とときどきのレポートにもとづき評価する。
教科書	牧野篤『「つくる生活」がおもしろいー小さなことから始める地域おこし、まちづくりー』(さくら舎) 牧野篤『生きることとしての学びー2010年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々ー』(東京大学出版会)
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	演習であるため、積極的な参加が求められる。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0994204	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	火 (Tue)1 [08:30-10:15]、火 (Tue)2 [10:25-12:10]
講義題目	教育方法学演習 Seminar of Research on Teaching and Curriculum				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標] この授業では、教育実践の研究課題や実践上の課題の概要を理解するとともに、教育方法学領域の研究方法の基礎のなかでも主に観察法を身につける。具体的には、以下の通りである。 1. 授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、教育評価、教師に関する、研究上、実践上の今日的課題について概要を理解する。 2. 授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、教育評価、教師に関して、研究課題を設定し、探究する。 3. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方を身につける。 4. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。 5. 教育方法学とはどのような学問か、自分なりの説明ができるようになる。 [授業の概要] 教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では、授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、評価、教師などのトピックごとに、近年の課題状況を概観したうえで、学校において授業観察を中心としたフィールドワークを行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
授業計画	<p>第1回 教育実践の課題(1)授業・教師 第2回 教育実践の課題(2)カリキュラム・教育内容・教育評価 第3回 教育実践の研究手法 フィールドワークと質的研究法(観察法、面接法) 第4回 教育実践の研究(1)フィールドワーク ① 第5回 教育実践の研究(2)中間報告会 第6回 教育実践の研究(3)フィールドワーク② 第7回 教育実践の研究(4)最終報告会</p>
授業の方法	<p>第1回～第2回は、主として講義と文献購読による情報の共有を行う。 第3回～第7回は、主として学校におけるフィールドワークの方法を学び、調査とその報告を行う。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>指定しない。</p>
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(共編)『教育研究のメソドロジー:学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会 佐藤学『教育方法学』岩波書店 秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 このほか、授業中に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>本授業は、A2 タームに開講される2時間連続の授業である。 情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動をすることになるので、注意されたい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0994205	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	火(Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>教育実践の歴史的研究</b> Historical Research on Educational Practice				

授業の目的・概要	戦後の教育実践の展開を、学校改革・教育改革の事例に即して検討する。教育実践の歴史を検討する方法についても考察を行う。
授業計画	1・2回 オリエンテーションとテーマ設定 3・4回 文献購読 5・6回 グループワークの中間発表 7・8回 論文発表 9・10回 文献購読 11・12・13回 グループワークの発表
授業の方法	文献購読 グループワーク
成績評価方法	平常点
教科書	特になし。
参考書	授業中に適宜指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0994206	担当教員	クリスファー・ボンデー		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	金(Fri)3 [13:00-14:45]、金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	日本の教育研究 Analysis of Japanese Education				

授業の目的・概要	Education serves multiple purposes in any society. It provides training and knowledge of specific information、 the “basics” if you will. In addition、 education also reflects what a given society considers important for future generations to know in order to be a functioning member of that society. In this course、 we will consider the expectations and outcomes of Japanese education by looking at both intended and unintended outcomes. Further、 we will consider how the education system provides for those who do not fit within this structure.
授業計画	Friday、 3 & 4
授業の方法	Discussion based、 with some lecturing as well.
成績評価方法	Attendance: 10% Take home midterm Exam: 30% Final Paper: 40% Participation: 20%
教科書	Required readings will be prepared by the instructor
参考書	Tsuneyoshi、 R. (2001) The Japanese Model of Schooling: Comparisons with the United States Tsuneyoshi、 R. K. Okano and S. Boocock (2011) Minorities and Education in Multicultural Japan. DeCoker、 G. and C. Bjork (2013). Japanese education in an era of globalization: Culture、 politics and equity
履修上の注意・備考	While the course will be conducted in English、 there may be some room for discussion in Japanese as well.
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0994501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	火(Tue)6 [18:45-20:30]
講義題目	<b>教育実践・政策学研究指導</b> Tutorial in Educational Administration and Adult Education				

授業の目的・概要	本コース所属学生のために、教育実践・政策学(教育行政学・社会教育学・図書館情報学・学校教育学)に関する卒業論文の執筆指導を行なう。
授業計画	各指導教員それぞれによって異なるが、基本的には以下のブロックから構成される：(1) 導入と卒業論文趣旨・形式の紹介 (2) テーマ選択 (3) 研究の仕方 (4) 研究成果のまとめ方 (5) 卒業論文の執筆 夏学期に1度、全体検討会を持つ。
授業の方法	各自が卒業論文に向けた研究に取り組み、それに基づいて議論を行なう。
成績評価方法	平常点による。
教科書	指定しない。
参考書	授業時に、テーマに関連した参考書を随時紹介する。
履修上の注意・備考	卒業論文執筆の規程を踏まえて履修すること。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995301	担当教員	能智 正博		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	金(Fri)3 [13:00-14:45]
講義題目	質的心理学研究法 Research Methods for Qualitative Psychology				

授業の目的・概要	<p>めまぐるしく変化する社会のなかで、教育や臨床の現場において現れてくる問題も変化しており、心理学もまた実験室的な研究だけではなく、現場の実践と関わりながらの新たなアイデアの探索と知識の生成が求められている。そうした背景のもとで近年注目されているのが、問題の発見と仮説生成を重視する質的研究であり、質的な方法を用いて〈現実〉にアプローチしようとする心理学の実践の全体を「質的心理学」と呼ぶ。本年は、インタビューを用いたナラティブ(語り)研究と自然場面の観察を用いたフィールドワークの方法についての理解を深めることを目標とする。</p>
授業計画	<p>1)イントロダクション 2)質的研究概説 3)語りとライフストーリー 4)自然場面の観察 5)参加観察の実践 6)インタビューの準備 7)インタビューの実践 8)質的データの分析① 9)質的データの分析② 10)分析技法の多様性 11)結果をまとめる 12)研究事例① 13)研究事例② 14)成果発表</p>
授業の方法	<p>実習、講義、受講生の発表を適宜用いながら、授業を進めていく。</p>
成績評価方法	<p>授業への出席と参加 60% 最終レポート 40%</p>
教科書	<p>能智正博 『質的研究法』(東京大学出版会、2011)</p>
参考書	<p>秋田喜代美・能智正博(監修)『はじめての質的研究法』シリーズ、医療編・教育学習編・社会臨床編・生涯発達編(東京図書、2007)</p>
履修上の注意・備考	<p>原則として、授業にすべて出席できる見込みがあることを受講の条件とする。基本的に授業は時間通りに始める。遅刻しないように。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学</p>

科目番号	0995302	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	月(Mon)2 [10:25-12:10]
講義題目	生涯発達心理学演習 Seminar in Life-span Developmental Psychology				

授業の目的・概要	胎児期から老年期に至る生涯発達のプロセスとメカニズムについて学ぶ。この演習の目的は、現代生涯発達心理学のホットなトピックを見極めることと時代の先を読んで新しい研究テーマを切り拓く感性やスキルを身につけることであり、また文献レビューの方法や研究デザインの組み方等について具体的な示唆を得ることである。
授業計画	実際の進め方としては、数名の者からなる小グループに分かれ、それぞれ1つの発達ステージを選択・担当する。そして、その発達ステージに関して、これまで、心理学・教育学およびその周辺諸科学では、どのような形で研究が進められてきたか、その動向を簡単に説明し、かつ、代表的な実証研究の概要を紹介する。また、その発達ステージに絡む現代的諸問題について論究し、その上で、批判的観点から、これまでの研究の問題点や欠落点等を指摘、さらにそれらを補うには、今後どのような研究を新たに実施していく必要があるか、具体的に研究計画の立案を試みる。
授業の方法	基本的に演習形式で行う。
成績評価方法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業時に適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	



科目番号	0995303	担当教員	市川 伸一、植阪 友理		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	月(Mon)3 [13:00-14:45]
講義題目	学習の相談と指導 II Counseling for Learning II				

授業の目的・概要	<p>この演習では、「～がわからなくて困っている」という学習者に対する相談・指導を通じて、認知研究と教育実践をつなぐ試みである「認知カウンセリング」について基本的解説を行い、受講者自らの日常場面でのケースを報告してもらう。これまでのゼミの例では、家庭教師の場面を利用した教科指導の例が多いが、必ずしもそれにとらわれる必要はない。報告は、できるだけ、心理学的、もしくは、教育方法的な研究と関連させることが望まれる。授業中のケース報告と討論を踏まえて、最終的には報告集を作成する。発表内容に即して、心理学的な解説を補足するが、認知心理学、教育心理学の入門的内容は予備知識として前提にするので、講義または書物で各自習得しておいてほしい。実際にどのような内容のことを行うかは、教科書、及び、これまでの学生が作成したケース報告集を参照すること。なお、昨年のIの単位取得者も受講することができる。</p>
授業計画	<p>はじめの数回で、認知カウンセリングの基本的な方法、関連する認知心理学的知識を解説する。その後、それぞれの受講者のケース報告とそれをめぐる討論を1回につき1～2名のペースで行っていく。</p>
授業の方法	<p>ゼミ形式で、講義、ビデオ視聴、発表、討論を行う。</p>
成績評価方法	<p>発表、討論、レポートを総合的に評価する。</p>
教科書	<p>必要に応じて資料を配付する。</p>
参考書	<p>【参考書】市川伸一(著)「学習と教育の心理学 増補版(現代心理学入門3)」岩波書店 市川伸一(編)「学習を支える認知カウンセリング――心理学と教育の新たな接点――」ブレーン出版 市川伸一(編)「認知カウンセリングから見た学習方法の相談と指導」ブレーン出版</p>
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995304	担当教員	秋田 喜代美		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	月(Mon)3 [13:00-14:45]
講義題目	教授・学習心理学演習 Seminar on Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	教室や保育における談話分析の方法や概念について文献を読んで知識を得るとともに実際に保育あるいは教室観察を小グループで実施し談話を分析する方法を学び協働で学び合う過程についての理解を深める。
授業計画	授業前半6回は、文献購読並びに録画DVDによる談話分析、授業後半9回は幼稚園や保育所あるいは小中学校での小グループで複数時間の談話データを収集し比較検討を行うとともにその発表検討を行う。
授業の方法	文献購読、その概念に基づく分析、そして実際のフィールドでの小グループでの複数回のデータ収集と分析、結果報告という方法をとる。
成績評価方法	演習への出席と関与、小グループでのフィールドワークによるグループレポートによって行う。
教科書	特に指定せず必要な文献を紹介する。
参考書	秋田喜代美(編)「教師の言葉とコミュニケーション」教育開発研究所2010 秋田喜代美(編)「対話が生まれる教室」教育開発研究所2014 日本保育学会「保育学講座全5巻」東京大学出版会
履修上の注意・備考	学外フィールドでの観察が入るために、開講予定の時間以外にも授業が行われることがあることをあらかじめ留意されたい。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995306	担当教員	上岡 洋晴		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	火 (Tue)1 [08:30-10:15]、火 (Tue)2 [10:25-12:10]
講義題目	身体教育方法論 Methodology of Physical and Health Education				

授業の目的・概要	<p>本授業では、発育過程にある子どもが、運動嫌いにならず、自分のからだを上手に動かすことができること、生涯スポーツ(身体活動・運動)に繋がるようにすることについての教育方法論を学ぶ。具体的には、学校体育、部活動、生涯スポーツなどがその範疇となる。年齢や学年に応じた指導方法の具体例や実践(ロールプレイ)を踏まえての講義と学生自身の調査報告を中心に授業を進める。親子一緒に運動体験、幼児教育(体育)、学校体育、大学体育(学生)、あるいはスポーツ少年団・部活動・自主サークルの実状とその問題点を明らかにすることが議論の出発点となる。例えば、身体活動・運動の質と量が多い子どもと、そうでない子どもの二極化の対策方法、多くの大学で「体育」がないために学生時代にまったく運動を実践せずに就職していく若者と「メタボリック・シンドローム」の問題などは議論しておくべき必須事項である。また、何らかの原因で一度運動嫌いになると、以後の参加がかなり困難になることが知られており、これを防ぐ手立て考えることも現在の体育に求められる大きな課題である。ある動作の学習(例えば、投げる)において、知的発達段階に応じた上手なインストラクション(言語・非言語)の基本を知ること不可欠である。授業は、講義に加えて、事前に設定したテーマに基づき、担当する受講者が、図書・論文・各種統計資料などをまとめてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする形式で進める。体育の教職の単位取得を希望している学生はもちろんのこと、体育のあり方について興味のある学生には適した授業内容である。なお、この科目は教科に関する科目「(体)保健体育科の指導方法」「(保)保健科の指導方法」に該当する。</p>
授業計画	第1-5回は講義、第6-7回は履修学生による個人テーマ別のプレゼンテーションとする。
授業の方法	資料・新聞記事・パワーポイント・映像などを用いた講義や、教室内でできる簡単な軽運動の実習(インストラクションなどのポイント学習)を行う。プレゼンテーションでは、パワーポイントを用いて、自身でテーマを選び、20分間程度説明した後10分間の質疑応答を行う。
成績評価方法	毎回の授業の最後に5分間程度で記載してもらったミニレポートと、プレゼンテーションの内容(質)とその明快さ(分かりやすさ)を総合して評価する。テストは実施しない。
教科書	とくになし。
参考書	文部科学省:小学校学習指導要領(体育編)、中学校・高等学校学習指導要領(保健体育編)
履修上の注意・備考	履修者によるプレゼンテーションは、単位取得の必須条件とする。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)保健体育科の指導法 (保)保健科の指導法 便覧(注1)参照

科目番号	0995307	担当教員	野崎 大地、森田 賢治		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	火(Tue)2 [10:25-12:10]、金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	バイオダイナミクス BioDynamics				

授業の目的・概要	腕を伸ばす、立つ、歩くといった動作の制御から、動作遂行や環境変化に際して呼吸・循環系が生体恒常性を維持するように働く機構にいたるまで、身体運動には多くの生体調節システムの働きが関与している。身体運動を本質的に理解するには、生体調節システムの構成要素の知識だけでは不十分であり、各要素がどのように相互に組み合わせられ、全体としてうまく機能しているのかという視点が不可欠である。本講義では、生体システムの調節に関して、具体的な例を紹介しつつ、その背後にある仕組みについて、理論・数理的視点も交えて解説する。
授業計画	下記の内容について、一回または二回ずつ講義を行っていく予定である。1. イントロダクション 2. 運動とリズム ～歩行や鼓動の背後にある仕組み～ 3. 神経活動のダイナミクス ～神経活動の生成の仕組み～ 4. 筋収縮のメカニクス ～筋はどうやって力を産み出すか～ 5. 筋骨格系のモデル ～筋により駆動される身体運動～ 6. 身体運動のダイナミクス ～身体運動の運動方程式～ 7. 身体運動のエナジェティクス ～エネルギー変換機としての身体～ 8. 身体運動の制御 ～脳が身体運動を制御する仕組み～ 9. 学習と記憶のダイナミクス ～神経回路の働きから認知・行動へ～ 10. 意思決定のダイナミクスと自由意思
授業の方法	講義形式で行う。使用教材等を下記 URL に置く予定である。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	使用教材等を、以下の URL に置く予定である。パスワード等は講義中に知らせる。 <a href="http://researchmap.jp/dnozaki/">http://researchmap.jp/dnozaki/</a> 資料公開/ <a href="http://researchmap.jp/kenjimorita/">http://researchmap.jp/kenjimorita/</a> 資料公開/
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)運動学(運動方法学を含む)

科目番号	0995308	担当教員	佐々木 司		
単位数	2	学 期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時 限	月(Mon)5 [16:50-18:35]
講義題目	<b>教育の疫学入門</b> Studying Epidemiology in the Field of Education				

授業の目的・概要	<p>健康教育に関連する疫学の概念・方法論(疫学研究の様々なスタイル、統計の基本的知識を含む)の理解を目的とする。これらの理解は、今後教育学の分野でも evidence-based の科学的実証性が次第に要求されるに従って不可欠のものになると考えられ、また将来社会人や研究者となったときの業務・政策等の立案・理解にも極めて重要である。またこの理解を通じて、世の中にあふれる「科学情報」の中で、信頼できる情報とそうでない情報を区別するポイントについて習得することも目標の1つである。これらの力は、学問の世界のみでなく行政、マスコミ、実業界等で活躍する上でも今後必要不可欠になると考えられる。</p>
授業計画	<p>学期の前半は、公衆衛生と疫学研究に関する基礎知識を習得する。後半は、こちらで指定した論文の中から、各回2-3編を担当学生がそれぞれ紹介し、熟読する。論文は、主に精神疾患、精神保健の疫学研究に関する近年のものから指定する。</p>
授業の方法	<p>基本的に講義形式で行う。ただし履修者の数に応じて細かい方法は適宜が検討する。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加度(出席含む)と期末試験</p>
教科書	<p>中村好一著「基礎から学ぶ、楽しい疫学(第3版)」医学書院</p>
参考書	<p>S.B.Hulley ら著(木原雅子、木原雅博訳)「医学的研究のデザイン: 研究の質を高める疫学的アプローチ(第3版)」メディカル・サイエンス・インターナショナル Kenneth J. Rothman. Epidemiology: An Introduction (2nd Ed). Oxford University Press 2012. (日本語翻訳もあり、授業の最初に紹介する)</p>
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (体)(保)衛生学及び公衆衛生学 便覧(注1)参照</p>

科目番号	0995309	担当教員	山本 義春、内匠 透		
単位数	2	学 期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時 限	金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	教育の生理学 Educational Physiology				

授業の目的・概要	教育生理学は、教育対象の精神的・身体的機能のうち、教育の受け容れを可能にする諸機能と、それらに対する教育内容・方法・環境等の影響を生理学的に説明することを目的とする。本講義では特に、神経系の構造と機能を学び、運動や学習と記憶等の教育の神経生理学的基盤および睡眠や精神機能の成り立ちとその破綻について理解を深めることを目指す。
授業計画	以下のトピックスに関連する文献を読み、その生理学的背景を検討する。 ・神経系の構造と機能(細胞、神経系、薬理) ・運動の制御 ・睡眠と生体リズム ・情動 ・学習と記憶 ・統合失調症と感情障害 ・不安障害と発達障害
授業の方法	文献講読および下記 URL での教材を用いた解説
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小試験による総合評価
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む) (保)生理学 便覧(注1)参照

科目番号	0995310	担当教員	多賀 巖太郎		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	月 (Mon)2 [10:25-12:10]、木 (Thu)2 [10:25-12:10]
講義題目	心と脳の発達 Development of Mind and Brain				

授業の目的・概要	人間の発達は、胚の形態形成にはじまり、胎児や新生児に与えられた遺伝的要因と生得的な能力、自らを変化・発展させる内在的な機構、物理的環境や他者との相互作用により適応・学習していく機構などが複雑にからみあう現象である。本演習では、講義及び受講者による原著論文講読、レポート作成、プレゼンテーションを行い、発達脳科学に関わる基本的概念を学ぶ。
授業計画	
授業の方法	講義、受講者によるプレゼンテーションとディスカッション。
成績評価方法	レポート、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に評価する。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)体育心理学に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育心理学

科目番号	0995311	担当教員	山本 義春、東郷 史治		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	火(Tue)1 [08:30-10:15]、金(Fri)1 [08:30-10:15]
講義題目	安全・安心教育 Safety and Security Education				

授業の目的・概要	近年、我が国の交通事故件数や交通事故死亡者数が減少する一方で、自殺率の増加、地球温暖化、原発事故、薬物など、子どもの生命や心身の健康などを脅かす身近な危険因子は多様化しつつある。これに対し学校では、交通安全のみならず生活安全と災害安全の領域にわたり、児童生徒等の安全確保の取り組みが進められている。そこで本授業では、医学・生物学・理工学を含む学際的視点から、現在の学校と日常生活全般における安全確保のために必要な主要事項を理解し、生涯を通じて安心・安全な生活を送る基礎を培うとともに、安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことを目標とする。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。ガイダンス 学校安全(1):安全教育 学校安全(2):体育・スポーツ活動中の事故 災害安全(1):安全安心科学 災害安全(2):救命処置 現代生活安全(1):薬物乱用 現代生活安全(2):飲酒・喫煙 現代生活安全(3):精神保健 現代生活安全(4):インターネット・情報セキュリティ 現代生活安全(5):労働安全衛生 現代生活安全(6):高齢社会 環境安全(1):熱中症 環境安全(2):感染症 定期テスト
授業の方法	学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。
成績評価方法	平常点(出席)、プレゼンテーション、試験による総合評価。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)(保)学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む)」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)(保)学校保健 便覧(注1)(注2)参照



科目番号	0995312	担当教員	岡田 猛、細川 文昌		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	月 (Mon)4 [14:55-16:40]、月 (Mon)5 [16:50-18:35]
講義題目	写真表現実践演習 Creative photography for beginners				

授業の目的・概要	芸術創造のプロセスについて理解を深める。そのため、本講義では、受講生自身に研究参加者として数ヶ月の芸術創作活動に参加し、自身で創造的活動を体験してもらう。具体的には、授業内で数ヶ月に渡って写真創作を行い、一つの作品集を作ってもらう。そのうえで、芸術における創造性や創造的熟達に関する体験から得られた洞察を共有する。
授業計画	1)ガイダンス 2~11)写真創作についての講義 12)作品発表会 13) 芸術創作の体験に基づくディスカッション、及び、講師の作品鑑賞
授業の方法	創作活動期間中、受講生は、貸し出しされたカメラを利用して創作活動を行い、活動の記録を授業用ウェブサイトに掲載する。
成績評価方法	全授業への参加と課題提出を受講条件とし、毎回の課題提出とレポートを評価対象とする。
教科書	無し
参考書	授業で適宜紹介する
履修上の注意・備考	カメラ機材の関係で、定員 15 名までとする。写真に興味があり、全授業に参加可能な学生を対象とする。写真創作未経験者、及び、経験の浅い学生を歓迎する。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995313	担当教員	滝沢 龍		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	
講義題目	臨床心理学演習 Seminar of Clinical Psychology				

授業の目的・概要	臨床心理学、健康心理学、精神医学、メンタルヘルスの分野における最新の知見を含む英語テキストを読み、概要を発表する演習である。将来、社会人となっていく参加者自らが、予防的なセルフヘルプの知識と実践を身につけることも目標とする。
授業計画	1. イントロダクション(英語テキストの紹介) 2. 発表と議論 3. 発表と議論 4. 発表と議論 5. 発表と議論 6. 発表と議論 7. 発表と議論 8. 発表と議論 9. 発表と議論 10. 発表と議論 11. 発表と議論 12. 発表と議論 13. 発表と議論 14. 発表と議論、まとめ。
授業の方法	演習形式。第1回のイントロダクションで、英語テキストの参加者の興味がある章から、それぞれ担当者(各回2名ずつ程度)を決める。担当者には内容をまとめて、担当回に発表してもらう。発表担当回でない他の参加者は質疑などの建設的な議論に加わる。
成績評価方法	平常点(100%):リアクションペーパー(主に出席点)と授業への参加状況などで評価する。
教科書	特になし。プリントを配布することがある。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	第1回のイントロダクションで、英語テキストと担当者を決めるため、必ず参加すること。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995401	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時 限	火(Tue)2 [10:25-12:10]
講義題目	心理統計学 II Psychological Statistics II				

授業の目的・概要	統計的検定の基礎と応用について理解を深める。
授業計画	下記の事柄を 13 コマで実施する。 1. 推定量とその標準誤差 2. 検定の考え方 3. 検定力とその利用 4. 区間推定の考え方 5. 独立な 2 群の平均値差の検定 6. 平均値差および効果量の区間推定 7. 対応のある 2 群の平均値差の検定と推定 8. 2 群の比率の差の検定 9. カテゴリ変数間の連関の分析 10. 変数と統計量のベクトルによる表現 11. 回帰分析のベクトル表現 12. 平方和および分散の分割 13. 独立変数の効果の検定と自由度 14. 平均値差への回帰分析的アプローチ 15. 線形モデルに基づく統計的方法
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002 年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009 年)
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995402	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時 限	火(Tue)2 [10:25-12:10]
講義題目	心理統計学 III Psychological Statistics III				

授業の目的・概要	回帰分析・分散分析・因子分析・共分散構造分析の基礎について理解する。
授業計画	下記の事柄を 13 コマで実施する。 1. 部分相関係数と偏相関係数 2. 偏回帰係数とその解釈 3. 重回帰分析のしくみ 4. 平方和の分割と重相関係数の検定 5. 個々の独立変数の寄与の評価 6. 完全無作為 1 要因デザイン 7. 多重比較の考え方 8. 完全無作為 2 要因デザイン 9. 対応のある 1 要因デザイン 10. 共分散分析 11. 因子分析の考え方とモデル 12. 因子分析のしくみと因子の解釈 13. 因子の回転 14. 共分散構造と母数の推定 15. 共分散構造分析による潜在変数間の関係の分析
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002 年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009 年) 南風原朝和『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』(東京大学出版会, 2011 年)
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995403	担当教員	星加 良司		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	火(Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	デイリアビリティ・スタディーズ Disability Studies				

授業の目的・概要	<p>デイリアビリティ(障害=「できなさ」)について考えるとは、どのような営みだろうか？それは、「できなさ」を抱える個体の性質について知ることと同時に、いやむしろそれ以上に、「できること」を条件付け、意味付け、価値付けている社会のあり方について考察することである。この授業では、(1)近年の新しい障害研究のパラダイムと、それに基づく基礎的な理論枠組みについて理解するとともに、(2)社会システムを支える様々な制度や規範と障害問題との連関について、多角的に分析する視点を獲得することを目的とする。</p>
授業計画	<p>概ね以下の内容に沿って授業を行う。テーマの順序については事情により前後することがある。 1. ガイダンス 2. デイリアビリティとは何か I: 近代のカテゴリーとしての障害 3. デイリアビリティとは何か II: 無力化のメカニズム 4. デイリアビリティとは何か III: リスク社会と排除される身体 5. デイリアビリティとは何か IV: 「障害の社会モデル」という視点 6. デイリアビリティとは何か V: 「障害平等」はいかにして可能か 7. 文献講読 I 8. 文献講読 II 9. 文献講読 III 10. 文献講読 IV 11. デイリアビリティとは何か VI: デイリアビリティとエイブルイズムとエイブルイズム 12. ゲストスピーカーとの対話 13. まとめ</p>
授業の方法	<p>教員による講義、学生による文献報告、ゲストスピーカーを迎えての対話等を組み合わせて授業を進める。いずれの形式においても、学生の主体的・積極的な参加により、インタラクティブにディスカッションを展開することが期待されている。</p>
成績評価方法	<p>平常点50%、レポート50%の比率で評価を行う。平常点は、授業時の報告内容や討論への参加状況について、的確性・論理性・積極性等を考慮して評価する。レポートは、授業の終了時に提出を求め、授業目標への到達度の観点から評価する。</p>
教科書	なし
参考書	初回授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>障害問題についての予備的な知識は特に必要としない。受講者は、指定文献を予め熟読する等、授業でのディスカッションのための十分な準備を行うことが期待される。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995404	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2	学 期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時 限	月(Mon)2 [10:25-12:10]
講義題目	社会性の発達心理学 Psychology of Socioemotional Development				

授業の目的・概要	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの社会情緒的側面の発達について概説するとともに、そこに生じる個人差が遺伝と環境のいかなる要因によって規定されるかについて考察を行う。
授業計画	具体的には以下のようなテーマについて掘り下げて論じることしたい。 ・乳幼児期における社会的知覚(顔・表情・視線・発声などの知覚・理解) ・原初的コミュニケーションの起源と発達(言葉を準備する非言語的コミュニケーション) ・感情および感情制御・感情的知性の起源と発達 ・自己および自他理解の起源と発達 ・子どもの心的理解の起源と発達 ・共感性・道徳性と向社会的行動の起源と発達 ・子どもの対人関係の起源と発達 ・社会性に関わる発達上の病理・障害とその支援 ・社会性発達の進化論的基盤・遺伝的基盤・脳神経学的基盤・環境的基盤 ・親子関係から alloparenting/allocare へ etc.
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	出席状況と試験成績によって評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業時に適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995405	担当教員	岡田 猛		
単位数	2	学 期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時 限	木(Thu)2 [10:25-12:10]
講義題目	創造性の心理学 Psychology of Creativity				

授業の目的・概要	創造性の心理学、特に「創造性への認知的アプローチ」を中心とした心理学・認知科学の研究知見について紹介する。この講義では、研究領域をくまなく概観することを目指すのではなく、芸術創作や科学的発見などに関する研究の具体例を詳細に紹介しながら、その背後にある考え方や方法論を理解できるように心がける。なお、実際に創造活動に携わっている専門家の講演も予定している。
授業計画	・授業案内 ・熟達化 ・創造性の定義 ・創造性の概説 ・科学的発見 ・妥当性境界 ・面白い研究とは ・芸術創作活動 ・芸術的インスピレーション ・表現支援 ・即興ダンス ・伝統と創造 ・創造性評価 等
授業の方法	基本的には、講義形式の授業である。加えて、参加者間のディスカッションやゲストスピーカーの講演等も計画している。受講生は宿題として、文献を読んで授業に臨むことが求められる。
成績評価方法	毎回の授業のレポートの提出と最終レポートにより評価する。
教科書	教科書は特に定めず、授業中に適宜関連文献を紹介する。
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995406	担当教員	板倉 昭二		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	ロボットを通して探る子どもの心 Understanding the children's minds through a robot: Challenge of Developmental Cybernetics				

授業の目的・概要	本講義では、発達科学の新しい方法として、ヒト以外のエージェント、すなわちロボットを、ヒト乳児がどのように認識するのかを探ることによって、社会性の発達を論じる。また、Developmental Cybernetics という新しい学問領域の理解することを目標とする。
授業計画	
授業の方法	パワーポイントを用いて授業を行う。なお、資料として、パワーポイントの PDF を配布する。
成績評価方法	授業日の最終時間に簡単な小テストを実施し、評価を行う。
教科書	特になし
参考書	板倉昭二・北崎充晃 編著 「ロボットを通して探る子どもの心—ディベロップメンタル・サイバネティクスの挑戦」(ミネルヴァ書房 2013年)
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	



科目番号	0995407	担当教員	鈴木 雅之		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	教育評価 Educational Evaluation				

授業の目的・概要	本講義では、教育心理学的観点から教育評価を捉え、教育実践の中でどのように評価を行っていくべきかについて考察する。また、人の様々な特性を測定するという問題について理解を深めるために、教育測定に関する理論についても学ぶ。さらに、教室の中での評価活動にとどまらず、入学試験制度や全国学力テストなどの学力調査に関する話題も取り上げる。
授業計画	1.教育評価とは 2.妥当性と信頼性 3.テスト理論 4.テストデータの分析 5.教育測定・評価の歴史1 6.教育測定・評価の歴史2 7.教育評価の方法 8.診断テスト 9.指導と評価 10.自己調整学習と評価 11.教育評価の影響1 12.教育評価の影響2 13.入学試験制度 14.学力調査 15.まとめ
授業の方法	講義と演習を中心に進める。
成績評価方法	主に最終レポートで評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書	野口裕之・大隅敦子 (2014). テスティングの基礎理論 研究社 佐藤浩一 (2013). 学習の支援と教育評価 北大路書房 田中耕治 (2008). 教育評価 岩波書店
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995408	担当教員	武見 ゆかり		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	木(Thu)1 [08:30-10:15]
講義題目	<b>栄養学概論</b> Introduction to Human Nutrition				

授業の目的・概要	<p>栄養とは、人間が食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れ代謝して生命活動を続ける営みをいう。人間の健康の維持、増進のためには適切な栄養が必要である。人間は、食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れながら、こうした栄養の営みを行っている。本講では、人間の栄養の営み及び食生活を、地域社会や環境との関わりも含めてとらえるための基礎と応用を学習する。同時に、自分を事例として、健康状態やライフスタイルに合った、望ましい食生活を実現できる力の修得も目的とする。</p>
授業計画	<p>1. オリエンテーション、「栄養学」の視野1:世界における栄養の二重苦-飢餓と摂取過剰 2. 「栄養学」の視野2:人間が食に求めるもの、家族や友人との共食 3. 何をどのくらい食べたらよいか:食事バランスガイド 4. 何をどのくらい食べたらよいか:6つの基礎食品、四群点数法 5. 食事アセスメントの基本としての食事調査法 6. 栄養素の機能と代謝① 炭水化物(糖質、食物繊維) 7. 栄養素の機能と代謝② 脂質 8. 栄養素の機能と代謝③ たんぱく質 9. 栄養素の機能と代謝④ ビタミン、ミネラル、水分 10. どの栄養素をどのくらい摂取したらよいか:食事摂取基準 11. スポーツと栄養 12. 健康と食生活の現状と課題:国民健康・栄養調査結果を中心に 13. 農業政策と栄養政策、「健康な食事」実現のための食環境整備 14. 健康・栄養情報の読み解き方:ヘルスリテラシーを高めよう 15. まとめ:自分のライフスタイルにあった健康な食生活の実現に向けて</p>
授業の方法	原則講義形式。一部演習も実施。
成績評価方法	試験(持込不可)、および提出物の内容から、総合的に評価
教科書	必要資料は随時配布。参考図書を紹介。
参考書	香川靖雄「やさしい栄養学」(女子栄養大学出版社) 上西一弘「食品成分最新ガイド 栄養素の通になる」(女子栄養大学出版社) 武見ゆかり・吉池信男編「食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル」(第一出版)
履修上の注意・備考	開講中に数回、授業内容に関するコメントなどの提出を求めらるので、それに適宜対応すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (保)栄養学 便覧(注1)参照

科目番号	0995409	担当教員	佐々木 司、川内 基裕		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	月 (Mon)3 [13:00-14:45]、月 (Mon)4 [14:55-16:40]
講義題目	機能解剖学 I Functional Anatomy I				

授業の目的・概要	身体(脳・神経を含む)の構造ならびに機能に関する基本的な知識を学習する。できるだけ、器楽演奏、声楽、舞踊、スポーツなどの身体運動訓練とその学習の理解、健康の維持・増進とその教育に役立つ視点からの講義を行う。教室などの環境が許せば楽器演奏、声楽などの実習を行いながらの講義も行いたい。ない冬学期の機能解剖学Ⅱとともに単位を取得した者には、解剖実習への参加の権利が与えられる可能性がある。
授業計画	全 15 回のうち、最終回は試験とし、残り 14 回を、総説、呼吸器、循環器、血液、消化器、筋・骨格系、神経・感覚器、生殖・発生に分けて講義を行う。講義は佐々木と川内とで、分野によって分担する。
授業の方法	基本的に講義形式
成績評価方法	期末試験と出席点(小テストを授業で施行した場合にはその点数が加わる)
教科書	佐々木担当の授業では、坂井建雄、橋本尚詞「ぜんぶわかる 人体解剖図」成美堂出版 を教科書とする。
参考書	坂井建雄、久光正「ぜんぶわかる 脳の事典」成美堂出版 藤田恒夫「入門人体解剖学」南江堂
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)(保)衛生学及び公衆衛生学 便覧(注 1)参照

科目番号	0995410	担当教員	本間 典子		
単位数	2	学 期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時 限	金(Fri)3 [13:00-14:45]
講義題目	機能解剖学 II Functional Anatomy II				

授業の目的・概要	<p>人体の基礎概念(主たる器官の名前や大まかな機能)は夏学期の機能解剖学 I である程度わかっているものとする。その上で、機能解剖学 II では顕微鏡観察、骨学、肉眼解剖学といった実物を見る、触るという体験をできるだけ多く取り入れようと考えている。</p>
授業計画	
授業の方法	講義及び実習
成績評価方法	出席とレポートによる
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	機能解剖学 II の受講には夏学期の機能解剖学 I が履修済みであることが必須である
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

科目番号	0995411	担当教員	市川 伸一、山本 義春、佐々木 司、東郷 史治		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	火(Tue)5 [16:50-18:35]
講義題目	ストレス・マネジメント概論 Introduction to Stress-Management				

授業の目的・概要	生活上でさまざまな課題、あるいは心理・社会・生物学的ストレスに出会うことは誰もが避けて通れないことである。本講義では、そのような課題やストレスに対処し、それを克服するためのスキルと身体基盤の獲得・向上に必要な知識の習得を目的とする。特に大学生活、あるいは卒業後の生活における課題、ストレスへの対処力向上を、将来の市民的エリートに必要とされる相互扶助精神の涵養とともに図ることを目標とする。この講義で得られた知識やスキルをもとに、受講者自身の健康増進と維持、生活の充実をはかるとともに、自分の周囲の人々、社会全体の幸福の実現、相互の扶助に貢献できる人材として各学生が成長することを期待する。学部・大学院を問わず、また教育学部のみでなく、全学の学部・研究科学生の履修を歓迎する(単位認定については各学部・研究科の規定による)。
授業計画	講義は毎回オムニバス形式で設定されたテーマごとに、教育学部心身発達専修ならびに本学学生相談ネットワーク本部(精神保健支援室、学生相談所など)の各教員が授業を行う。各回の講義テーマは、オリエンテーションおよび相談機関の紹介、学習の動機付け、生活リズムと心身の健康、不安とつきあう、メンタルヘルス、ストレスと心理的課題、親密な人間関係の発達・発展(家族療法コミュニケーションの知見から)、ハラスメントについて、社会人生活とメンタルヘルス、身体運動とメンタルヘルス、キャリアについて考える、などを予定している。各回の予定の詳細については、教育学部学生支援チームホームページ( <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-keiji/H20g-keiji.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-keiji/H20g-keiji.htm</a> )を参照してください。
授業の方法	基本的には講義形式で行うが、各回で若干異なる
成績評価方法	毎回の講義で課す小レポート(小テスト形式の場合もある)で行う。毎回講義の最後に記述してもらい提出する。このレポート(小テスト)提出は出席の確認も兼ねる。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	常識的なことであるが、レポート(小テスト)提出は各自一人分を提出すること。複数人のレポートを1人が提出することは、公正な採点を行う必要があるため、認めない。遅刻や途中退出の場合も当然ながらレポート提出は認められない。(不正行為は、所属学部・研究科の規定に基づき、厳格に処分しているので要注意のこと) 本科目の単位は、学生相談ネットワーク本部でのピアサポート活動に参加する「ピアサポーター」資格取得のための単位の1つともなる。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健 便覧(注2)参照

科目番号	0995412	担当教員	能智 正博、下山 晴彦、野崎 大地、星加 良司、東郷 史治、		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	金(Fri)5 [16:50-18:35]
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：「バリア」の認識論(星加) 第3回：社会現象としての障害(星加) 第4回：障害によって明らかにされた脳の働き(野崎) 第5回：障害を科学の力で克服する試み(野崎) 第6回：障害者の語り(能智) 第7回：当事者研究の可能性(熊谷) 第8回：3・11の問題系と障害(仁平) 第9回：(調整中)(小国) 第10回：うつ病からの回復とバリアフリー(下山) 第11回：教育のバリアフリーとICT利用(近藤) 第12回：日常生活の安全安心と心身の健康(東郷) 第13回：総括
授業の方法	オムニバス形式の講義を行う。
成績評価方法	受講生の積極的な授業参加による貢献を重視する。すなわち討論における課題提起や、随時課されるエッセイ等の提出に基づいて、総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995413	担当教員	渡邊 克巳		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	集中(Int)
講義題目	認知科学特論 Seminars in Cognitive Sciences				

授業の目的・概要	人間を含む情報処理システムの認知・判断・行動の実証科学として、多くの学問領域の重なりとして発展してきた認知科学・認知心理学の、コンセプトの知見の概説と行い、日常生活との接点を探ります。
授業計画	この授業では、認知行動の意識的・無意識的過程を科学的に解明しようとする認知科学・認知心理学という分野をわかりやすく紹介します。前半ではさまざまな事例を挙げながら、認知科学・認知心理学についての全体像を理解できるように説明します。後半では、最近の研究の中から、さまざまなテーマを採り上げてお話しします。
授業の方法	講義
成績評価方法	授業への参加とレポートで評価します。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	いろいろなトピックを短期間で取り上げますが、相互の関連も探るようにしてください。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0995414	担当教員	中邑 賢龍、星加 良司、熊谷 晋一郎、福島 智、巖淵 守ほか		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	水(Wed)4 [14:55-16:40]
講義題目	バリアフリー総論 Introduction to Barrier-free Studies				

授業の目的・概要	<p>歩道にひいてある黄色い点字ブロックのデコボコが不便だと感じたことはありませんか？満員の通勤電車に電動車いす利用者が乗って来たら少し迷惑だと感じますか？ 近年、わたしたちの周りでは、「バリアフリー化」と呼ばれる環境整備が様々な場面で進められており、多くの場合、それは障害者にとって「やさしい」ことだと肯定的に受け止められています。ところが、ある障害者にとって「やさしい」環境を整備しようとしたところ、それが別の障害者や障害をもたない人たちにとって「やさしくない」環境を生み出してしまう、という事態も起きています。このように考えると、バリアフリーとは、一方で問題を解決しつつも、他方で別の問題を新たに生み出してしまうという二重性を内在した営みだと言うことができます。本講義では、バリアフリー化によって生み出される新たな問題と、その問題をめぐって人びとの間に引き起こされる衝突・対立を「バリアフリー・コンフリクト」というキーワードで捉えます。本講義を通じて、多様化、複雑化が進む現代社会において生じている様々なコンフリクトと向き合い、解決していくための技法について一緒に考えていきましょう。</p>
授業計画	<p>以下に示したテーマでの集中講義を行います。・バリアフリーコンフリクトとは何か ・「回復」と「代償」のあいだ ・役立つはずなのに利用されない… 支援技術の開発と利用の狭間 ・読み書きできない子どもの難関大学進学は可能か？ ・障害者への割引サービスをずるいと感じるあなたへ ・裁かれない人がいるのはなぜか？ ・全体の振り返りとまとめ</p>
授業の方法	<p>本授業は、東京大学先端科学技術研究センターに所属する教員(中邑賢龍, 福島智, 巖淵守, 近藤武夫, 熊谷晋一郎)および東京大学学院教育学研究科付属バリアフリー教育開発研究センター(星加良司)に所属する教員がオムニバス形式で行う講義です。</p>
成績評価方法	<p>期間終了後に提出を求めるレポートによって評価を行います。</p>
教科書	<p>なし</p>
参考書	<p>『バリアフリー・コンフリクト 争われる身体と共生のゆくえ』中邑賢龍, 福島 智(編), 東京大学出版会, 2012年9月</p>
履修上の注意・備考	<p>授業内容の問い合わせについては、直接担当教員までご連絡下さい。 教室は先端科学技術研究センター3号館2階207室になります。</p>
教育職員免許法上の認定科目	



科目番号	0996101	担当教員	能智 正博、下山 晴彦、高橋 美保		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	火(Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	臨床心理学入門 Introduction of Clinical Psychology				

授業の目的・概要	臨床心理学は、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進するとともに、不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」として定義される。2015年9月に公認心理師法が国会で成立し、心理職の国家資格化が実現した。この心理職の専門活動の基盤となるのが臨床心理学である。本講義では、専門職としての公認心理師の基本となる知識と技能を解説する。
授業計画	1. 臨床心理学とは何か: 発展の歴史 2. 臨床心理士として必要な知識と技能 3. 臨床心理学の生物的基盤 4. 臨床心理学の心理的基盤 5. 臨床心理学の社会的基盤 6. 技法1: 認知行動療法 7. 技法2: 家族療法 8. 技法3: コミュニティ心理学 9. 質的研究 10. 効果研究 11. 脳科学・生物的研究 12. 研究と実践の倫理 13. 臨床心理学の発展に向けて *講義の順番・内容は変更になる可能性があります。
授業の方法	基本的に講義形式だが、回によってはディスカッションを交え、ミニ・レポートを課す場合もある。
成績評価方法	授業の内容についての筆記試験を通じて成績評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	原則として全回出席の見込みがある学生のみ履修を認める。心理学だけでなく、さまざまな分野の学生の参加を歓迎する。 なお、この授業は、学部横断型バリアフリー教育プログラムの一般科目として認定されている。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0996102	担当教員	藤村 宣之		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	木(Thu)2 [10:25-12:10]
講義題目	教授・学習心理学概論 Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	教授・学習にかかわる認知プロセス, 小学校～高校の授業における教授・学習のプロセス, それに関連する子どもの発達のプロセス, それらの学習や発達を促進する学習方法について一人一人の学習者の視点から心理学的に明らかにする。それらの心理学的知見をもとに, 子どもの学力やリテラシーの形成に有効な学習方法やカリキュラムについて検討する。
授業計画	第1回:子どもの学力の心理学的分析①(数学的・科学的リテラシー, 概念的理解) 第2回:子どもの学力の心理学的分析②(読解力, 無答率, 学習観, 手続き的知識) 第3回:教授・学習のベースとなる発達プロセス①(発生的認識論, ピアジェ, 構成主義) 第4回:教授・学習のベースとなる発達プロセス②(素朴理論, 素朴概念, 領域固有性) 第5回:教授・学習に関わる認知的プロセス①(知識獲得, 熟達化, 初心者と熟達者) 第6回:教授・学習に関わる認知的プロセス②(発見学習, 有意味受容学習, 認知的葛藤) 第7回:授業を通じた短期的変化と学習方法①(既得知識, 概念変化, 方略変化) 第8回:授業を通じた短期的変化と学習方法②(発問, 討論過程, 多様性, 協同学習) 第9回:授業を通じた長期的変化①(デザイン実験, 自己説明, 記述型課題) 第10回:授業を通じた長期的変化②(協同的探究学習, 教科間連携, 言語活動) 第11回:教授・学習過程における社会的相互作用(知識統合, 他者の役割, 自己内対話) 第12回:教授・学習心理学:新たな研究方法論(個人内変化, マイクロジェネティックアプローチ) 第13回:教授・学習心理学から教育への提言(心理学的学力モデル, カリキュラム)
授業の方法	学校の授業における教授・学習のプロセスや, それを基礎づける発達や認知のプロセスについて, 教科書に記載されている具体的な研究事例をもとに理解し, さらに, それにもとづく学習方法や学習内容の構成について, 教科書に記載されている心理学的実践研究を中心に考察を深める。
成績評価方法	授業時の小レポート, および期末レポートにより行う。
教科書	『数学的・科学的リテラシーの心理学ー子どもの学力はどう高まるかー』(藤村宣之著, 有斐閣, 2012年)
参考書	適宜, 指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

科目番号	0996103	担当教員	針生 悦子		
単位数	2	学 期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時 限	月(Mon)4 [14:55-16:40]
講義題目	発達心理学 Developmental Psychology				

授業の目的・概要	<p>ことばを話す, 物をうまく扱う, 他者の気持ちを理解する, など, おとなになればたいいていできるようになっていることが「できない」状態で, 子どもは生まれてくる。その発達のプロセスとはどのようなもので, そのプロセスを支え, また, そのプロセスに影響を及ぼしているのはどのような要因かについて考察していく。</p>
授業計画	
授業の方法	<p>講義形式。授業内容に対して, 毎回, 疑問点, コメントなどの提出を求め, それらにこたえながら進めていく。</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業で提出されるコメントと, 最終回に実施するテストへの回答などから, 総合的に判断する。</p>
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学</p>

科目番号	0996201	担当教員	コース全教員		
単位数	4	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	木 (Thu)3 [13:00-14:45]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>教育心理学実験演習 II</b> Experiments in Educational Psychology II				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、調査(質問紙)データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(保育園など)の見学も行う。内容によっては、本郷キャンパス以外で行われることもあることから、十分に注意すること。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0996202	担当教員	コース全教員		
単位数	4	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	木 (Thu)3 [13:00-14:45]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>教育心理学実験演習 III</b> Experiments in Educational Psychology III				

授業の目的・概要	具体的な研究テーマのもと、研究の計画からデータの収集と解析、考察、報告書の作成にいたる、一連の研究活動にかかわり、心理学研究の実際を理解する。
授業計画	1学期を、前半と後半、2つのタームに分け、それぞれのタームにおいて1つずつ、研究活動をおこなう。テーマは、教員や大学院生の提案する研究テーマの中から、各自の興味関心にしたがって選択する。
授業の方法	グループ実習
成績評価方法	研究活動、レポート
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。「教育心理学実験演習 I」「教育心理学実験演習 II」とともに、実質的に、教育心理学コースの必修科目である。ほかの実験演習に比べると、参加者自身が、研究に積極的にかかわっていける余地が大きく、コースの科目では模擬卒業論文のような位置づけとなっている。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0996203	担当教員	コース全教員		
単位数	2	学期	S2 (2017/06/05-2017/09/20)	時限	木 (Thu)3 [13:00-14:45]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>教育心理学実験演習基礎</b> Experiments in Educational Psychology (basic)				

授業の目的・概要	教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎的な手法について学ぶ。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、質問紙の作成、認知心理学実験、面接法などを実施する予定である。
授業の方法	実習
成績評価方法	レポート
教科書	
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生で、教育心理学実験演習Ⅰを履修していない者に限る。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0996501	担当教員	コース全教員		
単位数	2	学期	通年 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	火(Tue)5 [16:50-18:35]
講義題目	<b>教育心理学研究指導</b> Guided Research in Educational Psychology				

授業の目的・概要	学位論文作成の指導を行います
授業計画	
授業の方法	個別あるいは集団で行います
成績評価方法	参加を持って行います
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0997201	担当教員	野崎 大地、岸 哲史、東郷 史治		
単位数	3	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	木 (Thu)3 [13:00-14:45]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]、木(Thu)5 [16:50-18:35]
講義題目	<b>身体教育学演習 I</b> Laboratory in Physical and Health EducationI				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。ガイダンス、レポート作成、文献調査の仕方 AD 変換器の使い方(握力データの PC への取り込み) 表計算ソフトの使い方、簡単なデータ処理(統計処理も含む) 筋の電氣的活動(筋電図)の測定 解析用アプリケーション(Matlab)の使い方 身体パワーの測定 運動学習能力の測定
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)(保)学校保健 (注 1)(注 2)参照



科目番号	0997202	担当教員	野崎 大地、岸 哲史、東郷 史治		
単位数	3	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	木 (Thu)3 [13:00-14:45]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]、木(Thu)5 [16:50-18:35]
講義題目	<b>身体教育学演習Ⅱ</b> Laboratory in Physical and Health Education Ⅱ				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく(身体教育学実験演習Ⅰに準じて行う)。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。経頭蓋磁気刺激による脳機能の測定 脊髄反射の測定 歩行運動の測定 心拍と血圧の測定 日常生活下での気分と体調の記録・分析 アンケート調査
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)、レポートによる総合評価。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む) (保)生理学 (注1)参照

科目番号	0997203	担当教員	野崎 大地、岸 哲史、東郷 史治		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	木 (Thu)3 [13:00-14:45]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]、木(Thu)5 [16:50-18:35]
講義題目	<b>身体教育学演習Ⅲ</b> Laboratory in Physical and Health EducationⅢ				

授業の目的・概要	身体教育学演習Ⅰ、Ⅱで得た知識をもとに、研究計画、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験する「プロジェクト研究」を行う。
授業計画	
授業の方法	・2、3人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。 ・毎週、進捗状況を報告する。 ・最終週に、コース教員、大学院生も出席する発表会で研究内容のプレゼンテーションを行う。
成績評価方法	平常点(出席)、プロジェクト研究による総合評価。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む) (保)生理学 (注1)参照

科目番号	0997204	担当教員	野崎 大地、東郷 史治		
単位数	2	学期	S2 (2017/06/05-2017/09/20)	時限	集中(Int)
講義題目	運動指導方法(夏季野外種目) Seminar in Teaching Methodology of Human Movement (Outdoor Activity in Summer)				

授業の目的・概要	野外生活を経験することにより、自然環境の理解を促し、共生の方法を学ぶ一方で、安全かつ効果的な野外活動の指導方法を学ぶ。これと並行して球技、水泳、登山の実習を行い、体育実技指導において必要な指導方法の習得を目指す。
授業計画	7月下旬に3泊4日の日程で実施する。昨年度は7月26日～7月29日の日程で神津島で実施した。事前(2～4週間前)に打ち合わせを行い、実習の目的を確認するとともに、現地へのアクセス、現地での活動の詳細、個人毎に装備すべきもの、職務分担、等を指導、調整、確認する。現地集合、現地解散とし、滞在費は各自が負担する。一回目のガイダンスは6/8(水)18:45から、工学部12号館408号室で実施する。
授業の方法	集中講義の形式で、夏季キャンプ実習を行う。
成績評価方法	出席および平常点。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)体育実技」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育実技

科目番号	0997501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	月(Mon)5 [16:50-18:35]
講義題目	身体教育学研究指導 Tutorial in Physical and Health Education				

授業の目的・概要	卒業論文作成のためのテーマ設定、研究計画の立て方、先行研究の探索、研究手法、論文執筆の方法、卒論発表会でのプレゼンテーションの方法と内容について、本コース各研究分野(身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学)の全教員による助言・指導の機会と場を持つ。
授業計画	
授業の方法	随時検討会を開催する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	本年度に卒業論文を執筆し提出する予定の4年次を対象とする。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0998001	担当教員	藤田 武志		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	月(Mon)1 [08:30-10:15]
講義題目	学校はデータでどう描けるか How to Describe Schools: Research Methodology on Schooling				

授業の目的・概要	<p>学校について語るとき、私たちの語りは往々にして、自分や身近な人の体験などをもとにした主観的なものとなってしまいがちである。マスメディアで流布される見解も、その域を出ないものが多い。しかし、学校について学問的に分析する際はもちろんのこと、政策課題として検討するときや、保護者や地域の人間として学校に関わるときにも、議論が錯綜したり、迷走したりしないために、データに基づいて客観的に学校を理解していることが望ましいだろう。そこで本講義では、学校の状況をさまざまな観点から描くために、どのようなデータをどう収集し、どのように分析していくことができるかを考える。具体的には、学校制度の全体的状況、学校段階、学校内のいろいろな場面など、学校を多様な側面からとらえながら、データによって語る技法や注意点について学習する。また、講義では単に説明を聞くだけではなく、自らデータを操作したり、分析したりといった活動も行う予定である。なお、この講義は、社会調査士資格取得のための「【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目」に該当している。</p>
授業計画	<p>1. イントロダクション 2. 調査の客観性やデータの種類をどう考えるか？ 3. 既存の資料にはどのようなものがあるか？ 4. 学校制度の全体像を描く 5. 学習場面を描く 6. 人間関係を描く 7. 問題行動を描く 8. 不登校を描く 9. いじめを描く 10. 学力を描く 11. 教師を描く 12. 勉強以外の学習活動を描く 13. 教育の国際化を描く 14. 生徒文化を描く 15. 講義のまとめ</p>
授業の方法	<p>基礎的な資料とデータの分析に関する説明を聞くとともに、自らデータを操作したり、分析したりといった実習的な活動も行う予定。</p>
成績評価方法	<p>(1)小レポート(50%) (2)最終レポート(50%)</p>
教科書	<p>教科書は使用しない。</p>
参考書	<p>講義内で適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0998002	担当教員	北村 友人、斎藤 兆史、藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	月 (Mon)3 [13:00-14:45]、月 (Mon)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>学校教育学概論</b> An introduction to Study on School Education				

<b>授業の目的・概要</b>	私たちが「教育」を考える際、まず真っ先に思い浮かべるのは「学校」である。しかしながら、「学校教育」は、国や社会の中での一つの制度にすぎない。その制度はいかなる力によって動いているのか、そのなかでどのような教育実践がなされているのかを多様な側面から外観し、考察をしていきたい。この授業においては、とくに学校教育の歴史、世界やグローバル社会との関係における学校、教職と教員育成、教科教育という4つの柱を立て、それぞれの視点から「学校」を分析する。
<b>授業計画</b>	第1回 ガイダンス 第2回 学校教育を取り巻くもの 第3回 初等・中等教育における外国語活動 第4回 英語教育の事例研究 第5回 第6回 授業において学ぶこと 第7回 授業において教えること 第8回 授業を構成しているヒト・モノ・コト 第9回 授業における子どもの経験と教師の経験 第10回 教育される子どもの成立 第11回 保護される子どもの成立 第12回 科学的子ども研究の展開 第13回 子どもの権利の歴史
<b>授業の方法</b>	授業の方法:第1回は全体でガイダンスを行う。第2回以降は、4名の担当者がオムニバス形式で、それぞれの専門の立場から学校教育について概論的な講義を行う。さらに映像や画像、文献、資料などを用い、個々の事例や実践例に即して学校教育の問題を具体的に議論する。
<b>成績評価方法</b>	成績評価方法:授業への参加状況とレポートによって総合的に評価する。
<b>教科書</b>	
<b>参考書</b>	必要に応じて授業中に指示する。
<b>履修上の注意・備考</b>	配布された資料や教材を熟読し、問題意識を持って授業に臨むこと。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

科目番号	0998003	担当教員	勝野 正章、村上 祐介		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	月 (Mon)2 [10:25-12:10]、木 (Thu)2 [10:25-12:10]
講義題目	<b>教育行財政学</b> Educational Administration and Educational Finance				

<b>授業の目的・概要</b>	教育行財政学並びに教育(学校)経営学の基本事項について、現代の改革や国際比較の視点を交えながら学び理解を深めることを目標とする。月曜を村上が、木曜を勝野が担当する。この科目は教職課程における「教科に関する科目」(社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)である。
<b>授業計画</b>	教育行財政学分野(村上担当) 1 教育行政の範囲と展開 2 中央政府の教育行政のしくみ 3 地方政府の教育行政のしくみ 4 教育行財政の中央地方関係 5 教育費と教育財政 6 教育課程・教職員に関する制度 教育経営・学校経営分野(勝野担当) 7 学校改善と「効果のある学校」研究 8 学校経営におけるリーダーシップ 9 教師の職能成長と学校経営 10 学校と保護者・地域の連携 11 学校評価・教員評価 12 学校経営と学校組織の改革
<b>授業の方法</b>	講義を中心とし、内容について討議を行いながら授業を進める。
<b>成績評価方法</b>	期末試験による。
<b>教科書</b>	特に指定しない。
<b>参考書</b>	小川正人・岩永雅也『日本の教育改革』(放送大学教育振興会)、小川正人・勝野正章『教育行政と学校経営(改訂版)』(放送大学教育振興会)、藤田英典・大桃敏行編著『学校改革』(日本図書センター)、勝野正章・藤本典裕編著『教育行政学(改訂新版)』(学文社)
<b>履修上の注意・備考</b>	
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (社)経済学 (公)経済学(国際経済を含む)

科目番号	0998004	担当教員	李 正連		
単位数	2	学 期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時 限	月 (Mon)3 [13:00-14:45]、月 (Mon)4 [14:55-16:40]
講義題目	社会教育論 I Theories of Adult Education I				

授業の目的・概要	近年、科学技術の発達や情報化、グローバル化、少子高齢化等の急激な社会の変容が進む中、学校教育万能の時代は過ぎ去り、生涯学習の必要性が世界的な高まりを見せつつある。そこで、この講義では、社会教育・生涯学習の概念及び原理を概観して、理解するとともに、日本及び世界諸国における社会教育・生涯学習の動向を検討することによって、社会教育・生涯学習の意義、さらに今後の社会・生涯教育のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	1. 社会教育・生涯学習とは何か 2. 社会教育の歴史的理解 3. 生涯学習理念の登場背景及び主要な生涯学習論 4. 生涯学習の国際的動向①:欧米の動向を中心に 5. 生涯学習の国際的動向②:アジアの動向を中心に 6. 社会教育・生涯学習の法制及び主要政策 7. 社会教育施設・職員 8. 学校教育と社会教育・生涯学習 9. 社会的弱者と社会教育・生涯学習① 10. 社会的弱者と社会教育・生涯学習② 11. まちづくりと社会教育・生涯学習 12. 参画型社会と市民の学び 13. 期末試験
授業の方法	基本的に講義形式とするが、授業中ワーキングペーパーを書いてもらう。
成績評価方法	授業中のワーキングペーパー30%、期末試験 70%
教科書	小林文人・伊藤長和・李正連編著『日本の社会教育・生涯学習～新しい時代に向けて～』大学教育出版、2013年9月。
参考書	授業中随時提示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教科又は教職に関する科目



科目番号	0998005	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	木(Thu)4 [14:55-16:40]
講義題目	情報・資料分析論演習 Seminar in the Analysis of Information and Documents				

授業の目的・概要	標準的な統計学や調査法演習の一手手前(といっても内容的に手前なのではなく認識の問題を扱うという意味で)として、データのかたちと形式化、図示、データの背後に世界を想定するとはどういうことか、それに対してどのようなデータをどのように捉えることができるか、を学びます。標準的な統計の用語では、記述統計・探索的データ解析・推測統計の基本的枠組みを理解するところまでをカバーします。実習には、フリーの先端的統計解析・データ解析ソフトであるR(アール)を用います。データのかたちを把握し、そこから解釈の枠組みへと思考実験的に遡ること、その解釈の枠組みに従ってデータを取扱い処理すること、の2方向へと話を展開します。量的な分析としては、統計分析の基本をデータのかたちを中心に考えることとなります。特に何ということもありませんが、授業は英語でやります。
授業計画	第1回:導入・データのかたち 第2回:表のかたち、表のバリエーション、グラフのバリエーション、用語、統計の大枠 第3回:量的データの分類とデータの整理、位置の尺度とちらばりの尺度 第4回～第6回:一変量データの分析(1) 図示と R の使い方 第7回～第9回:一変量データの分析(2) 区間推定の考え方と R の使い方 第10回～第12回:一変量データの分析(3) 仮説検定と分散分析 第13回:二変量・多変量・マルチウェイデータ 第14回:再び、データのかたち 第15回:再び、解釈の枠組みについて
授業の方法	説明と議論・実習・課題を組合せて進めます。
成績評価方法	成績は、主に(1)については課題の遂行により、(2)については小テストと授業への参加度により評価します。
教科書	使いません。
参考書	直接授業には関係しませんが、並行して新井紀子『数学は言葉』(東京図書)を推奨します。(2)に関連する参考図書として南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣)、ホーエル『初等統計学』培風館、柳井晴夫他『やさしい統計入門』(講談社ブルーバックス)などがあります。好みに応じて手元に置いておくとよいでしょう。英語ではホーエルの原書および Verzani Using R for Introductory Statistics. Chapman & Hall.が授業との関係ではお勧めです。中級まで進みたい場合 DeGroot & Schervish Probability and Statistics. Addison Wesley.がよいでしょう。Rを用いた入門書として日本語では山田ほか『Rによるやさしい統計学』(オーム社)をお勧めします。
履修上の注意・備考	実習でコンピュータを使います。 駒場の情報基盤センターで行います。特に何ということはありませんが、講義とやりとりは基本的に英語で行います。日英の用語対訳表は、必要に応じて授業時に配布します。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0998006	担当教員	岡田 謙介		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	心理統計学 I Psychological Statistics I				

授業の目的・概要	本講義では、心理学研究のための統計学的方法の基礎を扱う。内容としては、心理学の研究を進めるために統計学がなぜ必要となるかを概観したのち、1変量と2変量の記述統計学を扱い、そして推測統計学の導入を行う。これは、下記教科書の第1章から第4章までの範囲に対応する。本講義の目標は、受講生が心理統計学の基礎理論について数学的および概念的な理解を確立すること、およびそれを実際の心理学データ分析において適用するための手続きと技術を身につけることである。
授業計画	1. 研究のプロセス 2. データとその表現・統計的方法の必要性 3. 分布の代表値・分布の散布度 4. 変数の線形変換と標準化 5. 共分散と相関係数 6. 回帰直線のあてはめ 7. 回帰分析における予測値と残差の性質 8. 相関係数と回帰係数の性質の違い 9. 相関と共変と因果 10. 測定の妥当性と信頼性 11. 確率モデルと標本分布 12. 比率の標本分布の導出 13. 正規分布モデルと平均の標本分布 14. 2変数正規分布モデルと相関係数・回帰係数の標本分布 15. 確率モデルの適用に関する諸問題
授業の方法	講義形式で実施する
成績評価方法	期末試験により評価する
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009年)
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0998007	担当教員	コース全教員		
単位数	4	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	木 (Thu)3 [13:00-14:45]、木 (Thu)4 [14:55-16:40]
講義題目	<b>教育心理学実験演習 I</b> Experiments in Educational Psychology I				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、性格検査、発達検査、知能検査、などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(養護学校、家庭裁判所)の見学も行っていく。なお、本授業は木曜日3、4限に隔週で実施する。また、本郷キャンパスやその他の場所で実施することもあるので十分に注意すること。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0998008	担当教員	山本 義春、野崎 大地、森田 賢治		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	月 (Mon)1 [08:30-10:15]、木 (Thu)1 [08:30-10:15]
講義題目	身体教育学概論 I Introduction to Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	からだの理(教育生理学)及び、からだを育むこと(身体教育科学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。
授業計画	主要な設定課題は以下の通りである(2016 年度)。・ICT/IoT とヘルスケア ・日常生活のモバイル行動医学 ・身体活動のゆらぎとリズム ・睡眠のしくみ ・やる気・モチベーション・努力の脳身体機構 ・価値の学習・価値に基づく意思決定の脳身体機構 ・神経・精神疾患の機序(パーキンソン病・依存症などに焦点を当てて) ・競争のバイオソシオロジー ・身体運動の制御・学習の潜在性 ・身体運動の制御 1: 動作の普遍的パターン ・身体運動の制御 2: 制御を支える脳神経機構 ・身体運動の学習過程の科学
授業の方法	教員の研究を中心に、行動、情動、運動の研究法や脳身体機構等について解説する。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育原理

科目番号	0998009	担当教員	多賀 巖太郎、佐々木 司、東郷 史治		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	月 (Mon)1 [08:30-10:15]、木 (Thu)1 [08:30-10:15]
講義題目	身体教育学概論 II Introduction to Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	脳とこころの発達(発達脳科学)及び、心身の健康と安全(健康教育学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。主要な設定課題は以下の通りである。         ・発達とは何か         ・健康とは何か？         ・保健で何を学ぶか？         ・心身の発達         ・心身の健康・発達と遺伝・環境         ・脳の発達と感受性期         ・免疫・アレルギーと感染症予防         ・認知・思考・学習の脳科学         ・セーフティ・プロモーション         ・コミュニケーションと社会性の脳科学         ・中枢神経発達・精神発達とその障害の疫学         ・脳とコンピューター・人間とロボット         ・小児発達障害とはどのようなものか
授業計画	調整中
授業の方法	教員による講義、課題の演習とレポート作成、発表等を組み合わせ授業を進める。
成績評価方法	出席、レポート、発表、試験の総合評価とする。
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)学校保健(保)学校保健に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)(保)学校保健 (注1)(注2)参照

科目番号	0998010	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学 期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時 限	木(Thu)5 [16:50-18:35]
講義題目	教育資料調査法演習 Seminar in the Survey of Educational Materials				

授業の目的・概要	近代以降において「思う」ではなく「考える」ことを可能にしてきた外的な条件と形式的な条件に意識を向け、アカデミックな議論に参加し「考える」基本的な手続きを学ぶ。
授業計画	1. 序論:考えていることと考えていると考えること、など 2. 近代以降:デカルトと記号の問題 3. 「べきだ」の普遍へ向けた解放 4. 「考え」をはじめること 5. 「考え」を支えることと参照 (1) 6. 「考え」を支えることと参照 (2) 7. 支えることと表現すること 8. 表現すること (1) 言語と記号 9. 表現すること (2) テキストのメカニズム 10. つなげること 11. 分析的課題と探究 (1) 12. 分析的課題と探究 (2) 13. 評価 14. およそ考えることを可能にする条件をめぐって
授業の方法	講義・課題遂行・ディスカッションを繰り返します。
成績評価方法	授業への参加度と授業時の課題、最終的な分析的課題を、4:3:3の割合で評価します。
教科書	使いません。
参考書	岩波文庫の主に青版のいくつか、ちくま学芸文庫の青背版に随時言及します。個別タイトルは授業中に示します。
履修上の注意・備考	教育学部教育実践・政策学コース進学者は必修です。 特に何ということもありませんが、場合に応じて英語で授業をするかもしれません。 ※A1・A2 月集中講義の具体的な開講日程は、下記掲示を参照して下さい。 <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm</a>
教育職員免許法上の認定科目	

科目番号	0999101	担当教員	小森 潔		
単位数	2	学 期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時 限	金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	国語科教育法 III Japanese Language Teaching Methods III				

授業の目的・概要	「何のために国語を教えるのか」「国語で何を教えるのか」といった根源的な問題について教科書に掲載されている具体的な教材を用いて検討した上で、各教材の教材価値を判断し、自己の問題意識に基づく授業を構築・展開できるようにする。あわせて、国語教育の理論的・歴史的問題も視野に含めつつ、現在の国語教育の抱える諸問題を考察し、具体的な指導に活かすことを検討する。
授業計画	第1回:イントロダクション 授業計画、参考書、評価方法の説明 第2回:国語教育の現状【キーワード 学習指導要領、国語教科書の思想、正解到達主義と正解到達主義批判、言語技術教育と文学教育】 第3回:評論の指導法①【キーワード 評論学習の意義、評論の教材価値と教材研究】 第4回:評論の指導法②【キーワード 日本文化論、哲学的な考え、現代的なテーマ】 第5回:小説の指導法①【キーワード 小説学習の意義、小説の教材価値と教材研究】 第6回:小説の指導法②【キーワード テキスト論、語り、多様な読み】 第7回:古典の指導法【キーワード 危機的状況にある古典教育、古典の現代的価値】 第8回:評価方法【キーワード 相対評価と絶対評価、測定可能な学力と測定困難な学力、学びを励ます評価】 第9回:指導計画・学習指導案の作成【キーワード 単元指導計画、本時の指導計画】 第10回:国語教育史・これからの国語教育【キーワード 一般国語教育史と国語教育個体史、戦後文学教育問題史、メディア・リテラシー、アクティブ・ラーニング】 第11回:個別発表①【キーワード 評論・表現教材の学習指導案と模擬授業】 第12回:個別発表②【キーワード 随想・小説・詩・短歌・俳句教材の学習指導案と模擬授業】 第13回:個別発表③【キーワード 古典教材の学習指導案と模擬授業】
授業の方法	講義、ディスカッション、個別発表による。
成績評価方法	各教材の教材価値を自ら判断し、個々の問題意識に基づく授業を構築・展開できる能力を身に付けることができたかどうかを評価のポイントとする。具体的には、毎授業時に課される課題、個別発表(教材価値、評価基準等も記載した「学習指導案」の内容も含む)、レポート(各自の問題意識に基づいてテーマを設定する)の3点を評価の対象とする。
教科書	高等学校の国語教科書(『国語総合』教育出版)を用いる。入手方法は、第1回目の授業時に指示する。
参考書	授業時間中に提示する。
履修上の注意・備考	この科目は教職に関する科目であるので、原則として「国語」の教員免許を取得しない者の受講は認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

科目番号	0999102	担当教員	大井 和彦		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	国語科教育法 IV Japanese Language Teaching Methods IV				

授業の目的・概要	1. 学校教育の中での教科教育としての「国語科教育」を考える。 2. 中等教育の国語科教員を志望する際に必要とされる資質と実践力の基礎を身につける。 国語科教育の各領域・事項について触れながら、広汎的な現代的意義を考察しつつ、その具現化として授業展開にどのように結びつけていくかを考える。その上で、教材研究、模擬指導案の作成並びに模擬授業を行い、その振り返りの話し合いを通して、具体的には教育実習に資する実践力を身につけることを目指す。
授業計画	第1回:国語科教育の歴史と特質 第2回:国語科学習指導要領の構成 第3回:「話すこと・聞くこと」の指導 第4回:「書くこと」の指導 第5回:「読むこと」の指導 第6回:「伝統的な言語文化」の指導 第7回:「日本語の特質」の指導 第8回:協働での教材研究(どのような問いを作ることができるか) 第9回:授業構想と模擬授業案の作成(単元構成、板書計画、指導と評価、学習指導案の作成等) 第10回:模擬授業(話す・聞く活動を取り入れて) 第11回:模擬授業(書く活動を取り入れて) 第12回:模擬授業(伝統的な言語文化の扱いを考えて) 第13回:模擬授業(日本語の特質の扱いを考えて) 第14回:模擬授業(指導と評価との一体化を目指して) 第15回:これからの国語科授業のあり方
授業の方法	前半においては、国語科教育における各内容に関して、講義形式の内容に加え、受講生同士の議論を求める。後半においては、模擬授業を主とした検討会を中心に進め、相互批評を行う。
成績評価方法	授業への参加状況、受講態度(中等教育国語科教員としての関心・意欲・態度・知識等への積極的思考、授業内での話し合いへの参加等)、授業中の模擬授業案作成状況、ならびに事後レポートで評価する。
教科書	『中学校学習指導要領解説 国語編(平成 20 年 9 月)』文部科学省 東洋館出版社 『高等学校学習指導要領解説 国語編(平成 22 年 6 月)』文部科学省 教育出版
参考書	『中学校・高等学校 国語科教育法研究』田近洵一 鳴島甫編著 東洋館出版社 『教育実習生のための学習指導案作成教本 国語科 改訂版』 教育実習を考える会編 蒼丘書林 その他、適宜授業中に紹介並びに配付する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法 ※附属中等教育学校で開講



科目番号	0999103	担当教員	小林 汎
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)
		時限	月(Mon)5 [16:50-18:35]
講義題目	社会科教育法Ⅲ Social Studies Teaching Methods III		

授業の目的・概要	中学校(中等教育の前期)において、社会科を担当する際の実践的指導力の基礎を身に付けることを目的とします。その際、社会科のねらいを理解した上で、それを実現するための教員の資質・能力を高めるような社会科の学習方法(授業方法)が身につくように学びます。
授業計画	1「社会科教育法Ⅲ」事始め(その1)～オリエンテーション～ ・自己紹介、社会科教育法とは？社会科とは？ ・グループ編成 ・特論:「教員免許更新制について」 2「社会科教育法Ⅲ」事始め(その2)～社会科のカリキュラムの変遷から～ ・社会科のカリキュラムの変遷の意味するもの、そこから見えてくるもの ・”絵画教材””実物教材”をキーワードに授業創りを考える(グループ討議) 3「授業とは」～プロの授業から学ぶ～ ・(ビデオ)「竹崎季長がんばる」(小6の歴史)から ・教材研究～実物教材の魅力生かすには～ ・小→中→高の発達段階と、スパイラル学習 4～5チームで教材研究 ・過去の優れた実践記録を収集し、検討する(教育学部の図書館等利用) ・先輩から学ぶ～経験者が語る「授業とは」～ 6新聞から教材を考える～新聞をどのように活用するか？ ・新聞と社会的関心 ・新聞の利用の仕方・読み方 7～8「学習指導案(授業案)」の作成と報告(チームごと) ・中学校の3分野についてチームで作成(2回目の授業を受けて) ・報告1:地理的分野について ・報告2:歴史的分野について ・報告3:公民的分野について 9授業研究①～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは？ ・「1時間の授業」でできること、準備すべきこと 10 授業研究②～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは？ ・板書、プリント、発問を考える 11 授業研究③～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは？ ・授業内容と授業方法の統一は？ ・子どもにとって授業とは？ 12 再度“授業とは”～社会科で伝えるべきこと、学ぶべきことは？～ ・「はだしのゲン」から平和と教育を考える～事実とは何か、何を伝えることが”意味のある事実”か～ ・教科書と情報 13 まとめ(総括討論)～「社会科教育法Ⅲ」の成果と課題(各自の振り返りをもとに)～ ・教育実習に向けて～実習までの準備、注意すべきことは～注1:中学、高校時代の教科書・地図帳を持参すること(保存してある場合) 注2:授業計画は、受講者数、進度、受講者の要望等によって臨機応変に対応し、学習効果が上がるように工夫します。
授業の方法	・授業方法は、学校現場(教育実習)で多様な授業展開ができるように、グループ学習、作業学習、討論(“白熱討論”)等を取り入れた主体的に授業に参加する形態を工夫します。 ・模擬授業も時間の許す範囲で取り入れるように工夫します。 * 授業においてプリントを多数配付しますので、A4判のファイル等を用意し、各自日頃から整理に心がけるように！
成績評価方法	・「履修」と「修得」の両面を重視します。 ・(1)授業への積極的参加、チーム課題への主体的取り組み。(2)課題レポート(小論文、学習指導案等)の内容(指示された内容を深く理解し、大学生に相応しい質の高いレポート、オリジナリティーのあるものか)。(3)教員としての意欲・関心・態度(資質・能力)。以上によって総合的に評価します。【目安として(1)3割、(2)5割、(3)2割】
教科書	『中等社会科ハンドブック』(学文社 2013)を準教科書として使用。
参考書	・和井田清司他『中等社会科ハンドブック』(学文社 2013) ・『中等社会科実践研究』創刊号(中等社会科実践研究会 2014・12 発行) ・臼井嘉一他『社会・地歴・公民科教育法』(学文社 1999) ・地理教育研究会編『地理の授業で使いたい教材資料』(清水書院 2014) ・星野 朗、小林 汎他『地理教育をつくる50のポイント』(大月書店 2004) ・学習指導要領(中学校、高等学校)及び学習指導要領解説(中学の社会、高校の地歴科、公民科) ・関連する中学校(社会科)及び高等学校(地歴科、公民科)の教科書・地図帳等
履修上の注意・備考	【重要！】第1回の授業の際に、チーム編成を行うので、受講希望者は必ず出席すること。なお、欠席せざるを得ない場合には、下記の小林のメールアドレスまで、前日までに連絡するように！ * 第1回、第2回を無断で欠席した場合は、原則として履修を認めない。★できれば、「地歴科教育法Ⅲ」も合わせて受講して下さい！

※授業時間外になりますが、研究会の案内や学校訪問の案内をしますので、積極的参加を期待します。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法

科目番号	0999104	担当教員	小林 汎		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	社会科教育法Ⅲ Social Studies Teaching Methods III				

授業の目的・概要	<p>中学校(中等教育の前期)において、社会科(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)を担当する際の実践的指導力の基礎を身に付けることを目的とします。その際、社会科のねらいを理解した上で、それを実現するための教員の資質・能力を高めるような社会科の学習方法(授業方法)が身につくように学びます。なお、社会科と高等学校での地歴科は本来、一体性・連続性があり、中等教育学校、中高一貫校が増加している現状を踏まえて展開します。</p>
授業計画	<p>&lt;第1回&gt; 1「社会科教育法Ⅲ」事始め(その1)～オリエンテーション～ ・自己紹介、社会科教育法とは？社会科とは？ ・グループ編成 ・特論:「教員免許更新制について」2「社会科教育法Ⅲ」事始め(その2)～社会科のカリキュラムの変遷から～ ・社会科のカリキュラムの変遷の意味するもの、そこから見えてくるもの ・”絵画教材””実物教材”をキーワードに授業創りを考える(グループ討議) 3“授業とは”～プロの授業から学ぶ～ ・(ビデオ)「竹崎季長ががんばる」(小6の歴史)から ・教材研究～実物教材の魅力生かすには～ ・小→中→高の発達段階と、スパイラル学習 &lt;第2回&gt; 1チームで教材研究 ・過去の優れた実践記録を収集し、検討する(教育学部の図書館等利用) ・先輩から学ぶ～経験者が語る「授業とは」～ 2新聞から教材を考える～新聞をどのように活用するか？ ・新聞と社会的関心 ・新聞の利用の仕方・読み方 3「学習指導案(授業案)」の作成方法 ・学習指導案(授業案)とは？ ・授業方法の革新とアクティブラーニング ・授業のねらいと社会科教育の目標について &lt;第3回&gt; 1授業研究①～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは？ ・「1時間の授業」でできること、準備すべきこと 2授業研究②～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは？ ・板書、プリント、発問を考える 3授業研究③～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは？ ・授業内容と授業方法の統一は？ ・子どもにとって授業とは？ &lt;第4回&gt; 1授業研究④～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは？ ・授業内容と授業方法の統一は？ ・子どもにとって授業とは？ 2再度“授業とは”～社会科で伝えるべきこと、学ぶべきことは？～ ・「はだしのゲン」から平和と教育を考える ～事実とは何か、何を伝えることが”意味のある事実”か～ ・教科書と情報 3まとめ(総括討論)～「社会科教育法Ⅲ」の成果と課題(各自の振り返りをもとに)～ ・教育実習に向けて～実習までの準備、注意すべきことは～ 注1:中学、高校時代の教科書・地図帳を持参すること(保存してある場合) 注2:授業計画は、受講者数、進度、受講者の要望等によって臨機応変に対応し、学習効果が上がるように工夫します。</p>
授業の方法	<p>・授業方法は、学校現場(教育実習)で多様な授業展開ができるように、グループ学習、作業学習、討論(“白熱討論”)等を取り入れた主体的に授業に参加する形態を工夫します。・模擬授業を取り入れて、実践的に社会科教育法を身に付ける展開とします。・日程的に可能な場合には学校訪問も取り入れて、教育現場を知る機会も入れます。</p>
成績評価方法	<p>・「履修」と「修得」の両面を重視します。 ・(1)授業への積極的参加、チーム課題への主体的取り組み。(2)課題レポート(小論文、学習指導案等)の内容(指示された内容を深く理解し、大学生に相応しい質の高いレポート、オリジナリティのあるものか)。(3)教員としての意欲・関心・態度(資質・能力)。以上によって総合的に評価します。【目安として(1)3割、(2)5割、(3)2割】・「履修」と「修得」の両面を重視します。</p>
教科書	<p>下記の『中等社会科ハンドブック』を”準教科書”として使用。</p>
参考書	<p>・和井田清司他『中等社会科ハンドブック』(学文社 2013) ・『中等社会科実践研究』創刊号(中等社会科実践研究会 2014・12 発行) ・臼井嘉一他『社会・地歴・公民科教育法』(学文社 1999) ・地理教育研究会編『地理の授業で使いたい教材資料』(清水書院 2014) ・星野 朗、小林 汎他『地理教育をつくる50のポイント』(大月書店 2004) ・学習指導要領(中学校、高等学校)及び学習指導要領解説(中学の社会、高校の地歴科、公民科)……学習指導要領は購入するか、文科省の HP からプリントアウトすること。 ・関連する中学校(社会科)及び高等学校(地歴科、公民科)の教科書・地図帳等</p>
履修上の注意・備考	<p>【重要！】第1回の授業の際に、チーム編成を行うので、受講希望者は必ず出席すること。なお、欠席せざるを得ない</p>

場合には、下記の小林のメールアドレスまで、前日までに連絡するように！ \* 第 1 回を無断で欠席した場合は、原則として履修を認めない。(全体で 4 日間ですので、4 分の 1 を欠席したことに相当) ★できれば、「地歴科教育法Ⅲ」も合わせて受講して下さい！

毎回、かなりの枚数の授業プリントを配付します。ファイル(A4 判)して授業に持参することが望ましい。【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認めていません。8-9 月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。 ※8-9 月集中講義授業日程(教室についても下記を参照) >学部集中講義 <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法

科目番号	0999105	担当教員	橋本 渉		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	火(Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	社会科教育法 IV Social Studies Teaching Methods IV				

授業の目的・概要	授業づくり、模擬授業を通して、授業計画の立て方、授業方法および基礎的実践的な技術を習得する。具体的には、1時間の授業の展開方法と単元計画について、学習指導案の作成、授業実践の映像視聴や模擬授業を通して、授業活動とその準備のための基本的な考え方と技術を習得する。実践例を紹介し、授業と生徒の学習活動の関係を理解し、適切な指導方法(教材および授業形態の選択、授業展開、生徒対応)を組織、計画できるようにする。
授業計画	第1回:オリエンテーション、社会科の目的と性格 第2回:社会科と科学(資料の活用、分析活動) 第3回:授業目標の設定と単元構成(系統学習と知識の構造化および順次性) 第4回:授業の政治的中立性と教材選択 第5回:学習活動の協同化とその機能 第6回:市民性教育とパラダイムの転換 第7回:公民的資質と価値判断(公民の授業) 第8回:歴史の叙述と授業、地理的理解と授業(地歴の授業) 第9回:学習指導案の書き方と作成 第10回、第11回:授業づくり 第12回~第14回:模擬授業 第15回:レポート課題とディスカッション
授業の方法	授業づくりと実践がテーマとなる本講座では、知識を吸収するだけではなく、実践の場でどのように活用して行くかが中心となる。そのため、活動的な場面が多くなる。
成績評価方法	授業時間における平常点(出席、授業における貢献度、模擬授業を含む発表)と、指導案作成を含むレポート課題による評価
教科書	1、学習指導要領 2、ブルーナー著 鈴木祥蔵 佐藤三郎訳『教育の過程』岩波書店
参考書	未定
履修上の注意・備考	学生の授業における貢献度が成績でも重要なポイントとなるため、学生は授業への出席を行えるようにしておくこと。 特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法

科目番号	0999106	担当教員	小林 汎		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	地理歴史科教育法Ⅲ Geography and History Teaching Methods III				

授業の目的・概要	<p>高等学校(中等教育の後期)において、地理歴史科(以下地歴科)を担当する際の実践的指導力の基礎を身に付けることを目的とします。その際、地歴科のねらいを理解した上で、それを実現するための教員の資質・能力を高めるような地歴科の学習方法(授業方法)が身につくように学びます。なお、社会科と地歴科は本来、一体性・連続性があり、中等教育学校、中高一貫校が増加している現状を踏まえて展開します。</p>
授業計画	<p>&lt;第1回&gt; 1「地歴科教育法Ⅲ」事始め①～オリエンテーション～ ・自己紹介、地歴科教育法とは? ・チーム編成 ・特論:「教員免許更新制について」2「地歴科教育法Ⅲ」事始め(その2)～社会科のカリキュラムの変遷から～ ・社会科のカリキュラムの変遷の意味するもの、そこから見えてくるもの ・”絵画教材””実物教材”をキーワードに授業創りを考える(グループ討議) 3. 環境問題から地歴科教育を考える ・(ビデオ)「公害先進国から環境保護へ」(NHK 戦後史証言プロジェクトより) ・現実の社会に迫る地歴科とは? &lt;付記&gt;「社会科教育法Ⅲ」の受講者が多数受講している場合は、1と2をコンパクトにまとめて、ビデオ視聴後に、21世紀の地歴科教育の課題についての検討とチームで模擬授業の準備の時間とする予定 &lt;第2回&gt; 1. “授業とは”～プロの授業から学ぶ～ ・(ビデオ)「集団自決はなぜ起きたか」(高3の日本史:加藤公明実践) ・沖縄戦の本質は?戦争と人権の問題を考える ・事実とは何か、何を伝えることが”意味のある事実”か～ 2. 授業とは”～プロの授業から学ぶ(小林の高校での実践から) ・ドーデの「最後の授業」が意味するもの(高1地理:小林の実践から)～ ・事実とは何か再考 3. 学習指導案の検討～「社会科教育法Ⅲ」(集中)で作成した学習指導案の検討～ ・中学社会(地理的分野) ・中学社会(歴史的分野) ・中学社会(公民的分野)の書き方、展開の仕方、教材作成等を学ぶ &lt;第3回&gt; 1. 授業研究①～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは? ・「1時間の授業」でできること、準備すべきこと 2. 授業研究②～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは? ・板書、プリント、発問を考える 3. 授業研究③～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは? ・授業内容と授業方法の統一は? ・子どもにとって授業とは? &lt;第4回&gt; 1. 授業研究④～チームで模擬授業に挑戦 ……2 班程度予定 ・授業で大切なことは? ・授業内容と授業方法の統一は? ・子どもの「態度形成」にどのように関わっているか? 2. 再度“授業とは”～社会科・地歴科で伝えるべきこと、学ぶべきことは? ～ ・現代世界の課題にどう切り込むか? ・人類の未来と地歴科教育～人権、平和、環境などから ・再度、事実とは何か、何が”意味のある事実”か～教科書と情報から 3. まとめ(総括討論)～「地歴科教育法Ⅲ」の成果と課題(各自の振り返りをもとに)～ ・教育実習に向けて～実習までの準備、注意すべきことは～ 注1:中学、高校時代の教科書・地図帳を持参すること(保存してある場合) 注2:授業計画は、受講者数、進度、受講者の要望等によって臨機応変に対応し、学習効果が上がるように工夫します。</p>
授業の方法	<p>・授業方法は、学校現場(教育実習)で多様な授業展開ができるように、グループ学習、作業学習、討論(“白熱討論”)等を取り入れた主体的に授業に参加する形態を工夫します。・模擬授業を取り入れて、実践的に地歴科教育法を身に付ける展開とします。・日程的に可能ならば、学校訪問を取り入れて、学校現場を知る機会を入れます。</p>
成績評価方法	<p>・「履修」と「修得」の両面を重視します。 ・(1)授業への積極的参加、チーム課題への主体的取り組み。(2)課題レポート(小論文、学習指導案等)の内容(指示された内容を深く理解し、大学生に相応しい質の高いレポート、オリジナリティーのあるものか)。(3)教員としての意欲・関心・態度(資質・能力)。以上によって総合的に評価します。【目安として(1)3割、(2)5割、(3)2割】・「履修」と「修得」の両面を重視します。</p>
教科書	<p>下記の『中等社会科ハンドブック』を”準教科書”として使用する予定。</p>
参考書	<p>・和井田清司他『中等社会科ハンドブック』(学文社 2013) ・『中等社会科実践研究』創刊号(中等社会科実践研究会 2014・12 発行) ・臼井嘉一他『社会・地歴・公民科教育法』(学文社 1999) ・地理教育研究会編『地理の授業で使いたい教材資料』(清水書院 2014) ・星野 朗、小林 汎他『地理教育をつくる50のポイント』(大月書店 2004) ・学習</p>

指導要領(中学校、高等学校)及び学習指導要領解説(中学の社会、高校の地歴科、公民科)……学習指導要領は購入するか、文科省の HP からプリントアウトすること。・関連する中学校(社会科)及び高等学校(地歴科、公民科)の教科書・地図帳等

**履修上の注意・備考**

【重要！】第 1 回の授業の際に、チーム編成を行うので、受講希望者は必ず出席すること。なお、欠席せざるを得ない場合には、下記の小林のメールアドレスまで、前日までに連絡するように！ \* 第 1 回を無断で欠席した場合は、原則として履修を認めない。(全体で 4 日間ですので、4 分の 1 を欠席したことに相当) ★「社会科教育法」が未履修の場合は「社会科教育法Ⅲ」(集中)も合わせて受講して下さい！

毎回、かなりの枚数の授業プリントを配付します。ファイル(A4 判)して授業に持参することが望ましい。【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認めていません。8-9 月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。 ※8-9 月集中講義授業日程(教室についても下記を参照) <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 地理歴史科の指導法

科目番号	0999107	担当教員	小林 汎		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	月(Mon)5 [16:50-18:35]
講義題目	地理歴史科教育法Ⅲ Geography and History Teaching Methods III				

授業の目的・概要	<p>高等学校(中等教育の後期)において、地理歴史科(以下地歴科)を担当する際の実践的指導力の基礎を身に付けることを目的とします。その際、地歴科のねらいを理解した上で、それを実現するための教員の資質・能力を高めるような地歴科の学習方法(授業方法)が身につくように学びます。なお、社会科と地歴科は本来、一体性・連続性があり、中等教育学校、中高一貫校が増加している現状を踏まえて展開します。</p>
授業計画	<p>1「地歴科教育法Ⅲ」事始め①～オリエンテーション～ ・自己紹介、地歴科教育法とは? ・チーム編成 ・特論:「教員免許更新制について」 2「地歴科教育法Ⅲ」事始め(その2)～社会科のカリキュラムの変遷から～ ・社会科のカリキュラムの変遷の意味するもの、そこから見えてくるもの ・”絵画教材””実物教材”をキーワードに授業創りを考える(グループ討議) &lt;付記&gt;「社会科教育法Ⅲ」の受講者が多数受講している場合は、1と2をコンパクトにまとめて、下記の授業を実施する予定。 * “授業とは”～プロの授業から学ぶ ・ドードの「最後の授業」が意味するもの(高1 地理:小林の実践から)～ 3“授業とは”～プロの授業から学ぶ～ ・(ビデオ)「集団自決はなぜ起きたか」(高3の日本史:加藤公明実践) ・沖縄戦の本質は? 戦争と人権の問題を考える ・事実とは何か、何を伝えることが”意味のある事実”か～ 4新聞から教材を考える～新聞を読み込み、教材化の視点は? ・新聞と社会的関心 ・新聞と事実、その利用の仕方は 5～6チームで教材研究 ・過去の優れた実践記録を収集し、検討する(教育学部の図書館等利用) ・先輩から学ぶ～経験者が語る「授業とは」～ 7～8「学習指導案(授業案)」の作成と報告(チームごと) ・高等学校の3科目についてチームで作成(2回目の授業を受けて) ・報告1:地理について ・報告2:日本史について ・報告3:世界史について 9授業研究①～チームで模擬授業に挑戦 ……2班程度予定 ・授業で大切なことは? ・「1時間の授業」でできること、準備すべきこと 10 授業研究②～チームで模擬授業に挑戦 ……2班程度予定 ・授業で大切なことは? ・板書、プリント、発問を考える 11 授業研究③～チームで模擬授業に挑戦 ……2班程度予定 ・授業で大切なことは? ・授業内容と授業方法の統一は? ・子どもにとって授業とは? 12 再度“授業とは”～社会科・地歴科で伝えるべきこと、学ぶべきことは?～ ・現代世界の課題にどう切り込むか? ・人類の未来と地歴科教育～人権、平和、環境などから ・再度、事実とは何か、何が”意味のある事実”か～教科書と情報から 13 まとめ(総括討論)～「地歴科教育法Ⅲ」の成果と課題(各自の振り返りをもとに)～ ・教育実習に向けて～実習までの準備、注意すべきことは～ 注1:中学、高校時代の教科書・地図帳を持参すること(保存してある場合) 注2:授業計画は、受講者数、進度、受講者の要望等によって臨機応変に対応し、学習効果が上がるように工夫します。</p>
授業の方法	<p>・授業方法は、学校現場(教育実習)で多様な授業展開ができるように、グループ学習、作業学習、討論(“白熱討論”)等を取り入れた主体的に授業に参加する形態を工夫します。・模擬授業を取り入れて、実践的に地歴科教育法を身に付ける展開とします。</p>
成績評価方法	<p>・「履修」と「修得」の両面を重視します。 ・(1)授業への積極的参加、チーム課題への主体的取り組み。(2)課題レポート(小論文、学習指導案等)の内容(指示された内容を深く理解し、大学生に相応しい質の高いレポート、オリジナリティーのあるものか)。(3)教員としての意欲・関心・態度(資質・能力)。以上によって総合的に評価します。【目安として(1)3割、(2)5割、(3)2割】・「履修」と「修得」の両面を重視します。</p>
教科書	<p>下記の『中等社会科ハンドブック』を”準教科書”として使用する予定。</p>
参考書	<p>・和井田清司他『中等社会科ハンドブック』(学文社 2013) ・『中等社会科実践研究』創刊号(中等社会科実践研究会 2014・12 発行) ・臼井嘉一他『社会・地歴・公民科教育法』(学文社 1999) ・地理教育研究会編『地理の授業で使いたい教材資料』(清水書院 2014) ・星野 朗、小林 汎他『地理教育をつくる50のポイント』(大月書店 2004) ・学習指導要領(中学校、高等学校)及び学習指導要領解説(中学の社会、高校の地歴科、公民科)……学習指導要領は購入するか、文科省の HP からプリントアウトすること。 ・関連する中学校(社会科)及び高等学校(地歴科、公民科)</p>



の教科書・地図帳等

**履修上の注意・備考**

【重要！】第 1 回の授業の際に、チーム編成を行うので、受講希望者は必ず出席すること。なお、欠席せざるを得ない場合には、下記の小林のメールアドレスまで、前日までに連絡するように！ \* 第 1 回、第 2 回を無断で欠席した場合は、原則として履修を認めない。◎できるだけ「社会科教育法Ⅲ」とセットで受講して下さい。

毎回、かなりの枚数の授業プリントを配付します。ファイル(A4 判)して授業に持参することが望ましい。 ※研究会や学校訪問の機会などをアナウンスしますので、こうしたチャンスを利用して、教員としての資質・能力の向上に積極的に努めてほしい。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 地理歴史科の指導法

科目番号	0999108	担当教員	吉田 俊弘		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	公民科教育法 II Citizenship Teaching Methods II				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】 高等学校公民科について、その授業を担当するものに必要となる理論と実践のあり方を事例を通じて探究し、公民科教育を実践する基礎的な力量を習得する。具体的には、公民科教育の目標や内容について理解し、教材開発を含む授業実践力の基礎を身につけることを目標とする。【授業の概要】 本年度高校公民科の授業構想を念頭に、基本事項(ねらい・歴史的経緯)、内容(各科目・領域・教材)、実践(学習指導案の作成と模擬授業)の三方向から迫る。暗記教科という固定観念が抱かれがちな公民科教育授業のイメージを刷新し、実践の可能性を広げていく視点を提示していく。本年度は、とくに 18 歳選挙権の実施と主権者教育、新学習指導要領で取り上げられる新科目「公共」についても取り上げ、検討を加える予定である。なお、受講生は、各学習テーマに応じて教材開発に取り組み、発表と検討を行う予定である。</p>
授業計画	<p>本講座は、夏季集中講義として開講する。8月29日(火)2~4時限 第1回:ガイダンスー公民科の授業をつくるとは 第2回:公民科教育の歴史的経緯と現在…公民教育の歴史 その意義と課題 第3回:公民科教育と学習指導要領の変遷…公民教育の変遷と公民科の登場 8月30日(水)2~4時限 第4回:学習指導案のつくり方・書き方 第5回:公民科教育の論点① 政治教育の実践と課題 第6回:公民科教育の論点② 法教育の実践と課題 8月31日(木)2~4時限 第7回:公民科教育の論点③ 18歳選挙権と主権者教育、新科目「公共」を中心に 第8回:公民科教育の内容と方法①「政治」分野の教材開発 第9回:公民科教育の内容と方法②「憲法」分野の教材開発 9月1日(金)2~5時限 第10回:公民科教育の内容と方法③「経済」分野の教材開発 第11回:公民科教育の内容と方法④「生命倫理」分野の教材開発 第12回:公民科教育の内容と方法⑤「参加・活動」型の教材開発 第13回:公民科教育の可能性 ※受講生は、学習内容に応じて教材開発に取り組み、その発表を行う予定である。また、取り上げる授業テーマは、公民科「現代社会」に関するものであるが、具体的な内容については、受講生と相談して決定する。 ※本講座は夏季集中講義として開講されることから、受講生数その他の条件によって授業計画を変更することもある。</p>
授業の方法	講義のほか、演習、受講生による学習指導案の作成、模擬授業、意見交換などを取り入れる。
成績評価方法	毎時提出するコメントペーパー・意見発表(40%)、教材開発の成果(30%)、テスト(30%)を目安に総合的に評価する。
教科書	特に指定しないが、毎時間プリントを配布する。
参考書	二谷貞夫・小林汎・大野一夫・和井田清司・吉田俊弘編『中等社会科ハンドブック』学文社 2013年のほか、授業の折に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	<p>高校公民科は、「現代社会」「政治・経済」「倫理」の各科目からなるが、本講座では、おもに「現代社会」を念頭において授業を進める。なお、新学習指導要領において登場する新科目「公共」についても検討する機会を設けたい。</p> <p>本講座は、夏季集中講義として開講される。開講日時は、次のとおりである。8月29日(火)2~4時限 8月30日(水)2~4時限 8月31日(木)2~4時限 9月1日(金)2~5時限</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 公民科の指導法

科目番号	0999109	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	数学科教育法 III Mathmatics Teaching Methods III				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標にする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人」の先生になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成および模擬授業を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や課題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進めます。授業・教材における ICT の利活用についても講義する。</p>
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション 第 2 回:学習指導要領の変遷 第 3 回:教材研究(数量領域「数と式①」) 第 4 回:教材研究(数量領域「数と式②」) 第 5 回:教材研究(図形領域① ユークリッド空間) 第 6 回:教材研究(図形領域②)中学校授業参観 第7回:教材研究(関数・解析領域①) 第 8 回:教材研究(関数・解析領域②) 第 9 回:教材研究(確率・統計領域)・数学体験兼見学 第 10 回:教材研究・ICT の活用 第 11 回:学習指導法・学習指導案の作成 第 12 回:模擬授業 第 13 回:模擬授業の振り返り 第 14 回:筆記試験 詳細はオリエンテーションで伝えます。</p>
授業の方法	講義とグループ活動・作業的活動を行う。
成績評価方法	課題と筆記テストを行う。
教科書	中学校学習指導要領解説 数学編(平成 20 年) 高等学校学習指導要領解説 理数編(平成 21 年) 若い先生に伝える仲田紀夫の算数/数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房
参考書	”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞)典 仲田紀夫著 黎明書房 その他は授業中に紹介します。
履修上の注意・備考	<p>算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。講義の連続性があるので、講義に出席することを前提にします。授業観察、模擬授業を欠席した場合は、単位を認めないので注意してください。 授業開始 29 分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとする。 講義回数の4分の3以上(11 回以上)の出席を履修条件とします。</p> <p>【履修上の注意】 教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認め ていません。8-9 月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、 重複のないように登録して下さい。 ※8-9 月集中講義 授業 日程 (教室 について も 下 記 を 参 照 ) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

科目番号	0999110	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	火(Tue)1 [08:30-10:15]
講義題目	数学科教育法 III Mathematics Teaching Methods III				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の内容に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標にする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人」の先生になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成および模擬授業を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や課題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進めます。授業・教材における ICT の利活用についても講義する。</p>
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション 第 2 回:学習指導要領の変遷 第 3 回:教材研究(数量領域「数と式①」) 第 4 回:教材研究(数量領域「数と式②」) 第 5 回:教材研究(図形領域① ユークリッド空間) 第 6 回:教材研究(図形領域②)中学校授業参観(実施回の変更があるかもしれません) 第7回:教材研究(関数・解析領域①) 第 8 回:教材研究(関数・解析領域②) 第 9 回:教材研究(確率・統計領域)・数学体験館見学(実施回の変更があるかもしれません) 第 10 回:教材研究・ICT の活用 第 11 回:学習指導案の作成 第 12 回:模擬授業(実施回の変更があるかもしれません) 第 13 回:模擬授業の振り返り 第 14 回:筆記試験 詳細はオリエンテーションで伝えます。</p>
授業の方法	講義とグループ活動・作業的活動を行う。
成績評価方法	課題と筆記テストを行う。
教科書	中学校学習指導要領解説 数学編(平成 20 年) 高等学校学習指導要領解説 理数編(平成 21 年) 若い先生に伝える仲田紀夫の算数／数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房 開講前に準備しておいてください。
参考書	”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞典) 仲田紀夫著 黎明書房 その他授業で紹介します。
履修上の注意・備考	算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。講義の連続性があるので、講義に出席することを前提にします。授業観察、模擬授業を欠席した場合は、単位を認めないので注意してください。 授業開始 29 分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとする。 講義回数 4 分の 3 以上(11 回以上)の出席を履修条件とします。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

科目番号	0999111	担当教員	今野 雅典、西脇 佳子		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	数学科教育法 IV Mathmatics Teaching Methods IV				
授業の目的・概要	中等教育段階での数学科の授業を行うときに、事前に教材研究ができ、学習指導案が作成できるようになることを目標とする。単なる問題提示、その解説、演習という授業の流れにとどまらないためにはどのような点に注意すべきなのかを具体的な指導事例を中心に考察する。自分の受けてきた授業を振り返り、数学科の授業者に必要な知識・技術について考察する。中学校・高等学校の学校現場で指導している立場から、具体的な教材・資料・実践例を通して、数学教育に関するテーマを与える。				
授業計画	第1回:「数学」と「学校数学」との違い 第2回:学習指導要領と中学校・高等学校の数学科カリキュラム 第3回:学習指導法・評価 第4回:ICTの活用 第5回:教材研究(空間図形の模型作りを例にして) 第6回:教材研究(単元のつながりを意識した題材を例にして) 第7回:教材開発(教科書の問題を生かす) 第8回:教材開発(生徒の反応・誤答を生かす) 第9回:学習指導案の書き方 第10回:模擬授業(学習指導案の進め方) 第11回:模擬授業(授業を評価する) 第12回:数学的な考え方 第13回:数学的モデル化				
授業の方法	講義またはテーマごとに課題を提示して、その課題について問題解決し、その解決過程を振り返る。				
成績評価方法	テストは行わず、レポート等で評価する。そのレポートや講義中の活動を見て、講義の内容を理解し、自らの問題解決過程を振り返り、考察をしているかどうかを確認する。				
教科書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編				
参考書					
履修上の注意・備考	上記の成績評価方法で記入したように、毎回の講義で学生の活動を重視し、さらにレポートを課すので、講義に出席することを前提とする。				
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法				

科目番号	0999112	担当教員	對比地 覚、前田 香織		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	理科教育法 III Natural Science Teaching Methods III				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	1. 教員という職業について 2. 理科教育の目的・学習指導要領 3. 授業の方法と評価 4. 授業の教材の具体例 5. 授業でのメディア・機器の利用 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備 8. 模擬授業I① 9. 模擬授業I② 10. 実験・観察の意義 11. 授業における安全管理 12. 探求活動の指導 13. 模擬授業II① 14. 模擬授業II② 15. 模擬授業II③
授業の方法	講義や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	中学校学習指導要領解説 理科編 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編
履修上の注意・備考	出席は単位修得の必要条件 【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認め ていません。8-9月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。※8-9月集中講義授業日程(教室についても下記を参照)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法 ※附属中等教育学校で開講

科目番号	0999113	担当教員	對比地 覚、前田 香織		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	理科教育法 IV Natural Science Teaching Methods IV				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	1. 教員という職業について 2. 理科教育の目的・学習指導要領 3. 授業の方法と評価 4. 授業の教材の具体例 5. 授業でのメディア・機器の利用 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備 8. 模擬授業I① 9. 模擬授業I② 10. 実験・観察の意義 11. 授業における安全管理 12. 探求活動の指導 13. 模擬授業II① 14. 模擬授業II② 15. 模擬授業II③
授業の方法	講義や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して学生相互でも理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	中学校学習指導要領解説 理科編 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編
履修上の注意・備考	出席は、単位修得の必要条件です。 【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認め ていません。8-9月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法 ※附属中等教育学校で開講

科目番号	0999114	担当教員	奥 聡一郎		
単位数	2	学期	S1 (2017/04/01-2017/06/04)	時限	火 (Tue)3 [13:00-14:45]、火 (Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	英語科教育法 III English Language Teaching Methods III				

授業の目的・概要	1. 英語教育にかかわる歴史的背景と現状分析を通して、英語教師の職務内容に関する理解を深める。2. 英語教育に必要な理論的知識、授業方法について学ぶことにより、英語教育・学習に対する認識を深め、英語教師として効果的な実践活動ができるようにする。3. 学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な英語教育の教材研究と教材作成、教授法を議論し、自らの授業改善ができるようにする。
授業計画	模擬授業の実践を到達目標とし、教壇に立つ前に身につけておくべき知識、教授法などを確認する。第1回:イントロダクション、評価方法の説明、言語教育の関連分野(方法と本質)、日本の英語教育を取り巻く問題を把握する。【キーワード 応用言語学、コミュニケーション能力、第二言語習得】第2回:小学校から大学までの英語授業の実態を概観し、諸外国の外国語授業との比較・検討を行う。【キーワード 言語政策、CEFR、高大接続】第3回:学習指導要領の歴史の変遷を追い、コミュニケーション能力についての理解を深める。【キーワード 学習指導要領】第4回:代表的な外国語教授法を概観し、長所と短所をまとめる。【キーワード 文法訳読教授法、オーラルメソッド、オーラルアプローチ、コミュニカティブランゲージティーチング、ノーションルシラバス】第5回:4技能の指導法「読む・書く」指導の実例を学ぶ。【キーワード 文法・語彙指導、文章理解】第6回:4技能の指導法「聞く・話す」指導の実例を学ぶ。【キーワード 発音記号、ドリル】第7回:教科書の内容比較と教材開発の方法を身につける。【キーワード 検定教科書 学習指導案】第8回:視聴覚機器、メディア、教具の扱い方を学ぶ。【キーワード 板書、CALL、フラッシュカード】第9回:学習指導案の書き方、授業のデザインについて学ぶ。【キーワード 学習指導案、授業展開】第10回:評価論とテスト作成方法【キーワード 評価、キャンドゥーリスト】第11回:授業分析と授業研究【キーワード 模擬授業、協働学習】第12回:模擬授業(1)【キーワード 授業評価】第13回:模擬授業(2)【キーワード 4技能】第14回:模擬授業(3)【キーワード 教室外学習、動機づけ】第15回:授業のまとめ【キーワード 研修、授業研究】
授業の方法	講義を通して、教育実習を行う前に必要な英語力の確認、理論的背景と実践的な方策を概観する。学習指導要領の歴史的流れと教材論の展開を理解し、グローバル化やアクティブラーニングなどの新しい視点を取り入れながら、英語教育の授業を組み立てることができるようにする。毎時の授業の指導案及び年間授業計画の立て方、授業方法、教科書の本文の扱い方、学習指導要領の内容をもとに、履修者全員が模擬授業を行い、互いに講評しあう。英語教師として身につけるべき応用言語学の知識や周辺領域を確認し、教壇に立つ心構えを身につけることを目標とす
成績評価方法	毎回の講義内容に関するリアクションペーパー(20%)、模擬授業の学習指導案(20%)、模擬授業への講評と議論(20%)、グループ・ワークによるマイクロティーチング(20%)英語教育に関する最終レポート(20%)を総合的に評価する。
教科書	中学校学習指導要領(平成20年3月公示 平成22年11月一部改正)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1540-5 中学校学習指導要領解説外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN 978-4-304-04161-7 高等学校学習指導要領(平成21年3月公示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1478-1 高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-04164-8
参考書	JACET SLA 研究会編『第二言語習得と英語科教育法』東京:開拓社 金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』東京:大修館書店 金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 高等学校編』東京:大修館書店 Jim Scrivener. (2011) Learning Teaching. The Essential Guide to English Language Teaching. Third Edition. Oxford: Macmillan Books. 「英語教育」(大修館書店)などの最新刊に目を通しておいてもらいたい。
履修上の注意・備考	原則として、教員免許取得予定者を対象とする。履修者数によっては上記の予定を多少変更する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法



科目番号	0999115	担当教員	葛城 忠彦、戸上 和正		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	英語科教育法 IV English Language Teaching Methods IV				

授業の目的・概要	英語の科目を中等教育で教えるための知識および技術を身につけることを目標とする。年間授業計画や毎時の授業の指導案の立て方、授業方法、教科書の本文の扱い方等を、講義・ペアワーク・グループワークを通して学習する。後半には指導案作成および模擬授業を履修者全員が行う。
授業計画	
授業の方法	授業計画 第1回：英語の授業の目的、教員が身につけるべき力とは（スケジュール確認、指導計画の立て方、教材研究の仕方）第2回：中学校授業体験（1レッスンを1時間で扱う授業）（指導案を見ながら、授業の再現）第3回：リーディングを中心にした授業、活動を中心にした授業（ゲーム、ディベート体験）第4回：高校の授業について（高校の教材の導入と内容理解。歌での導入、授業体験）第5回：文法指導（文法指導の仕方の紹介、ペアでの実践）第6回：模擬授業の準備、ディスカッション
成績評価方法	毎時の最後に提出するレポート、最後に提出する指導案、模擬授業
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法 ※附属中等教育学校で開講

科目番号	0999116	担当教員	伊藤 貴昭		
単位数	2	学期	S2 (2017/06/05-2017/09/20)	時限	金(Fri)1 [08:30-10:15]、金(Fri)2 [10:25-12:10]
講義題目	教育心理Ⅱ Educational Psychology II				

授業の目的・概要	教育心理学とは、心理学で明らかにされてきた知見を教育実践に活かすことを目的とした学問である。本講義では、教育心理学が対象とするテーマの中でも特に「学習の原理」「発達」「思考」などを中心に取り上げる。我々にとって学習することは、円滑に日常生活を送っていく上で必要不可欠な営みである。では、それはどのような原理に基づいてなされているのだろうか。学習の原理を理解することで、あらためて自らの心の働きを振り返る契機とする。また、我々は学習したことを記憶として保持するだけでなく、それらを活用しながら生活を送っている。そのプロセスとはどのようなもので、どんな特徴を持っているのかについての考察も深めていく。これらの学習を通して、教育という営為(学校教育に限らない)には、どのような心理メカニズムが働いているのかに対して発達状況に応じた理解を深めることが目的である。
授業計画	第1回:学習の原理 第2回:記憶のメカニズム 第3回:発達の過程とその特徴 第4回:素朴概念の発達 第5回:問題解決と推論のプロセス 第6回:文章理解とメタ認知の働き 第7回:批判的思考と創造的思考 第8回:協同で取り組むことの効果 第9回:学習方略の効果 第10回:教授方略の検討(グループワーク) 第11回:動機づけのメカニズム(1)欲求に基づく動機づけ 第12回:動機づけのメカニズム(2)認知に基づく動機づけ 第13回:子どもの発達に応じた教育の在り方とは(1) 障害のある子どもの理解 第14回:子どもの発達に応じた教育の在り方とは(2) 障害のある子どもへの対応方法の検討 第15回:教育実践に対する教育心理学の貢献
授業の方法	講義以外にグループワーク、少人数による討論を積極的に行っていく予定である。
成績評価方法	授業への貢献度(10%) レポート(30%) 学期末試験(60%) ただし、出席状況が悪い場合には試験の結果によらず不可とする。
教科書	特に指定しない。
参考書	必要に応じて随時紹介する。
履修上の注意・備考	本授業は教職課程科目のため、出席(毎回のコメント提出)を重視する。また、グループワーク活動などへの積極的な参加も求める。教育実習等で欠席が多数見込まれる場合には、下記メールアドレスまで必ず事前に相談すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照

科目番号	0999117	担当教員	田中 昌弥		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	教育原理 Educational Principles				

授業の目的・概要	1. 今日の教育が形成された歴史的経緯と、その背景で織りなされてきた海外と日本の教育の諸理念・思想を理解する。 2. 今日の教育課題を社会・制度・人間発達の相互関係の観点から捉え直す。 3. 代表的な教育理論・教育実践が、どのように創られ、選択されたのかを知り、教職に就く者として、これからの時代に求められる教育を具体的に構想できるようになるための基本的素養を身につける。
授業計画	授業計画 第1回:教員養成における教育原理の意味 第2回:公教育の目的と理念 第3回:教育の歴史 近代教育の三重構造説 第4回:21世紀型能力をめぐる国際的動向と文科省 第5回:学力をめぐる学習指導要領の歴史 第6回:学力の構造 第7回:受講生の学カイメージ グループ討論 第8回:学習権論と人材養成論 第9回:発達論と教育の思想 第10回:教育問題を教育の原理から考察する 第11回:教育実践の検討 第12回:子ども理解とナラティブ・アプローチ 第13回:まとめ ナラティブ・アプローチから見た教育の理念・歴史・思想 第14回:試験
授業の方法	1. 理論と現実・実践との往還を重視して授業を進めるため、映像や資料を通して具体的な教育現実・実践のイメージをもつことを重視し、その教育学的な検討を行う。 2. 受講人数にもよるが、討論、発言の機会を折々に設定する。
成績評価方法	中間レポートと最終試験を主としつつ、授業への参加、授業の区切りごとに提出してもらったメモも合わせて評価する。最終試験は、授業で扱った課題についての論述とする。
教科書	・汐見稔幸他編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房
参考書	・堀尾輝久『教育入門』(岩波新書)・荒井、田中、本田、宮田、山田編『学力と学校を問い直す』かもがわ出版
履修上の注意・備考	【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認め ていません。8-9月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。 ※8-9月集中講義 授業日程(教室についても下記を参照) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm</a>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照

科目番号	0999118	担当教員	藤井 佳世		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	道徳教育法 Methods of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、教職を志す学生にとって必要な道徳教育の基礎的知識・理解と道徳の指導法を養うことにある。おもに、道徳をめぐるさまざまな議論の考察を通して、道徳教育の哲学的・倫理的基盤、学校における道徳教育の目標と内容について学び、学習指導過程の構想などのこれからの道徳教育の可能性について考えることができるようになることを目的とする。</p>
授業計画	
授業の方法	<p>講義、授業中の課題提出、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションをおこなう。</p>
成績評価方法	<p>成績は、授業時間内に行う小テスト、小レポート・課題提出、資料作成・発表で判断する。授業内で実施する小テスト・課題等は、公欠のみ考慮する。</p>
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照 教科又は教職に関する科目</p>

科目番号	0999119	担当教員	森 俊二		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	特別活動の指導法 A way of Instruction of Extracurricular Activities				

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<p>1. 学級びらき、生活指導とは 2. 子ども集団づくりへ 3. ゼロレと子どもの権利条約 4. 指導と管理、HRづくりの構想 5. 実践分析 6. HRの指導①班・討議・リーダーをどうつくるか 7. ②学級活動とHRの指導 8. ③HRにおける行事の指導 9. 文化祭指導案・HR指導案 10. 生徒会の指導 11. 子どもをめぐる課題①荒れ、関係性の指導 12. ②いじめの指導 13. 生活指導と学び 14. 特別なニーズのある子どもと生活指導 15. ケアの倫理とシティズンシップ教育</p>
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。
成績評価方法	レポート試験70%、平常点30%(コメントカード、出席、授業・討論等の参加状況、授業で指示された提出物など)
教科書	『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014年、1800円＋税
参考書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成20年 200円＋税 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成21年 200円＋税 高生研編『高校生活指導』201号 教育実務センター 2016年 1200円＋税
履修上の注意・備考	<p>教科書は各自購入して予習・復習して下さい。参考書の内容も進んで読んで下さい。</p> <p>【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認め ていません。8-9月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。 ※8-9月集中講義 授業 日程 (教室 についても 下記 を 参照 ) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照

科目番号	0999120	担当教員	森 俊二		
単位数	2	学 期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時 限	金(Fri)5 [16:50-18:35]
講義題目	特別活動の指導法 A way of Instruction of Extracurricular Activities				

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<p>1. 学級びらき、生活指導とは      2. 子ども集団づくりへ      3. ゼロレと子どもの権利条約      4. 指導と管理、HRづくりの構想      5. 実践分析      6. HRの指導①班・討議・リーダーをどうつくるか      7.      ②学級活動とHRの指導      8.      ③HRにおける行事の指導      9. 文化祭指導案・HR指導案      10. 生徒会の指導      11. 子どもをめぐる課題①荒れ、関係性の指導      12.      ②いじめの指導      13. 生活指導と学び      14. 特別なニーズのある子どもと生活指導      15. ケアの倫理とシティズンシップ教育</p>
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。
成績評価方法	レポート試験70%、平常点30%(コメントカード、出席、授業・討論等の参加状況、授業で指示された提出物など)
教科書	『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014年、1800円＋税
参考書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成20年 200円＋税 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成21年 200円＋税 高生研編『高校生活指導』201号 教育実務センター 2016年 1200円＋税
履修上の注意・備考	<p>教科書は各自購入して予習・復習して下さい。参考書の内容も進んで読んで下さい。</p> <p>【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認め ていません。8-9月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。 ※8-9月集中講義 授業 日程 (教室 について も 下 記 を 参 照 ) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照

科目番号	0999121	担当教員	上野 正道		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	教育課程 Curriculum Studies				

授業の目的・概要	現代のグローバル時代において、学校教育は大きな転換点を迎えている。この科目では、教育課程の理論とその実践的課題を整理して検討し、教育課程の過去・現在・未来について吟味し探究することを目的にする。特に、民主主義と公共性を基盤にした学校改革の観点から、教育課程を構成する授業や学力、教師といった主題にアプローチするとともに、想像的なアートと学びを中心とする教育課程についても取り上げることとする。また、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の教育についても紹介する。それによって、教育課程とは何か、授業と学びをどのように創造するか、学校をどのように改革するか、といったテーマに迫ることとする。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 教育課程の変遷(1) 第3回 教育課程の変遷(2) 第4回 教育課程の変遷(3) 第5回 教育課程の変遷(4) 第6回 授業と学習(1) 第7回 授業と学習(2) 第8回 授業と学習(3) 第9回 学力とは何か(1) 第10回 学力とは何か(2) 第11回 教師とカリキュラム 第12回 外国の教育課程(アメリカ) 第13回 外国の教育課程(ヨーロッパ) 第14回 外国の教育課程(アジア) 第15回 試験
授業の方法	講義形式
成績評価方法	平常点と試験とレポートによる
教科書	
参考書	上野正道『民主主義への教育』東京大学出版会、2013年 上野正道他『東アジアの未来をひらく学校改革』北大路書房、2014年
履修上の注意・備考	【授業日程についての注意】 集中講義の授業日程は以下の URL に詳細が記載されていますので、ご確認ください。 <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2015shuuchuu%EF%BD%B0s.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2015shuuchuu%EF%BD%B0s.htm</a>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照

科目番号	0999122	担当教員	富士原 紀絵		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	火(Tue)5 [16:50-18:35]
講義題目	教育課程論 Curriculum Studies				

授業の目的・概要	テーマ「教育課程の編成を理論的、実践的に学ぶ」 教育課程編成の原理を踏まえた上で、取得中の学校種・教科の免許に留まらず、全学校種・各教科・領域における教育課程の編成の方法を実践的に学ぶ。特色ある学校の教育課程編成の実践例を数多く検討するとともに、それらを元に実際に教育課程の編成を試作することを目標とする。
授業計画	第1回 イントロダクションー教育課程とカリキュラム 第2回 最新の学習指導要領の特徴 第3回 教育課程と学習指導要領の関係性 第4回～第10回 日本の教育課程の変遷を学ぶ(戦前・戦後～現在を通して) 第11回 教育課程と教科書の関係性 第12回～第13回 特色ある教育課程を検討する(小学校～中学校を中心に) 第14回 教育課程と教育評価 第15回 教育課程の試作と相互評価
授業の方法	第1回から第11回までは講義中心。適宜、ビデオの視聴とそれに関するディスカッションも行う。第14回と第15回はグループワークを行う。
成績評価方法	双方向的な遣り取りやグループワークといった作業や活動が中心のため、授業での積極的な参加を60%。学期末のレポート課題を40%。これらを合わせて総合評価する。
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照



科目番号	0999123	担当教員	小笠原 喜康		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	教育方法論 Teaching Methods				

授業の目的・概要	わかるということはどういうことか、哲学的認識論を基礎にして理解するとともに、それを導く教材研究の大切さを理解する。
授業計画	第1回 ガイダンス・授業の方針と今後の展開 明治・教育のビデオ視聴 第2回 教育方法論の流れ1:西洋教育の流れ 1 第3回 教育方法論の流れ2:西洋教育の流れ 2 第4回 教育方法論の流れ3:江戸以前から戦前まで 第5回 教育方法論の流れ 4:戦後から現代まで 第6回 わかるの認識論1:志向性問題 第7回 わかるの認識論2:人工知能問題 第8回 ディベート:電子教科書ありかなしか 第9回 教材とは何か:あるからなるへ 第10回 多角的教材研究方法論:三つの方法 第11回 これからの教育と学力・ESD を考える 第12回 ディベート:なくなる職業とこれからの学力 第13回 教育実習の流れ:ビデオ「中学校の実習」を視聴する 第14回 学習指導案作製法 第15回 授業のまとめ:教育実習で守らなくてはならないこと
授業の方法	講義と授業者の論文を題材にしたグループ討論、および指導案ならびに各回のコメントシート提出。
成績評価方法	定期試験を行わず、「出席および授業中の課題」によって総合的に評価する(授業内コメントシートと学習指導案のレポート 100%)。ただし、出席が授業回数の3分の2に満たない場合および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。
教科書	授業に必要なものは、プリントを配ります。
参考書	授業の中で指示します。
履修上の注意・備考	<p>授業では、いわゆる講義というよりも、参考となるビデオの視聴と授業者の論文についてのグループ討論を求めますので、教育問題について日頃のニュース等に注意してください。</p> <p>【履修上の注意】教育学部では、原則、授業日程・曜限が重複する開講科目を履修することは認め ていません。8-9月集中講義を複数登録する際は、掲示から開講日程を確認の上、重複のないように登録して下さい。 ※8-9月集中講義 授業日程(教室についても下記を参照) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/gakubu/g-jikanwari/shuuchuu/2016shuuchuu-s.a.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照

科目番号	0999124	担当教員	渡辺 貴裕		
単位数	2	学期	A1 (2017/09/21-2017/11/19)	時限	月 (Mon)5 [16:50-18:35]、月 (Mon)6 [18:45-20:30]
講義題目	教育方法論 Teaching Methods				

授業の目的・概要	具体的な方法論なしに教育目標を実現することはできない。本講義では、教育方法に関する理論的基盤への理解を深めるとともに、自らが教師として授業を行い専門的発達を遂げるための実践的力の土台を形成することを目指す。次の3つの内容が柱となる。・学ぶとはどういうことか。・学習を促す授業のあり方はどういうものか。・教師はどのようにして授業の力を伸ばしていくのか。
授業計画	1. これからの社会で求められる学力 2. 学習観の転換 3. 構成主義から社会的構成主義へ 4. 教科内容と教材 5. 授業における教師—生徒のコミュニケーション 6. 授業における生徒同士のコミュニケーション 7. 協同学習の意義と方法 8. ミニ模擬授業の実施 9. ミニ模擬授業の検討会 10. 学習を促すための環境デザイン 11. 教育実践の法則性と固有性 12. 教師の成長とリフレクション 13. 授業研究と教師 14. 実践記録と教師 15. 全体の振り返り ※受講生の人数やニーズに応じて随時変更の可能性はある。
授業の方法	グループワークを多用する。積極的な参加が不可欠である。
成績評価方法	定期試験は行わず、授業中に出题する課題をもって評価を行う。出席が授業回数の3分の2に満たない場合、原則として評価の対象外とする。
教科書	指定しない。
参考書	フレット・コルトハーヘン『教師教育学 理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社、2010年 佐藤浩一『学習支援のツボ』北大路書房、2014年。杉江修治『協同学習入門』ナカニシヤ出版、2011年 その他、授業中に適宜指示する。
履修上の注意・備考	履修を希望する場合、初回から必ず出席すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照

科目番号	0999125	担当教員	大多和 直樹		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	金(Fri)4 [14:55-16:40]
講義題目	生徒指導・進路指導 Student Guidance and Career Guidance				

授業の目的・概要	<p>本授業では、学校教育に求められている生徒指導と進路指導の目的を適切に理解し、実際に実践できる基礎をつくること目標とする。1990年代以降の社会経済変動の学校社会へのインパクトは大きく、従来の状況を前提に生徒指導・進路指導を行うことは難しいといっても過言ではない。そこで本授業では、1990年代以降の学校を巡る変容を捉え、現代の生徒指導・進路指導の課題を明確にする。そして、1990年代以降実際に行われてきた生徒指導・進路指導の実践がどのような成果を生み、また、逆にどのような課題を抱えているのかについて探っていく。また、最終的には、進路指導と生徒指導をどうリンクさせるべきかについて考えていく。【授業の到達目標】・生徒指導は、児童・生徒の人格の健全な発達を図る重要な機能であることを理解する。・生徒指導は、非行等の対策にとどまらず、一人ひとりの生徒の人格の適切な発達を促すものであることを理解する。・現代の生徒指導の課題を適切に捉えるため、経済状況や学校と職業へのトランジションの歴史の変容について理解する。・生徒指導をする際に必要となる生徒文化・若者文化の変遷を説明できる。・生徒指導・進路指導の各論を把握し、現代的課題について考察する</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス ～生徒指導・進路指導とは何か 第2回 学校社会の変容を捉える～戦後の経済と教育の見取り図 第3回 生徒文化を捉える①～[1980年代]非行・逸脱と学校 第4回 生徒文化を捉える②～[1990年代]若者文化の学校への流入の諸相 第5回 生徒指導の現代的課題①～支援を核とした生徒指導の隆盛と課題 第6回 生徒指導の現代的課題②～生徒のパーソナリティ発達にむけて 第7回 生徒指導の現代的課題③～生徒のメディア利用とその指導 第8回 生徒指導の現代的課題④～薬物問題とその指導 第9回 学校から職業への日本型移行システムの成立とその特質 第10回 進路形成の変容を捉える～高卒無業者問題を外観する 第11回 進路指導の現代的課題①～階層再生産問題と進路指導 第12回 進路指導の現代的課題②～個別支援とキャリアガイダンス 第13回 進路指導の現代的課題③～ジョブカフェ、ヤングジョブスポット等、諸機関との連携 第14回 生徒指導と進路指導を統合的に捉える 第15回 まとめ</p>
授業の方法	講義形式
成績評価方法	期末レポート70% 平常点30%
教科書	大多和直樹 2014『高校生文化の社会学—生徒と学校の関係はどう変容したか』有信堂
参考書	広田照幸編著『若者文化をどう見るか？—日本社会の具体的変容の中に若者文化を定位する』アドバンテージサーバー 渡部 真・伊藤 茂樹 1994『生徒指導の理論と実践』樹村房
履修上の注意・備考	最初から最後まで受講できる学生に限る。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9参照

科目番号	0999126	担当教員	伊藤 直樹		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	金(Fri)1 [08:30-10:15]
講義題目	教育相談Ⅱ School Counseling II				

授業の目的・概要	<p>(授業の目標) ①教育場面におけるカウンセリングの基礎を理解する ②生徒理解の方法について理解する ③学級崩壊の概要と対応法について理解する ④いじめの概要と対応法について理解する ⑤不登校の概要と対応法について理解する ⑥スクールカウンセラーと教師の連携について理解する ⑦保護者対応の方法及び関係機関との連携の進め方について理解する (授業の概要) この授業では、教職に就く上で必要となる教育相談の理論及び方法に関する基礎的な知識・技法について学ぶ。具体的には、学校や教育場面で必要となるカウンセリングなどの相談・支援の技術を理解する。また、学校場面で教師が直面する課題のうち、「学級崩壊」、「いじめ」、「不登校」を取り上げ、その概要について理解を深めるとともに、保護者対応や関係機関と連携について学ぶ。これらの点を考慮し、授業は実践的な内容を盛り込みながら進める。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション～教育相談の理論及び方法を学ぶ意義～ 第2回 学校場面におけるカウンセリングの基礎～カウンセリングの原則～ 第3回 学校場面におけるカウンセリングの基礎～模擬カウンセリング～ 第4回 学校場面におけるカウンセリングの基礎～カウンセリングの基礎技術～ 第5回 「学級崩壊」へのアプローチ～概要の理解と実際～ 第6回 「学級崩壊」へのアプローチ～学級への対応と保護者対応～ 第7回 「学級崩壊」へのアプローチ～学校・学級システムおよび教師の成長～ 第8回 「いじめ」へのアプローチ～概要の理解と実際～ 第9回 「いじめ」へのアプローチ～教師にとっての「いじめ」・保護者対応～ 第10回 「いじめ」へのアプローチ～対応上の留意点・関係機関との連携～ 第11回 「不登校」へのアプローチ～概要の理解・保護者対応・関係機関との連携～ 第12回 「不登校」へのアプローチ～事例から学ぶ(行動療法的アプローチ)～ 第13回 「不登校」へのアプローチ～事例から学ぶ(投影法を用いたアプローチ)～</p>
授業の方法	<p>授業は基本的に講義形式で、教科書に沿って行われる。ひとつのテーマについて、3回程度をかけて学習する。カウンセリング関係の内容を扱う回では実習的な内容を取り入れる。学校での問題を扱う回では映像資料を用いる。学校が抱える問題についてどのように考えるか、受講者の意見を求め、適宜、グループワークを行って考える。このため、受講者の積極的な参加を必要とする。各回の授業の最後の15分程度の時間帯に、その日の授業内容に対する理解度を確認するための小レポートを作成して提出する。</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業終了時に、その回で扱ったテーマの理解を問う小レポートを課す(配点:60点)。学期末に最終レポート(配点:40点)を課す。これらの合計点により評価を行う。</p>
教科書	『教育臨床論－教師をめざす人のために－』(伊藤直樹編著, 批評社, 2009)
参考書	『子どもと教師のもつれ』(近藤邦夫著, 岩波書店, 1995年) 『心理療法のかんどころ』(村瀬嘉代子著, 金剛出版, 1998年) 『児童精神科ケース集』(小倉清著, 岩崎学術出版社, 2008年)
履修上の注意・備考	<p>遅刻をしないこと。</p> <p>教職科目として認定されているので、教員免許取得を意識して授業を進める。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照

科目番号	0999127	担当教員	恒吉 僚子、藤江 康彦		
単位数	3	学期	集中 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	集中(Int)
講義題目	教育実習 I Student Teaching I				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	事前指導は、3 月中旬に 2 日間連続で東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。なお、事前指導の一貫として、4 月から 5 月の間に東京大学教育学部附属中等教育学校にて授業見学を必ず行わなければならない。本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第 1 週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第 2 週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。事後指導は、教育実習終了時期により、7 月または 11 月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後 1 週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員 2 名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	履修に際しては個人による UT-mate からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習 (2 週間)

科目番号	0999128	担当教員	恒吉 僚子、藤江 康彦		
単位数	5	学期	集中 (2017/04/01-2018/03/31)	時限	集中(Int)
講義題目	教育実習 II Student Teaching II				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	事前指導は、3月中旬に2日間連続で東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。なお、事前指導の一貫として、4月から5月の間に東京大学教育学部附属中等教育学校にて授業見学を必ず行わなければならない。本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	履修に際しては個人による UT-mate からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習 (3週間以上)

科目番号	0999129	担当教員	細矢 和博、浅香 真弓、中村 高康、藤江 康彦、新藤 浩伸		
単位数	2	学期	A2 (2017/11/20-2018/01/28)	時限	金(Fri)5 [16:50-18:35]、金(Fri)6 [18:45-20:30]
講義題目	<b>教職実践演習(中・高)</b> Seminar on Professional Practice in Teaching				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>教職課程における「集大成」として位置づけられる演習であり、各履修者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために実施する。学校教育、特に中等教育のリーダーとなる教員の育成を目指し、文部科学省が含むべき事項と定める4事項(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項)の育成を図り、複雑な問題解決に対応できる判断力を培うための演習とする。内容は、以下の2つに大別される。① 討論をベースにした教職に関する現代的課題の理解: 現代的課題やその具体的事例についての講義を受講、あるいはビデオ(DVD)を視聴し、担任のコーディネートによりグループ討論及び全体討論を行う。② 授業の計画・実施・研究協議: グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。</p>
<b>授業計画</b>	
<b>授業の方法</b>	<p>教育学研究科教員と東大付属中等教育学校教員の連携協力のもとで実施される。4クラスに分けて行う。教職に関する現代的課題の理解については、担任がグループ、クラスでの討論をコーディネートして行う。授業の計画・実施・研究協議では、担任の指導のもと、グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。受講者には主体的・積極的な参加が求められる。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>演習に参加しての平常点(振り返りレポートの提出を含む)による。出席が重視される。</p>
<b>教科書</b>	<p>特に指定しない。</p>
<b>参考書</b>	<p>各回担当講師が紹介する情報を参考にされたい。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>教職実践演習を履修する年度末に、教育職員免許状を取得する見込み者又は教育職員免許状の取得に必要な単位の修得をすべて終える見込みの者が対象となる。履修登録は UT-mate によらず特別な方法で行うので、下記「関連ホームページ」にて各自確認のうえ遺漏のないよう注意すること。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

科目番号	0999201	担当教員	市川 伸一、植阪 友理		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	金(Fri)5 [16:50-18:35]
講義題目	教育心理 I Educational Psychology I				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】教育心理学的な視点を踏まえて、子どもの学習を理解し、支援することができるようになることを目指す。また、自らの学習や社会的な問題についても、教育心理学の視点から分析的に考えられるようになることを目指す。【概要】教育心理学の中でも、認知主義的な立場を中心に紹介する。具体的には、記憶や学び方といったテーマについて、従来の心理学ではどのようなことが明らかになっているのかを示したうえで、実際に個別学習や授業にどのように応用可能かについても授業では触れる。また、障害のある子どもへの支援についても取り上げる。</p>
授業計画	<p>4/7 第1回:ガイダンスと教育心理学における3つの立場[市川伸一・植阪友理] 4/14 第2回:学習のメカニズム(第1章)[植阪友理] 4/21 第3回:記憶の仕組み(第4章)[植阪友理] 4/28 第4回:心理学からみた効果的な覚え方(第5章)[植阪友理] 5/12 第5回:自立した学習を支える学び方①-学習方略(第6章)[植阪友理] 5/26 第6回:自立した学習を支える学び方②-メタ認知、学習観(第7章)[植阪友理] 5/30 第7回:やる気を促し、維持するために(第3章)[市川伸一・植阪友理] 6/9 第8回:心理学からやる気を分析する(第2章)[植阪友理] 6/16 第9回:心理学から個別学習相談のあり方を考える(別途資料配布)[植阪友理] 6/23 第10回:発達をみつめる枠組み(第8章)および「障害」の理解(第13章)[植阪友理] 6/30 第11回:心理学から授業のあり方を考える①(別途資料配布)[植阪友理] 7/7 第12回:心理学から授業のあり方を考える②(別途資料配布)[市川伸一・植阪友理] 7/14 第13回:期末テストおよび解説(総まとめ) *学習する内容は、変更になることがある。よく確認して予習を行うこと。</p>
授業の方法	<p>簡単な予習を課し、分かりにくい部分を中心に、授業で解説したうえで実際に学んだ知識を使いながら理解を深めるような活動をペアやグループで行ってもらおう。</p>
成績評価方法	<p>期末テストによって、授業全体の理解度を測定し、評価する。</p>
教科書	<p>『絶対役立つ教育心理学』(藤田哲也編, ミネルヴァ書房, 2007年)</p>
参考書	<p>授業時に適宜、指示する。また、必要に応じて資料として配布する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教室:駒場キャンパス 524 教室</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照</p>



科目番号	0999202	担当教員	下地 秀樹		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	木(Thu)5 [16:50-18:35]
講義題目	教育原理 Educational Principles				

授業の目的・概要	「人間は教育されねばならない存在なのか否か」というテーマをめぐり、参加者各人が自己の(被)教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を原理的に考える」第一歩である。遠回りのようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。
授業計画	授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のようなテーマを検討する。1. 人間のメルクマール 2. 人類化と人間化 3. 近代化の行方:イゾラド 4. 生命倫理を考える:エンハンスメント 5. 正常と異常を考える:野生児の事例 6. 近代学校の胎動と近代の人間観 7. 臨界期 8. 現代発達環境論 9. 発達と教育の基礎理論 10. 明治初期の教育 11. 戦時下の教育 12. 教育基本法 13. 戦後の中等教育制度 14. 学力観:PISAの構想 15. 現代の学校改革
授業の方法	基本的には講義形式であるが、ほぼ毎回、上記問題群に関わる小レポートまたは小テストを課す。その論述を相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。講義は、その結果を反映させながら構成する。「教職に関する科目」(教員免許取得のための必修科目)であるが、教員免許取得にいたるプロセスのベースとなる問題群について、あまり先を焦らずに考える時間としたい。
成績評価方法	学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、さらに相互批評を行う。どちらにするかは、授業中に受講者との相談により決定する。成績評価は、前記「授業の方法」欄に示した小レポートや小テストと、この総括テストまたは期末レポートを総合した平常点評価とする。敢えて配分を記すと、小レポートおよび小テスト 80%、総括テストまたは期末レポート 20%とする。
教科書	
参考書	堀尾輝久他編『地球時代の教育原理』(三恵社)。その他、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	この科目は教職に関する科目である(教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照

科目番号	0999203	担当教員	西野 真由美		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	月(Mon)5 [16:50-18:35]
講義題目	道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education				

授業の目的・概要	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の理論と実践についての理解を深め、道徳教育の視点で学校カリキュラムの全体を捉え、カリキュラムや授業を構想する力を育てることを目標にしています。
授業計画	以下のテーマに沿って、進めます。(1)学校における道徳教育の意義 学校で「道徳」を「教える」なんて無理、不可能。そんな道徳教育への疑問や疑念を出し合って検討したうえで、学校における道徳教育が何をめざすのかをもう一度確認しましょう。(2)日本における道徳教育の歴史 明治以降の学校教育が国民意識形成に与えた影響を道徳教育の視点で見直します。(3)道徳教育の理論 代表的な道徳教育理論を理解して教育実践に生かす方法を検討します。また、道徳の教科化に向け、「考え、議論する道徳」授業の実現に求められる指導法や評価に関する考え方を明らかにします。(4)現代の教育課題と道徳教育 キャリア教育、科学技術教育、情報教育など今日的なテーマに道徳教育でどう取り組むかを具体的に考え、授業案を構想します。
授業の方法	授業テーマに沿ったグループワークを中心に進めていきます。講義形式を進める場合も、グループワークやディスカッションでの意見を取り上げながら進めます。
成績評価方法	平常点(グループワークにおけるパフォーマンス)30%、レポート40%、試験30%で評価します。
教科書	講義テーマごとにレジュメを配布します。
参考書	参考文献はテーマ別に指示します。授業で配布するレジュメに提示した参考文献のなかから、一冊を選んでレポートを提出して下さい。
履修上の注意・備考	授業では、道徳教育をめぐる様々な問題にグループワークで取り組みます。そのため、授業は、話し合いをまとめながらテーマを深めていく協同探究が中心になります。必要な知識はレジュメや参考文献で補充しながら、最後は自分の問題意識を明確にしてレポートを作成してください。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照 教科又は教職に関する科目

科目番号	0999204	担当教員	滝 充		
単位数	2	学 期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時 限	火(Tue)6 [18:45-20:30]
講義題目	特別活動論 Extra-Curriculum Activity				

授業の目的・概要	本講義では、特別活動の本質とも言える「望ましい集団活動を通して」という方法原理を軸にしながら特別活動のあるべき姿を再確認し、これからの学校現場で求められる教師としての自覚と認識を高めることを目的とする。
授業計画	本講義では学生諸君の体験(主に中学校時)を批判的に検討するとともに、近年の新しい考え方や実践を紹介し、特別活動の望ましい実践について学んでいく。
授業の方法	特別活動という教科の性質も踏まえ、講義では話し合い(意見交換)を重視する。そのため、成績評価についても、下記の通り、出席点と発言点、小レポートによって行う。詳細については、講義の開始時に説明するので、可能な限り初回の講義には出席されたい。
成績評価方法	出席点、発言点、小レポート
教科書	テキスト:文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい
参考書	
履修上の注意・備考	この科目は、教職課程における「教職に関する科目」(特別活動の指導法)に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照

科目番号	0999205	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	月(Mon)6 [18:45-20:30]
講義題目	教師論 Teaching and Teacher Education				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】 1. 教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。 2. 教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に、その検討のための材料を提供する。 3. 教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む。【授業の概要】授業を通じて教員の職務内容とその特徴、教員にとっての学ぶことの意味、教員の服務と身分保障、教員養成の歴史、保護者・地域住民との関係づくり等について理解する。さらに、教員のライフコースに即して新採用教員、中堅教員、管理職教員の話を書く機会を設けることで、上記の理解を深めるとともに、教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に対して、その検討のための材料を提供する。</p>
授業計画	<p>第1回:イントロダクション 授業計画、参考書、評価方法の説明 第2回:教員の職務【キーワード やりがい、無境界性、不確実性、再帰性】 第3回:教員にとっての学ぶことの意味【キーワード 研修の権利と義務、同僚性、授業研究】 第4回:教員のライフコース【キーワード 初任期、中堅期、管理職期】 第5回:ゲストティーチャー(新採用教員) 第6回:教科指導の基礎【キーワード 教材研究、授業のデザイン、学習評価】 第7回:生徒指導の基礎【キーワード 子ども理解、コミュニケーション、カウンセリング】 第8回:教員の服務と身分保障【キーワード 身分上の義務、職務上の義務、ILO/ユネスコ教員の地位に関する勧告】 第9回:ゲストティーチャー(中堅教員) 第10回:教員養成の歴史と現代的課題【キーワード 師範学校、開放制教員養成、免許状制度】 第11回:保護者・地域住民との関係づくり【キーワード 開かれた学校づくり、信頼、説明責任】 第12回:ゲストティーチャー(管理職教員) 第13回:授業のまとめ ゲストティーチャーの都合等により、授業計画には変更がありうる。</p>
授業の方法	<p>毎時、授業でとりあげたトピックに関するグループ・ディスカッションの時間を設けるとともに、リアクションペーパーを記入して、内容理解の確認、深化を図るとともに振り返りを行う。</p>
成績評価方法	<p>講義で扱った内容に関する理解の確認を中心とする試験を行う。この試験の結果に授業への参加態度等を加味し、上記の到達目標を基準として総合的に評価する。</p>
教科書	なし
参考書	<p>佐藤学・秋田喜代美編著『新しい時代の教職入門』(有斐閣アルマ) 勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』(有斐閣)</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし 教室:駒場キャンパス 1313 教室</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照</p>

科目番号	0999206	担当教員	高井良 健一		
単位数	2	学期	集中 (2017/08/01-2017/09/07)	時限	集中(Int)
講義題目	教師論 Teaching and Teacher Education				

授業の目的・概要	<p>教師という職業は、生徒にとって身近な職業であるが、その仕事の奥行き—難しさと複雑さ—を正確に理解することはたやすいことではない。逆に、この職業は、身近であるがゆえにはじめからわかったつもりになる危険をはらんでいる。そして、現在、教師の仕事はますます重要になるとともに、困難さを増している。こうした状況の中で、教師を志す人たちが確かなヴィジョンをもち、学びの世界に踏み出せるように、この教職論の授業では、教師の世界を内側—教師による語り・教師のライフストーリー—と外側—教職の社会的位置づけ・社会的使命—から理解することをめざしている。また、授業のなかでは、受講生が主体となり、参加するセッションも取り入れる。公教育における教師の使命は、民主主義社会を担う他者への配慮に満ちた市民を育成することにある。自らもアクティブな市民であるとともに、他者への配慮に満ちた市民を育てるという使命をもった教師たちが、東京大学から巣立っていくことを期待している。なお、具体的な授業の到達目標及びテーマは次の通りである。 1. 教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。 2. 教職を将来の進路として真剣に検討している学生に進路選択のための材料を提供する。 3. 教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む</p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション—教師の仕事とは 第2回: 教師の新任期のとまどい—リアリティ・ショックと先輩教師からの学び 第3回: 教師の新任期の発達—イニシエーションとアイデンティティの形成 第4回: 教師の学びと研修—校内研修と教師の成長 第5回: 教師の学びと同僚性—授業研究と授業づくり 第6回: 教師の学びとキャリア・ステージ—中堅期の課題 第7回: 教師の生活時間とサービス—教師の一日、一週間、一年 第8回: 教師の精神的な報酬—感情労働と教師のやりがい 第9回: 世界の教師たち—イギリスの事例より 第10回: 世界の教師と 21 世紀の教育改革—フィンランドの事例より 第11回: 協働的な学習と教師の仕事の変容—学び合いを育てる教師 第12回: 教師のライフストーリー—教師の経験世界と時代 第13回: 教師のライフサイクル—教師の一生 第14回: 教師のミッションと歴史 第15回: 学びの振り返り 最終レポート</p>
授業の方法	講義、ビデオ視聴、グループ・ディスカッションのほか、個人発表、ワークショップなども取り入れる。
成績評価方法	授業への参加(個人発表・グループワーク・コメント・ミニレポート)70点と最終レポート30点で総合的に評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』(有斐閣) 高井良健一『教師のライフストーリー—高校教師の中年期の危機と再生』(勁草書房) 武田忠・伊藤功一『教師が変わるとき・授業が変わるとき』(評論社) 伊藤功一『校内研修』(国土社)
履修上の注意・備考	<p>この授業では、受講生が教室の前に出て、話をする機会や、ワークショップ形式の授業を行うこともある。教師を志す者として当然のことであるが、他の受講生や講師といった他者を尊重し、コミュニケーションに向けてひらかれることが求められる。これができない時は、受講を見直していただく場合があるので注意されたい。</p> <p>授業中の私語やスマートフォンの使用など、ほかの受講生の学びを妨げる言動は慎まれない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照

科目番号	0999207	担当教員	西島 央		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	火(Tue)4 [14:55-16:40]
講義題目	教育と社会 Education and Society				

授業の目的・概要	<p>学校教育は、政治、経済、歴史、文化などの社会的要因と関わり合っており、学校教育に対する理解を深めるためには、それらの要因との関係をふまえて捉えることが求められる。この授業では、教育と社会との関係について、制度的側面や経営的側面も含めたいくつかのテーマを取り上げて、主に教育社会学の考え方をいながら、その実態や背景を読み解き、学校教育に期待される役割と課題を整理していく。そのような作業を通して、教育という営みが単に「子どもに知識や技術を教える」だけのことではなく、社会のありようと深く関わっていることを理解すること、学校教育に関する諸問題を捉え、学校経営の改善に資するための複眼的で柔軟なものの方・考え方を身につけていくことを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション: 学校教育は社会とどのように関わっているのか/ 学校を制度的・経営的に捉えるとはどういうことか 第2回 受講生間での学校体験の共有(グループ討論) 第3回 なぜ学校は小・中・高・大に分かれているのか(グループ討論)(教育制度の発展①) 第4回 なぜ学校は小・中・高・大に分かれているのか(討論内容の共有と解説)(教育制度の発展②) 第5回 なぜ高校や大学に進むのに試験を受けるのか(グループ討論)(試験の社会的役割①) 第6回 なぜ高校や大学に進むのに試験を受けるのか(討論内容の共有と解説)(試験の社会的役割②) 第7回 なぜチャイムが鳴ったら席につかなくてはいけないのか(ヒドゥンカリキュラムの社会的役割①) 第8回 なぜ学校で音楽や美術を学ぶのか(ヒドゥンカリキュラムの社会的役割②) 第9回 なぜ朝ご飯を食べる子どもやピアノを習っている子どもは成績がいいのか(グループ討論)(教育機会と社会格差・教育格差①) 第10回 なぜ朝ご飯を食べる子どもやピアノを習っている子どもは成績がいいのか(討論内容の共有と解説)(教育機会と社会格差・教育格差) 第11回 男の子の教科・女の子の教科(学校の制度と教育活動①) 第12回 なぜ教室は左側に窓があるのか(学校の制度と教育活動②) 第13回 都会の学校・へき地の学校(学校の組織・経営と教育活動①) 第14回 なぜ校長のリーダーシップが期待されるのか(学校の組織・経営と教育活動②) 第15回 まとめ: 再び、学校教育は社会とどのように関わっているのか/ 学校を制度的・経営的に捉えるとはどういうことか</p>
授業の方法	<p>扱うテーマによって異なるが、講義のみの場合と、グループ討論を行い、翌週その討論内容をふまえて講義をする場合がある。なお、グループ討論を行う際は、そのための文献や資料を読んでくるのが前提になるので留意すること。</p>
成績評価方法	<p>複数回のグループ討論のまとめおよびアクションペーパー(50%)、学期末レポート(50%)</p>
教科書	<p>とくに指定しない。文献や資料等をまとめたプリントを授業時に毎回配布する。</p>
参考書	<p>苅谷剛彦他 2010『新版教育の社会学 &lt;常識&gt;の問い方、見直し方』(有斐閣アルマ) その他、授業に関連する参考文献は、必要に応じて適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>この科目は、教職課程における「教職の基礎理論に関する科目(教育に関する社会的、制度的または経営的事項)」である。</p> <p>教育職員免許法上の認定科目: ※4参照</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※4参照</p>

科目番号	0999208	担当教員	岩田 一正		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	水(Wed)5 [16:50-18:35]
講義題目	教育課程 Curriculum Studies				

授業の目的・概要	<p>授業の概要を述べれば、我々の学びを方向づけると同時に、我々の学びの軌跡自体でもあるカリキュラム・教育課程、特に日本のそれが、どのような特徴を有するものであるのかを批判的に検討することとなる。具体的には、以下のようなカリキュラムを巡る諸テーマを扱うことを予定している。カリキュラムという用語の歴史、学習指導要領の歴史の変遷(学校教育以外の領域との連関)、カリキュラムの具体的内容の選択基準、カリキュラム編成の方法と類型、総合的な学習の時間／総合学習、教育課程自体の評価(学力調査の実施方法)、ヒドゥン・カリキュラム(研究史、具体的な事例)、他国のカリキュラムなどである。授業の目標は、教職志望者がカリキュラムについての理解を深め、カリキュラムの具体的内容の選択基準や編成の方法と類型を批判的に検討し、またその検討を踏まえて自分なりにカリキュラムをデザインできる展望を持つことである。</p>
授業計画	<p>以下のように計画しているが、状況に応じて変更することがある。1. イントロダクション—カリキュラムという用語の歴史、カリキュラムを巡る諸争点 2. 学習指導要領の変遷1—1947年、1951年、1958年学習指導要領の特徴 3. 学習指導要領の変遷2—1968年、1977年、1989年学習指導要領の特徴 4. 学習指導要領の変遷3—1998年、2003年、2008年学習指導要領の特徴 5. 学習指導要領の変遷4—次期学習指導要領の特徴 6. 学力調査について—PISA、TIMSS、全国学力学習状況調査などの調査方法、学力問題の歴史、リテラシー、キー・コンピテンシー 7. 総合的な学習の時間／総合学習1—導入の経緯・理由、その後の展開 8. 総合的な学習の時間／総合学習2—映像資料の視聴、教育内容や学習テーマの選択 9. カリキュラム編成の方法・類型と教育内容・カリキュラムの具体的内容の選択基準 10. ヒドゥン・カリキュラム1—ヒドゥン・カリキュラムとは、研究の展開 11. ヒドゥン・カリキュラム2—ヒドゥン・カリキュラムの事例 12. 他国のカリキュラム1—学力調査・統計から見える各国の姿 13. 他国のカリキュラム2—アメリカと韓国のカリキュラム 14. 他国のカリキュラム3—イギリスとフィンランドのカリキュラム 15. まとめ</p>
授業の方法	<p>プレゼンテーション・ソフトを利用した講義。また、学生の教育課程に関する具体的な理解を促進するために、映像資料の視聴も行う。プレゼンテーション・ソフト・ソフトで利用するスライドはPDFファイル化したものを、下記の関連ホームページを通じて事前に配布するので、予め読んで授業に参加してもらいたい。</p>
成績評価方法	<p>基本的に試験によるが、受講生数によってはグループワークや小テストなどに取り組むことを考えている。また、映像資料を視聴した際にはコメントを書いてもらうこともある。したがって、成績は試験＋コメント(＋グループワーク、小テスト)で総合的に評価する。それぞれの配分については、授業の際に伝えることとしたい。</p>
教科書	『学習指導要領』各年度版
参考書	<p>Philip Jackson、Life in Classrooms、1968。Henry Giroux、Border Crossings、2nd ed.、2005。マイケル・アップル『右派の／正しい教育』(世織書房、2008年) 国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能1・2・3』(ぎょうせい) 同前『生きるための知識と技能4・5・6』(明石書店) ポウルズ、ギンタス『アメリカ資本主義と学校教育1・2』(岩波書店、1986-87年) ブルデュー、パスロン『再生産』(藤原書店、1991年) アラン・ブルーム『アメリカン・マインドの終焉』(みすず書房、1988年) E.D.ハーシュ『教養が、国をつくる。』(TBS ブリタニカ、1989年) ジェフ・ウィッティアー『教育改革の社会学』(東京大学出版会、2004年) 佐藤学・澤野由紀子・北村友人編著『揺れる世界の学力マップ』(明石書店、2009年) 天野正子編『新編 日本のフェミニズム 8 ジェンダーと教育』(岩波書店、2009年) 直井道子・村松泰子編『学校教育の中のジェンダー』(日本評論社、2009年) 生田久美子編著『男女共学・別学を問いなおす—新しい議論のステージへ—』(東洋館出版社、2011年) 北野秋男・吉良直・大桃敏行編『アメリカ教育改革の最前線』(学術出版会、2012年) 熊倉啓之『フィンランドの算数・数学教育』(明石書店、2013年) 友野清文『ジェンダーから教育を考える—共学と別学／性差と平等—』(丸善プラネット、2013年) 教育科学研究会編『学力と学校を問い直す』(かもがわ出版、2014年) 文部科学省『諸外国の教育動向 2015年度版』(明石書店、2016年) 同前『諸外国の教育統計』(2016年版) OECD『図表でみる教育 OECD インディケータ 2016年版』(明石書店、</p>

2016年) その他の参考文献は, 授業の際に提示する。

**履修上の注意・備考**

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照



科目番号	0999209	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	月(Mon)5 [16:50-18:35]
講義題目	教育の方法 Teaching Methods				

授業の目的・概要	<p>〔授業の目標〕 学校教育における「授業」について様々な視点から検討することを通して、学校教育や教室といった制度的な学習の場の特質、社会文化的な状況における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践を理解することをめざす。具体的には以下の通りである。 1. 学校教育における授業の特質について理解する。 2. 授業という営みの特徴、授業の構成要素、授業のデザイン、について理解する。 3. 授業における子どもの学習の特徴や支援の方法について理解する。 4. 専門家としての教師の知識の特徴、専門的発達について理解する。 5. 学校や教室とはどのような学習環境であるのか、教師はそこで何をすべきかについて考察する。 〔授業の概要〕 学校における教師の仕事の中心は授業の構想、実践、省察を通して子どもの学習を支援することである。この授業では、学校における授業の目的、授業の歴史や形態、授業のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取することができるのか、ということを追及していく。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 学校教育の目的と学力形成の課題 第3回 学校における学習の特質 第4回 授業を支える制度や文化 第5回 カリキュラムと授業 第6回 授業のコミュニケーションの特徴 第7回 授業のコミュニケーションと学習 第8回 学び合うコミュニティづくりとIT技術の活用 第9回 授業の構成要素 第10回 学習の理論 第11回 授業の理論 第12回 教師の知識と思考 第13回 教師の成長とライフ・コース</p>
授業の方法	<p>講義を中心に、適宜、受講者間のディスカッションを取り入れる。</p>
成績評価方法	<p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。「出席および授業中の課題」(60%)、「最終論述課題」(40%)によって総合的に評価する。ただし、出席が授業回数数の3分の2に満たない場合および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。</p>
教科書	<p>指定せず、授業中に資料を配付する。</p>
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』(放送大学教育振興会) 秋田喜代美・佐藤学(編著)『新しい時代の教職入門』(有斐閣) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』(岩波書店) 佐藤学『教育方法学』(岩波書店)</p>
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照</p>

科目番号	0999210	担当教員	寺崎 里水		
単位数	2	学期	S1S2 (2017/04/01-2017/09/20)	時限	月(Mon)6 [18:45-20:30]
講義題目	進路指導・生徒指導 Career Guidance and Pupil Guidance				

授業の目的・概要	学校教育における生徒指導、進路指導の意義を理解するとともに、今日の中学生、高校生を取り巻く環境についての視野を広げる。具体的には、個別のトピックをとりあげながら、標準的キャリアの揺らぎ、家庭環境の変化、多様性への対応、若者文化と学校文化の衝突などの学校をとりまく状況を理解し、実践に向けた基礎的な知識を獲得する。また、それらを通して生徒に向き合うための教育観、発達観、指導観を確立する。
授業計画	1 生徒指導・進路指導の意義と教育課程上の位置づけ 2 社会の変容と学校における生徒指導の変化①生徒理解 3 社会の変容と学校における生徒指導の変化②居場所づくり 4 教育問題への対応①:学校に行かない、行けない子ども 5 教育問題への対応②:性に関する諸課題 6 教育問題への対応③:非行・逸脱行動 7 教育問題への対応④:発達に課題のある子ども 8 教育問題への対応⑤:学校安全 9 進路指導・キャリア教育①:進学する、進学しない 10 進路指導・キャリア教育②:「やりたいこと」 11 進路指導・キャリア教育③:学習の量と質 12 進路指導・キャリア教育④:アルバイト、奨学金 13 学校と家庭・地域・関係機関との連携 14 地域・学校の多様性と進路指導・生徒指導 15 まとめ
授業の方法	授業の内容に関するプリントを配布し、それに沿った形で進める。講義形式を主体として、課題に応じてグループワークやDVD鑑賞を行う。その結果をコメントシートにまとめて提出してもらう。
成績評価方法	授業中のグループワークの成果や課題をまとめたコメントシート 40%、期末試験 60%。
教科書	とくに指定しない。
参考書	文部科学省『生徒指導提要』 授業内で適宜指示する。
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照

科目番号	0999211	担当教員	東海林 麗香		
単位数	2	学期	A1A2 (2017/09/21-2018/01/28)	時限	月(Mon)5 [16:50-18:35]
講義題目	教育相談I School Counseling I				

授業の目的・概要	<p>この授業では、教育相談の理論および方法に関する知識・技法について学びます。教育相談とは、児童生徒の自己および他者との関係に関わる様々な問題に、全ての教員が様々な場面でアプローチしようとするものです。つまり、すべての児童生徒を対象とし、すべての教師が行う教育活動です。またその対象には、児童生徒のみならず彼らに関わる者たち(保護者や教師など)も含まれます。このように考えると、カウンセリングなど個別の相談・支援に関する知識・技法だけでなく、校内での教師間の連携、外部の専門家および機関との連携が必要になってきます。そのためには、学校組織体制に関する理解や外部機関についての知識も必要となります。このようなことから、この授業における到達目標を以下のとおり設定します。(1)学校における教育相談の基礎的知識・技能を習得する。(2)児童生徒を理解する意義を理解し、その方法を習得する。(3)学校の組織体制および関係者・関係機関についての知識を得る。その上で、連携の具体的方策について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション、授業全体の前提事項の説明 第2回:学校教育相談の意義と特徴 第3回:学校教育相談における今日的課題 第4回:学校における子ども理解の方法(アセスメント含む) 第5回:教師による教育相談 第6回:カウンセリングの基礎 第7回:カウンセリングの技法 第8回:校内の連携と協働, コンサルテーションおよび外部との連携 第9回:不登校の実際と支援 第10回:いじめの実際と支援 第11回:発達障害の実際と支援 第12回:保護者や家族に関わる問題の実際とその支援 第13回:修了試験・まとめ ※オリエンテーションの際に、受講生の習得知識や授業内容への希望および授業への期待を尋ねるアンケートを行います。それによって授業計画が多少変更する可能性があります。その場合は、第2回の授業時に新しい授業計画をお知らせします。</p>
授業の方法	<p>授業は基本的に講義形式で、パワーポイントによる資料提示および配布資料に沿って行われます。教育相談の技法を扱う回では、ロールプレイ等の実習的内容が加わります。また、グループディスカッション等のグループワークが加わることもあります。全ての回で、授業内の15分程度を用いて小レポートの作成を求めます。課題意識の掘り起こしや授業内容に対する理解度の確認等、その目的は回によって異なります。</p>
成績評価方法	<p>以下の合計により評価を行います。(1)全ての回で、授業内の15分程度を用いて小レポートの作成を求めます(配点40点)。(2)学期末に試験を行います(配点:60点)。</p>
教科書	なし
参考書	オリエンテーションで紹介します。また、授業内でも適宜紹介します。
履修上の注意・備考	<p>(1)小レポートの課題は、授業冒頭で提示することもあります。また、グループワーク等の活動が加わる場合もありますので、遅刻はしないこと。(2)配布資料はその回にしか持参しませんので、欠席した場合も各自で責任をもって確保してください。</p> <p>教職科目として認定されているため、教員免許取得を意識して授業を進めていきます。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照